CipherLab
Reference Manual

RK25 モバイルコンピュータ

Android7.0, **Nougat**

バージョン 1.00

Copyright © 2019 CIPHERLAB CO., LTD.

All rights reserved

ソフトウェアには所有者の専有情報が含まれています。

それは、使用および開示に関する制限を含むライセンス契約内で提供され、また、著作権法により保護されています。ソフトウェアのリバースエンジニアリングは禁止されています。

継続的な製品開発のため、この情報は予告なしに変更されることがあります。

本書に含まれる情報および知的財産は、所有者とクライアントの間の機密であり、所有者の独占的な財産です。 ドキュメンテーションに問題がある場合は、書面で当社にお申し出下さい。この文書は所有者にエラーがないことを保証するものではありません。

当社の書面による事前の許可なく、本書のいかなる部分を複製、検索システムへの保存は禁じています。

または電子的、機械的、複写、録音などのいかなる形式または手段によっても送信することはできません。

製品コンサルタントおよびテクニカルサポートについては、販売代理店にお問い合わせください。

さらに詳しい情報は当社のウェブサイトをご覧ください。

すべてのブランド、ロゴ、製品とサービス、および商標名は、登録された所有者の財産です。

Google、Google Play、Android、YouTube、その他の商標は、Google Inc の商標です。

これらの名称の編集上の使用は、これらの所有者の利益と同様に識別のためのものであり、権利の侵害を意図するものではありません。

CIPHERLAB のロゴは CIPHERLAB CO., LTD の登録商標です。 他のすべてのブランド、製品およびサービス、および商標名は、登録された所有者の財産です。 これらの名前の編集上の使用は、権利侵害の意図なしに、所有者の利益だけでなく識別のためです。

CIPHERLAB CO., LTD.
Website: http://www.CipherLab.com

重要なお知らせ

米国向け

本装置は、FCC 規則のパート 15 に準拠したクラス B デジタル装置の制限に準拠しています。
これらの制限は、居住用の設置で有害な干渉から適切な保護を提供するように設計されています。
本装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、放射する可能性があり、指示に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。 ただし、特定の設置環境で干渉が発生しないという保証はありません。 この機器が無線やテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合（機器の電源を入れ直して判断できます）、次のいずれかの方法で干渉を是正するようにしてください。

- 受信アンテナの方向を変える。
- 装置と受信機の間隔を広げる。
- 装置を、受信機が接続されている回路とは別の回路のコンセントに接続します。
- 販売店または経験豊富な無線/テレビ技術者に相談してください。

本装置は FCC 規定パート 15 に準拠しています。操作は次の 2 つの条件に規制されます： (1) 電波障害を起こさないこと (2) 誤動作の原因となる電波障害を含み、受信されたすべての電波障害に対して正常に動作すること。

FCC 注意：
コンプライアンスの責任者から、明に承認されていない変更や改造は、本装置を操作するユーザーの権利を失う可能性があります。

適切な情報は以下を参照して下さい。
セットアップ → 電話 → 法規制の情報

FCC 規制に適合のマーク

家庭あるいはオフィスでの使用に対して。

レーザ使用機器

- このレーザーコンポーネントは、リーダー読み取り部から FDA / IEC クラス 2 レーザ光を直視しないでください。
- ビームを目に向けないでください。
- 指定された以外の調整は、危険なレーザー光の暴露に繋がる可能性があります。

使用環境

- 周囲温度が-20℃～50℃、湿度範囲 10%～90%でモバイルコンピュータを動作させてください。
- -30℃～70℃の周囲温度および 5%～95%の湿度範囲でデバイスを保管してください。
- 周囲温度が 0℃～35℃の範囲でデバイスを充電してください。
- このデバイスは、保護クラス IP65 に準拠した防塵および防滴構造で製作されています。

比吸収率 (SAR) について

本装置は通常の環境下で、FCC / Canada ポータブル RF 暴露規制に準拠するものです。
マニュアルに記載の方法で操作されれば安全です。
本装置を体から離し、低出力で操作することにより電波にさらされることを低減できます。
携帯して使用する場合は、金属をを使用していないベルトクリップやホルスターその他のアクセサリーを使い身体から少なくとも 10mm離して使用して下さい。

- FCC SAR 値 (標準値は 1.6 W/Kg)
- USA (1g): Max. 0.52 W/ Kg

ヨーロッパでは携帯使用の際、デバイスを体から最低 0.5 ㎝話して使用することが要求されます。
これらの要求を満たすためには、サードパーティーから提供されるベルトクリップ、ホルスター、
同様なアクセサリーはいかなる金属を使用していないことが必要となります。
これらの要件を満たしていないアクセサリー類は上記の要求を満たさず、使用できません。

- CE SAR 値(標準値 2 W/Kg)
- EU (10g): Max. 1.03 W/Kg
- 台灣 NCC 注意事項
  第十二條 經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。
  第十四條 低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。
  前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。
  低功率射頻電機需忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。
  註：若要減少電磁波影響，請妥適使用。SAR 標準值 2.0W/Kg；送測產品實測值為：0.882W/Kg。

安全上のご注意

警告

聴覚障害を防ぐため、高音量で長時間の使用を避けて下さい。

正しくないタイプのバッテリーに交換された場合、爆発の危険性があります。
使用済のバッテリーはインストラクションに従って廃棄して下さい。

使用者の安全のため

- 聴覚障害を防ぐため、高音量で長時間の使用を避けて下さい。
- 歩行中やサイクリング、車の運転中での使用しないで下さい。

機器に対して

- サイファーラボが販売または製造していないバッテリー、または充電器を使用しないでください。
- 発熱、火災、爆発の危険を避けるため、バッテリーを誤ったタイプに交換しないでください。
- バッテリーを分解、焼却または短絡させないでください。
- バッテリーパックの接触ピンに触れないでください。
- モバイルコンピュータまたはバッテリーを可燃性のものにさらさないでください。
- モバイルコンピュータを極端な温度にさらしたり、水に浸したりしないでください。
- スクリーン面に尖ったものや鋭いものを押し付けないでください。
- タッチスクリーンに傷が付かないように、CIPHERLAB CO., LTD が提供または承認していないスタイラスを使用しないでください。
- タッチスクリーン上に水分が残ると、異常な動作や感度レベルの低下を引き起こすことがあります。
- ターミナルの表面とバーコードの読み取りウィンドウでは、低温による霧や水滴がバーコードの読み取りに影響することがあります。
- 漂白剤やクリーナーを使用してデバイスを掃除しないでください。 代わりにきれいな濡れた布を使用してください。

電波に関する注意

- 本装置は電波法に基づく工事設計を受けた無線設備を内蔵しています。
- 本装置を分解したり、本装置の内部に触れたりすることは電波法で禁止されており、
  法律で罰せられることがあります。
  故障の際の内部点検、調整はお買上の販売店にお任せください。

本装置を下記のような状況でご使用になることはおやめください。

- 心臓ペースメーカーや医療機器の近くで、本装置をご使用にならないでください。
  医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本装置をご使用にならないでください。
  電子レンジによって本装置の無線通信への電磁妨害が発生します。

この装置の低周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この装置を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社営業担当にご連絡頂き、通信回避のための処置など（例えば、パーテーションの設置など）についてご相談ください。
- その他、この装置から移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきた時は、販売店営業担当へお問い合わせください。

バッテリー

- メインバッテリーは、出荷時に完全に充電されていない場合があります。
  最初にモバイルコンピュータを使用する前に、メインバッテリーをフルに充電してください。

- **メインバッテリー**
  メインバッテリーがモバイルコンピュータの電源を供給して動作します。
  空のメインバッテリーをフル充電するのに約 4 時間かかります。
  充電中は画面上部の充電 LED が赤く点灯し、充電が完了すると緑色に変わります。
  メインバッテリーを取り外すしても、RTC の保持は少なくとも 30 分間維持されます。

- **バックアップバッテリー**
  バックアップバッテリーはメインボードに取り付けられています。 その役割は、メインバッテリーが停止している時にディーラムのデータが保持出来るように、モバイルコンピュータを一時的に停止状態に保つことです。 バックアップバッテリーは、メインバッテリーまたは電源アダプタを使いフル充電するまでに約 3.5 時間かかります。
- 最高の性能を得るには、室温（18℃～25℃）でバッテリーを充電することをお勧めします。
- 周囲温度が 0℃以下または 40℃を超えると、バッテリー充電が停止します。
- バッテリーが消耗してからシステムがシャットダウンするのを防ぐため、交換のために新しい電池を常に保管しておくか、またはモバイルコンピュータを外部電源に接続してください。
- デバイスまたはバッテリーパックに水滴やほこりが付着している場合は、バッテリーを交換する前に柔らかいきれいな布で拭き取ってください。
- バッテリーを交換する前に電源を切って下さい。
- モバイルコンピュータを一定期間放置しておきたい場合は、モバイルコンピュータのバッテリーコンパートメントからバッテリーパックを取り出します。
- モバイルコンピュータとバッテリーパックを別々に保管してください。
- グリーン環境問題においての適切な方法でバッテリーをリサイクルして下さい。

スキャナー

- **1D バーコードのスキャン**

1) リーダーコンフィグを開き、メニューバーの[スキャンテスト]をタップします。
2) 読取口をバーコードに向けて読み取ります。
   スキャニング領域の中央にバーコードが位置するようにデバイスを移動します。
3) 側面両サイドのトリガーのいずれかを押します。 スキャンされた光線は、印刷されたバーコードを読み取ります。 スキャン後、ブザー音が鳴ります。 データが読み取りされると、または読み取りタイムアウト期間が経過したときにスキャンライトは消灯します。

- **2D バーコードのスキャン**

1) リーダーコンフィグを開き、メニューバーの[スキャンテスト]をタップします。
2) 読取口をバーコードに向けて読み取ります。 スキャニング領域の中央にバーコードが位置するようにデバイスを移動します。
3) 側面両サイドのトリガーのいずれかを押します。 スキャンされた光線は、印刷されたバーコードを読み取りまする。 スキャン後、ブザー音が鳴ります。 データが読み取りされると、または読み取りタイムアウト期間が経過したときにスキャンライトは消灯します。

接続

Bluetooth またはワイヤレス LAN 経由

- モバイルコンピュータが他の無線機または電源ケーブルの周りにあると、その無線周波数が干渉を引き起こす可能性があるため、接続が失敗することがあります。
- 通信が失敗した場合は、デバイスを互いにもっと近くに移動し、再度通信を試みます
- オンにすると、モバイルコンピュータがサスペンドされていても Bluetooth の電力が維持されます。
- ただし、電源モードを機内モードに切り替えると、設定に関係なく Bluetooth の電源がオフになります。

充電クレードルへ

- デバイスに水や水滴が付着している場合は、モバイルコンピュータを充電クレードルに挿入しないでください。
- 充電クレードルの LED インジケータは、バッテリーの充電状態のみを表示します。
  端末の充電状態が端末自体に表示されます。
- 充電できない場合、バッテリーが損傷している、バッテリーがコネクタに正しく接触していない、AC プラグが外れているなどの可能性があります。
- バッテリーの温度が高と充電中にエラーが発生する可能性があります。

メンテナンス

- 本モバイルコンピュータは工業的な使用環境を考慮して設計されています。
  モバイルコンピュータの定格は IP65 ですが、極端な温度にさらされたり水に浸かったりすると、
  モバイルコンピュータに損傷を与える可能性があります。
- モバイルコンピュータの本体が汚れたら、きれいな濡れた布でほこりやほこりをふき取ってください。
  漂白剤や洗剤は使用しないでください。
- 清潔で磨耗しない糸くずの出ない布を使用して、LCD タッチスクリーンのほこりを拭き取ってください。
  表面に尖ったものや鋭いものを使用しないでください。 LCD を常に乾燥させてください。
- 端末を一定時間放置する場合は、収集したデータをホストコンピュータにダウンロードし、
  モバイルコンピュータのバッテリーコンパートメントからバッテリーパックを取り出します。
  モバイルコンピュータとバッテリーパックを別々に保管してください。
- モバイルコンピュータで誤動作が発生した場合は状況を書き留め、営業担当者にご相談をお願いします。

リリースノート

バージョン	日付	ノート
1.00	2019 年 2 月 15 日	初版リリース

目次

重要なお知らせ ..... - 1 -
米国向け ..... - 1 -
レーザ使用機器 ..... - 2 -
使用環境 ..... - 2 -
比吸収率 (SAR) について ..... - 2 -
安全上のご注意 ..... - 3 -
電波に関する注意 ..... - 4 -
バッテリー ..... - 5 -
スキャナー ..... - 5 -
接続 ..... - 6 -
メンテナンス ..... - 6 -
リリースノート ..... - 7 -
はじめに 13
特長 14
梱包パッケージに含まれるもの 14
アクセサリー 14
関連するドキュメント 14
クイックスタート 15
1.1. 外観 16
1.1.1. バッテリーの挿入と取り外し 18
1.1.2. SAM カードとメモリーカードの挿入 21
1.1.3. モバイルコンピュータの電源 On/Off 23
1.1.4. ホーム画面の選択 24
1.1.5. ハードウェアボタンを使用する 25
1.1.6. ヘッドセットの接続 26
1.2. 通信と充電 27
1.2.1. モバイルコンピュータの充電 27
1.2.2. ケーブルでの通信 34
1.2.3. 無線ネットワークを使う 35
RK25 モバイルコンピュータを使う 36
2.1. バッテリー 37
2.1.1. バッテリー状態インジケータ 38
2.1.2. バッテリーレベルモニター 40
2.1.3. メインバッテリーの交換 46
2.1.4. 電源管理 49
2.1.5. バッテリー予防措置 51

2.2. メモリー 52
2.2.1. メモリーの使用状況をチェック 53
2.2.2. ストレージスペースの管理 54
2.3. タッチスクリーン 62
2.3.1. スクリーンの明るさ 62
2.3.2. スクリーンの回転 63
2.3.3. スクリーンタイムアウト設定 67
2.3.4. フォントサイズ 68
2.3.5. 画面サイズ 69
2.4. 通知 70
2.4.1. 通知 LED 70
2.4.2. オーディオ 71
2.4.3. サウンドとバイブレーション 71
2.5. 日時の設定 74
2.6. 言語とキーボード入力 75
2.6.1. 画面の言語 75
2.6.2. オンースクリーンキーボード 77
2.7. ハードキーパッド 88
2.7.1. 基本キー 88
2.7.2. 英字キー 89
2.7.3. シフトキー 90
2.7.4. 異なるモードでのキーの機能 91
2.7.5. キーパッドロック 92
2.7.6. エンタープライズ キーパッド モード 93
2.7.7. キーパッドバックライト 97
2.8. サウンドと音量 98
2.9. データ取り込み 99
2.9.1. バーコードリーダー 99
2.9.2. デジタルカメラ 99
基本操作 100
3.1. ホームスクリーン 101
3.1.1. ホーム画面のカストマイズ 103
3.2. ステータスバー 114
3.2.1. ステータスバー上のアイコン 115
3.2.2. クイック設定メニューを開く 117
3.2.3. 通知一覧を開く 120
3.3. アプリケーション管理 122
3.3.1. アプリケーションメニュー 122
3.3.2. 最近使用したアプリ 125
3.4. サスペンドとロック 126
3.4.1. 端末をサスペンド 126
3.4.2. デバイスをロック 127
3.5. OS のアップデート 129

3.6. データのバックアップ 131
3.7. データの初期化 132

ワイヤレス無線 135

4.1. ワイヤレス広域ネットワーク（WAN）を使う 136
4.1.1. WWAN データを共有 138
4.1.2. データ接続設定 144
4.1.3. SIM カードの設定 145
4.2. ワイヤレス LAN (Wi-Fi)を使う 146
4.2.1. Wi-Fi ネットワークへの接続 146
4.2.2. 手動で Wi-Fi ネットワークを追加する 147
4.2.3. Wi-Fi 詳細設定 148
4.2.4. Wi-Fi の設定 149
4.2.5. Proxy サーバーの設定 150
4.2.6. 固定 IP アドレスを使う 150
4.2.7. WPS で接続 150
4.2.8. Wi-Fi ネットワークを変更 151
4.2.9. Wi-Fi ネットワークを切断 151
4.3. Bluetooth を使用する 152
4.3.1. Bluetooth プロファイル 152
4.3.2. Bluetooth を ON 153
4.3.3. BLUETOOTH の名前の変更 154
4.3.4. Bluetooth 端末のペアリング 155
4.3.5. Bluetooth 端末の切断 155
4.4. Near Field Communications（NFC）を使う 156

電話をかける 159

5.1. SIM カードマネージメント 160
5.2. 電話アプリ 163
5.2.1. 電話インターフェース 163
5.2.2. 電話をかける 165
5.2.3. 通話中の操作 166
5.2.4. 電話を受ける 168
5.2.5. 不在着信をチェック 169
5.2.6. 通話履歴 170
5.2.7. 通話設定 171
5.2.8. グループ通話 171
5.3. オーディオモード 172
5.4. 通話音量の調整 173

リーダー設定ユーティリティー 174

6.1. リーダーの設定 175
6.1.1. 一般設定 176
6.1.2. バーコードシンボル 182
6.1.3. その他 184
6.1.4. リーダー設定のオプションメニュー 185

6.2. 印刷されたバーコードの読み取り 192
仕様 194
プラットフォーム、プロセッサ、メモリー 194
通信、データ取得 195
電気的特性 196
物理的特性 196
環境特性 197
プログラミングサポート 198
APPENDIX I 199
スキャンエンジン設定 199
サポートしているバーコードシンボル 199
APPENDIX II 202
2D イメージャー 202
シンボルの設定 202
APPENDIX III 213
Open Source License 213

はじめに

Android 7.0 Nougat を搭載した RK25 モバイルコンピュータは、軽量で使いやすく、お客様のお困りごとを解決するソリューションを提供します。

RK25 は豊富なオプションのデータ収集機能、音声とデータの通信機能、長時間の稼働条件を考慮し産業用 PDA として特別に開発されたものです。

大型の透過型ディスプレイは、あらゆる照明下での読み取りを容易にします。

Bluetooth v4.1、v2.1 + EDR、802.11a / b / g / n/ac 技術とともに、モバイルコンピュータ GSM / GPRS / EDGE / WCDMA / UMTS / HSDPA / HSUPA / HSPA + /LTE モジュールが搭載されており高速性と最適な可搬性を備えています。

GPS 受信機は、サードパーティのロケーションベースのアプリケーションの使用を可能とします。

本マニュアルは、モバイルコンピュータのインストール、設定、および操作方法をガイドするものです。

参照やメンテナンスのためにマニュアルのコピーをお手元に置いておくことをお勧めします。

不適切な操作を避けるため、使用の前にマニュアルをよくお読みください。

特長

- IP65 に準拠した防滴・防塵性能の堅牢設計。
- Android 7.0 Nougat オペレーティングシステム、Cortex 1.45 GHz Quad-Core プロセッサー搭載
- OS およびソフトウェアプログラム格納のための 16GB eMMC フラッシュメモリー
- プログラムの保存と実行、プログラムデータの格納用 2GB LPDDR3 SDRAM
- 最大32GB の microSDHC カードスロットおよび最大64GB の microSDXC カードスロット搭載
- 白色 LED フラッシュ、オートフォーカス、8メガピクセルのリアカメラ内臓
- 左右どちらからでもスキャンできるよう本体左右側面にトリガー配置
- 完璧なワイヤレス接続 — Bluetooth Class II, v4.1 v2.1+EDR, 802.11 b/g/n, 802.11 a/ac/n networking, GSM/GPRS/EDGE/WCDMA/UMTS/HSDPA/HSUPA/HSPA+/LTE, near field communication (NFC)
- ＊NFC は RK25J には搭載されておりません。
- 4.0 インチ LCD, Corning Gorilla Glass 3, 480x800 ピクセルの画面で高精度な視認性を実現
- 設定可能なフィードバックインジケータ、スピーカーとバイブレータ
- スキャンエンジン設定ツール”Reader Configulation”とキーボードウェッジ機能設定

梱包パッケージに含まれるもの

以下のものが梱包パッケージに含まれています。

モバイルコンピュータの保管または発送用に箱と梱包材を保管して下さい。

- RK25 モバイルコンピューター
-
- スナップオンケーブル
- AC 電源アダプター
- ハンドストラップ
- クイックスタートガイド

アクセサリー

- 1 スロット 充電＋通信クレードル
- Micro USB ケーブル

関連するドキュメント

GoBetween にログインし CipherLab Central Service (CCS)から RK25 モバイルコンピュータに関連するドキュメントにアクセス。

GoBetween デスクトップ、モバイル端末アプリケーション、GoBetween ライト web アプリケーション を下記のサイトからダウンロードして下さい。

http://ccs.cipherlab.com/

第 1 章

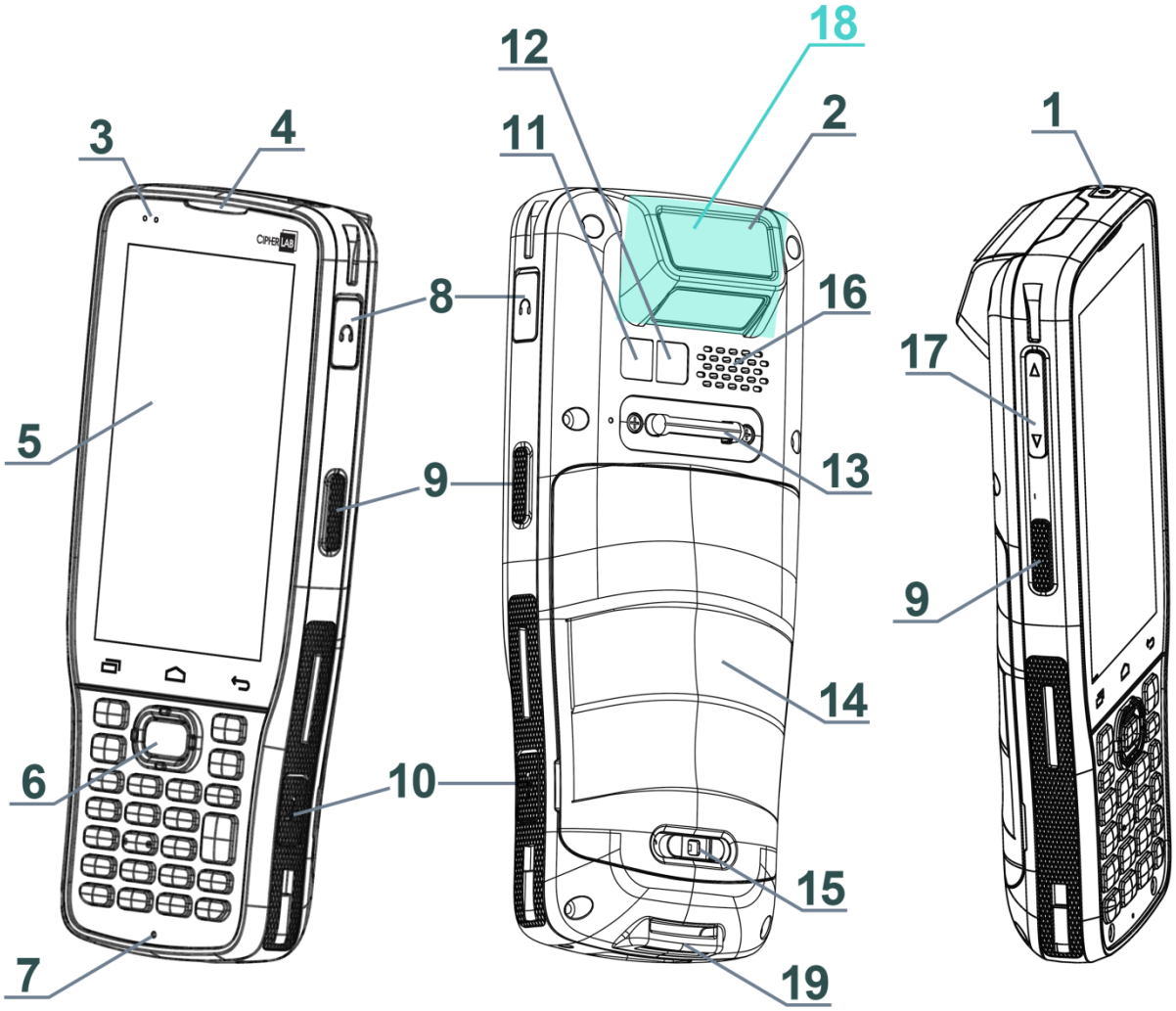
クイックスタート

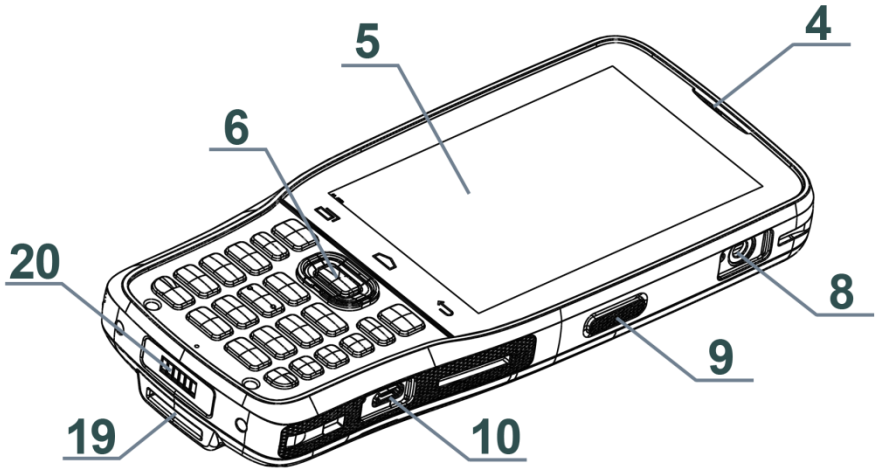
この章では、モバイルコンピュータの使用を開始する準備を記載しています。

この章の内容

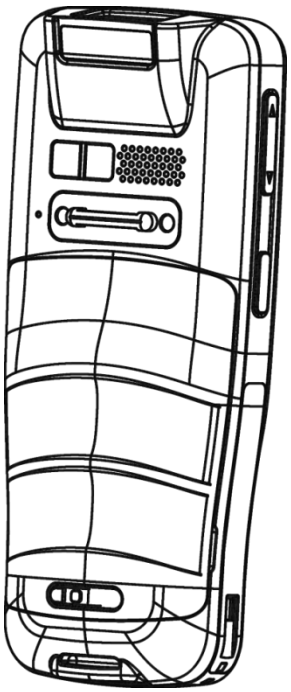
1.1 外観 16
1.2 通信と充電 27

1.1. 外観

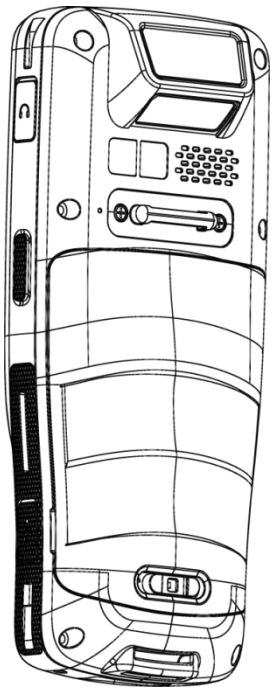




No.	説明	No.	説明
1	電源ボタン	2	読取口
3	LED インジケータ	4	レシーバー
5	タッチスクリーン	6	スキャンキー
7	マイクロフォン	8	ヘッドセット用ジャック
9	サイドトリガー	10	Micro USB ポート
11	カメラ	12	カメラフラッシュ
13	ハンドストラップ取付穴	14	バッテリー
15	バッテリーカバーラッチ・ロック	16	スピーカー
17	音量ボタン	18	NFC 検知領域
19	ハンドストラップ取付穴	20	充電・通信ピン



10 度下向き読取モデル



70 度下向き読取モデル

注意:

1) **70 度下向き読取モデル(RK25J)は NFC 機能をサポートしていません**

2) **10 度下向き読取モデルには1つの SIM スロットと1つの SIM/SAM スロット(オプション)が、70 度下向き読み取りモデルには2つの SIM スロットがそれぞれ装着されています**

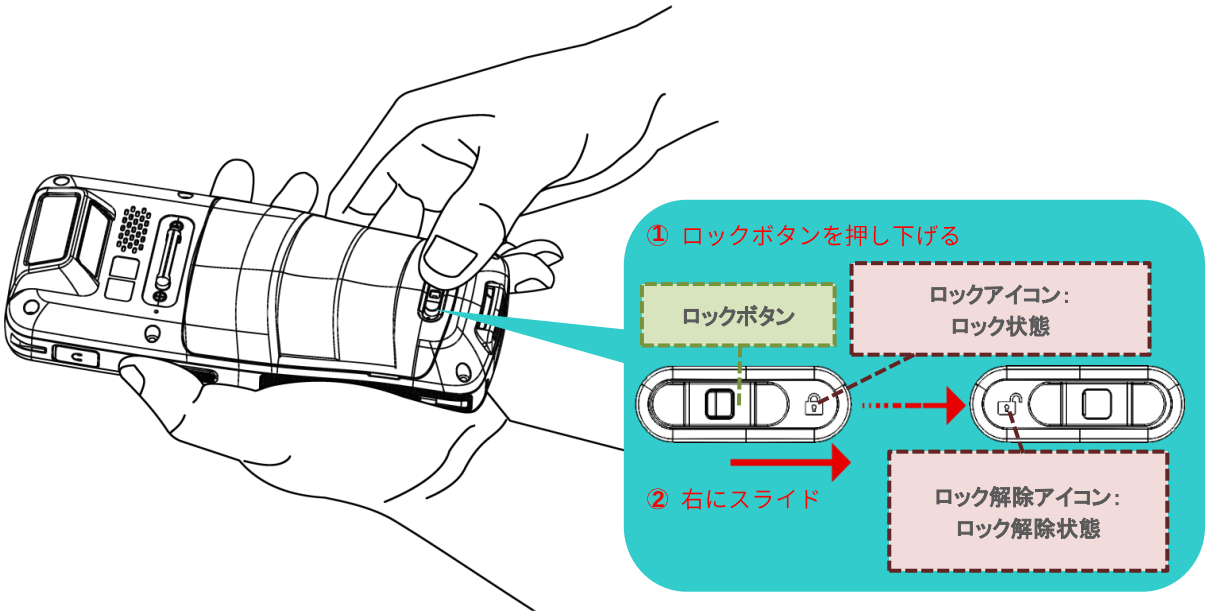
1.1.1. バッテリーの挿入と取り外し

出荷と保管のためにバッテリーは本体と分けて別々にパッケージされています。

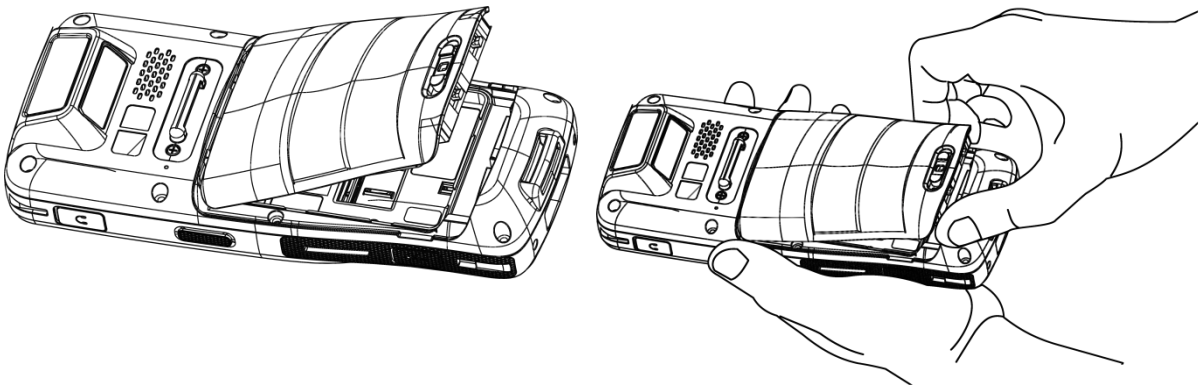
注意:
不適切な取り扱いにより、バッテリーの寿命が短くなる可能性があります。

メインバッテリーの取り付け

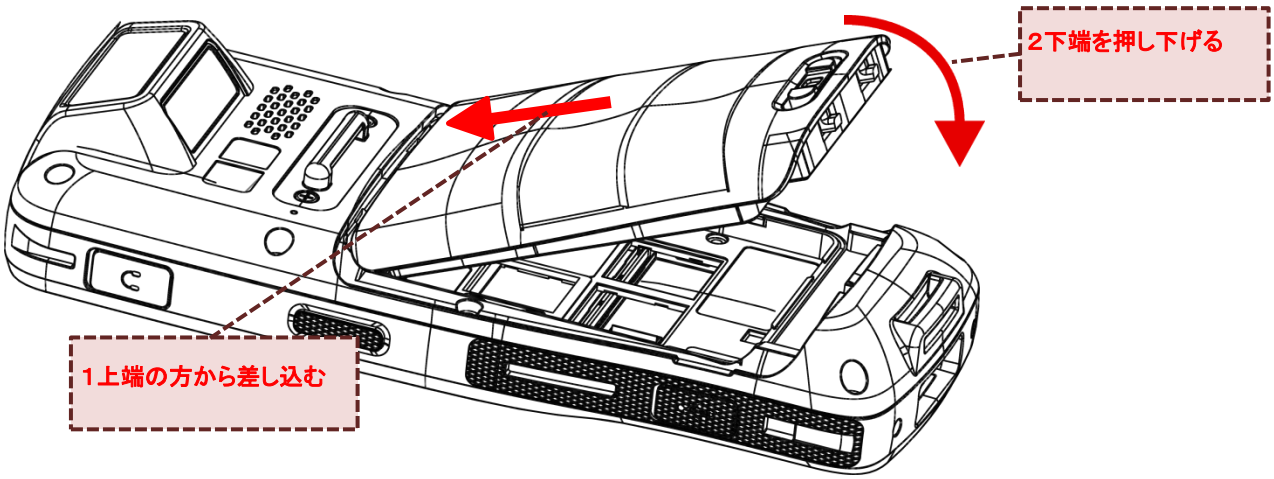
1) ロックボタンを押しながらバッテリーラッチを右にスライド。



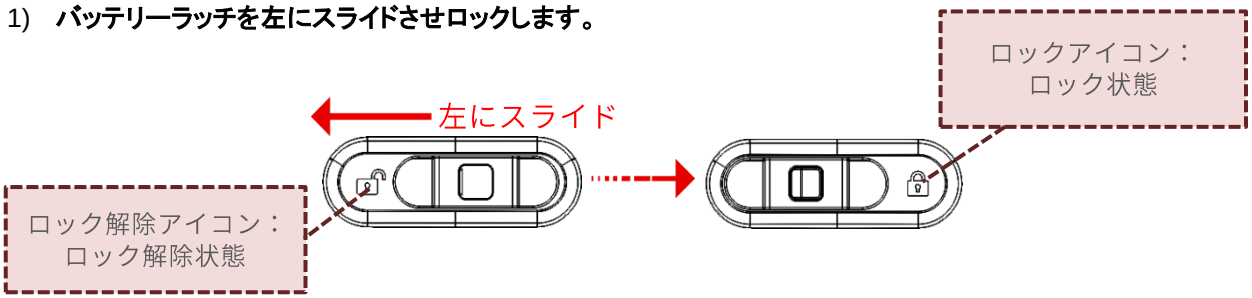
2) バッテリーカバーがわずかに持ち上がります。
バッテリーカバーの両側を押さえて、メインバッテリー(カバーと一緒に)を下端の方から持ち上げ取り外します。



3) フル充電したメインバッテリーの上端の方から先に差し込み、その後下端部を押し込みます。



1) **バッテリーラッチを左にスライドさせロックします。**



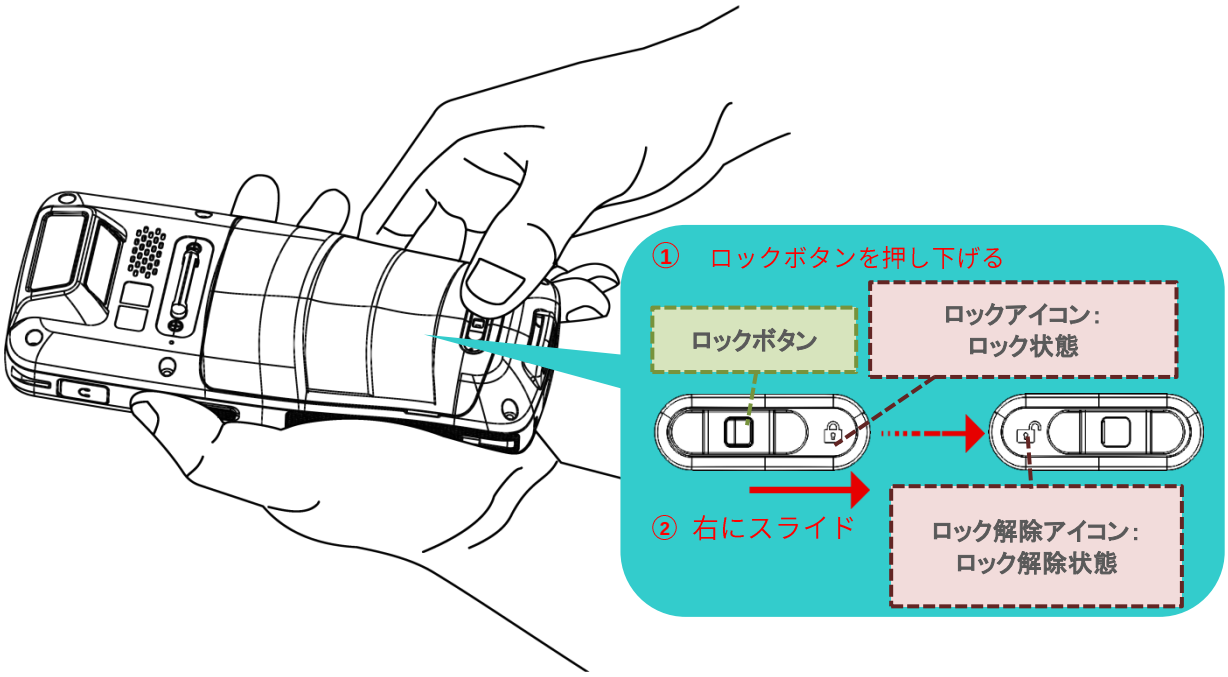
警告:

本体の電源を入れる前にバッテリーラッチがロックされているか確認して下さい。

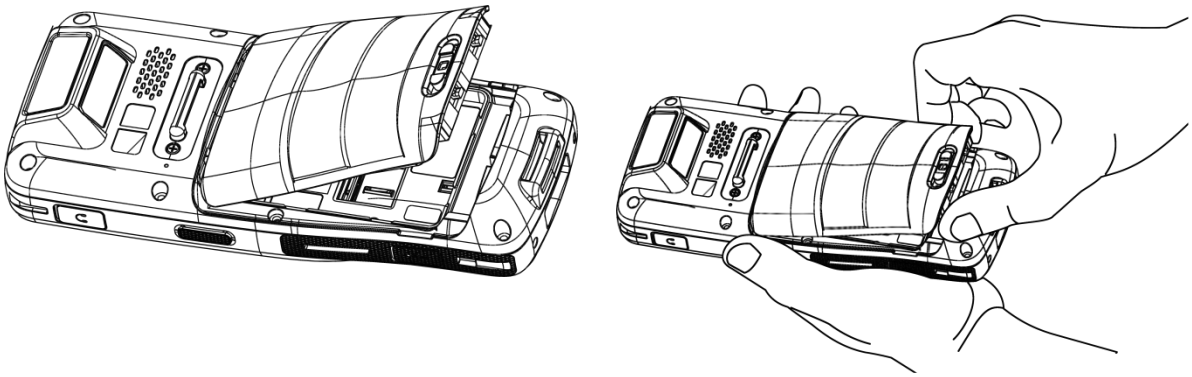
初めてご使用の場合には、充電されたバッテリーを挿入し、バッテリーカバーをロック後、本体の電源を入れて下さい。

バッテリーの取り外し

1) ロックボタンを押しながらバッテリーラッチを右にスライドします。



2) バッテリーカバーが開くとわずかに持ち上がります。
バッテリーカバーの両端を押さえてメインバッテリー（バッテリーカバーと一緒）の下端を持ち上げて取外します。



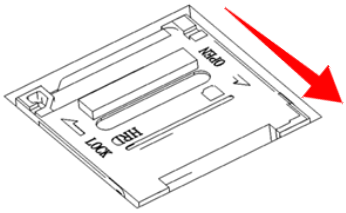
1.1.2. SAM カードとメモリーカードの挿入

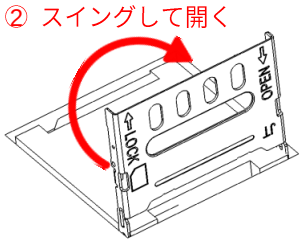
RK25 モバイルコンピュータは 2 個の SIM カードスロット（SIM2 スロットは SAM カード対応）と 1 個のメモリーカードスロットを備えています。

カードの挿入：

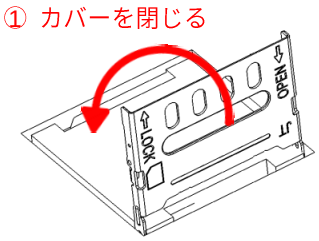
1) バッテリーを取り外します。

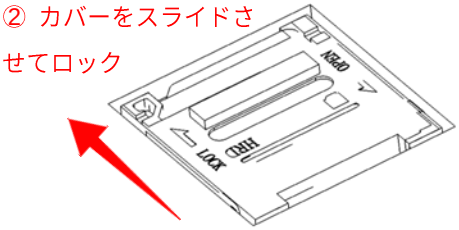
2) ヒンジカバーを後方にスライドさせ先端を持ち上げ開きます。



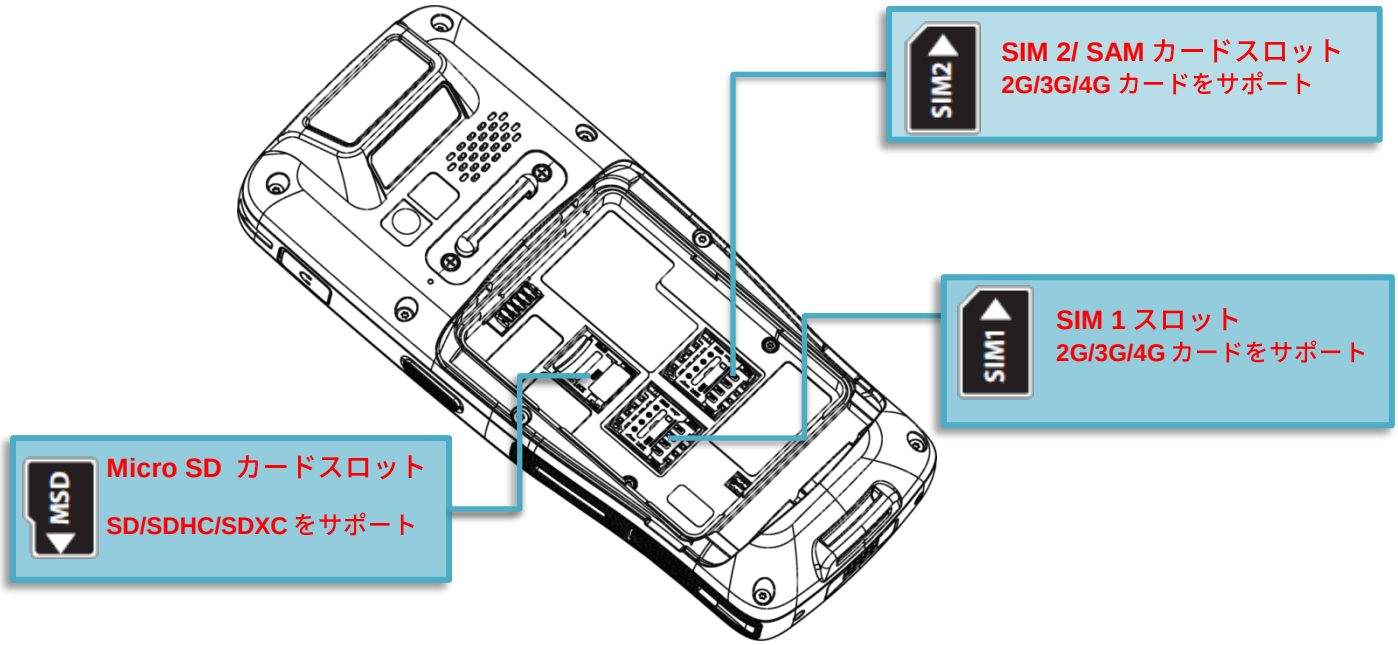


3) カードの金属接触部が下になるように差し込みます。





4) ヒンジカバーを閉じ前方にスライドさせてロックします。



5) バッテリーカバーを戻し、バッテリーラッチを"Lock"位置に戻します。

注:

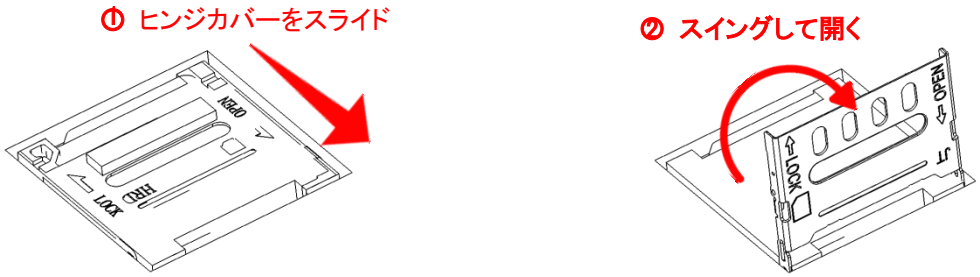
1) SIM1 と SIM2 カードスロットは共に 2G/3G/4G カードをサポートします。3G/4G データを両方の SIM で通信できますが同時にはできません。

2) 10 度下向き読取モデル には1つの SIM スロットと1つの SIM/SAM スロット(オプション)が、70 度下向読取りモデル には 2 つの SIM スロットがそれぞれ装着されています。

カードの取り外し

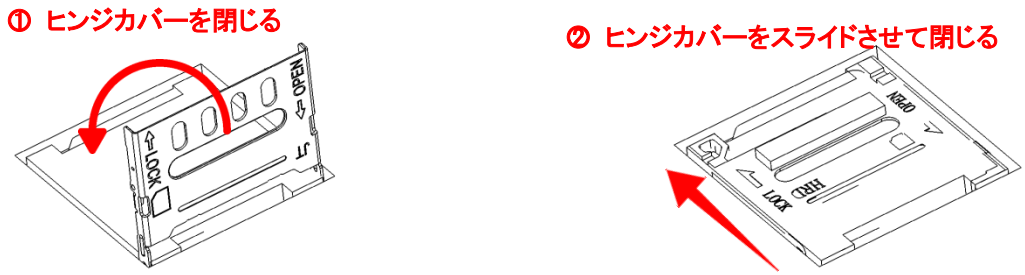
1) バッテリーカバーを取り外します。

2) ヒンジカバーをスライドさせて開きます。



3) カードを直接取り外します。

4) ヒンジカバーを閉じ、前方にスライドさせてロックします。

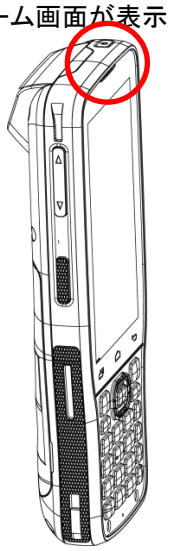


5) バッテリーカバーを戻しバッテリーラッチをロックします。

1.1.3. モバイルコンピュータの電源 ON/OFF

電源 ON

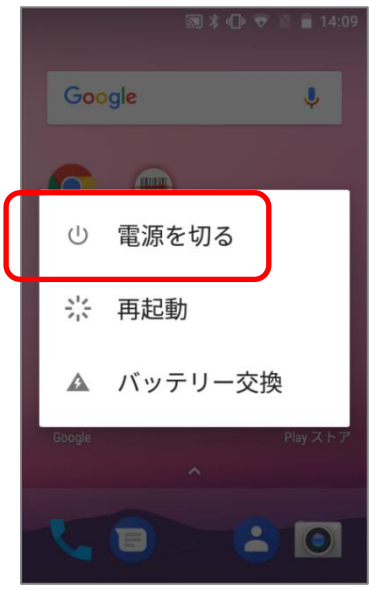
電源を入れるには本体の上端にある電源ボタン を押し下げます。モバイルコンピュータに電源が入り、ホーム画面が表示されます。



注:
モバイルコンピュータの電源を入れる場合、バッテリーカバーが正しく取り付けられていることをご確認ください。

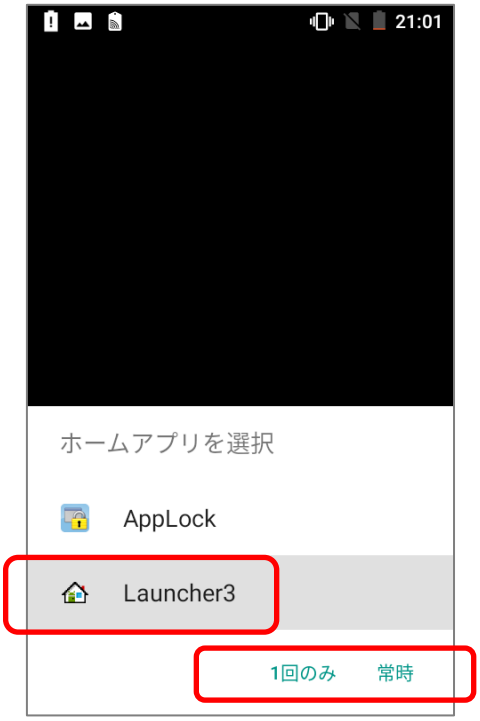
電源 OFF

モバイルコンピュータの電源を切るには、電源ボタン を 3 秒以上押し続けます。 画面上にデバイスの電源をオフにするメニューが表示されます。 電源を切る前に、すべてのユーザーデータとタスクが保存されていることを確認してください。



1.1.4. ホーム画面の選択

初めてシステムを起動すると、Select Home app ウィンドウがポップアップして、すぐにホーム画面を選択するよう要求されます。「AppLock」を選択すると、このデバイスの通常のユーザーに提供されるインターフェースの設定を開始するために、AppLock アプリケーションに直接入ります（AppLock 設定の詳細については、「AppLock ユーザーガイド」を参照してください）。「ランチャーLuncher」を選択すると、デフォルトの Android 7.0 ホーム画面が表示されます。



1.1.5. ハードウェアボタンを使用する

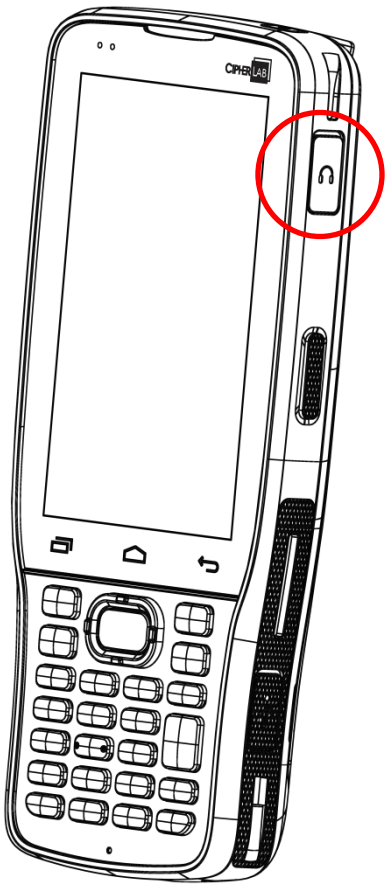
LCD 画面の下に 3 個のハードウェアボタンがあり、それぞれ次の機能を持っています。

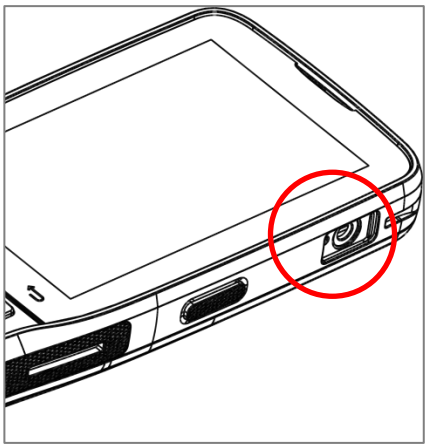
ボタン	機能	説明
	戻るボタン	前の画面に戻るか、アクティブなウィンドウやキーボードを閉じる
	ホームボタン	ホーム画面を表示
	最近使ったアプリ	最近使用したアプリケーションのリストを開く

1.1.6. ヘッドセットの接続

ヘッドセットジャックは、モバイルコンピュータの上部右側面にあります。
電話アプリケーション、オーディオインスタントメッセージなどを使用して、オーディオの再生や通信に
ヘッドセットを使用できます。

1) ラバーカバーを開ける。
2) ヘッドセットをヘッドセットジャックに接続。
3) ヘッドセットを取り外した後は、ゴムカバーを元に戻す。





1.2. 通信と充電

1.2.1. モバイルコンピュータの充電

メインバッテリーは、出荷時に完全に充電されていない場合があります。モバイルコンピュータを使用する前にメインバッテリーをフル充電する必要があります。 スナップオン充電ケーブルまたは充電/通信クレードルを電源アダプタとともに使用して、モバイルコンピュータを充電します。

USB ケーブルを介してホストコンピュータに接続されているときにも充電することができます。

ただし、この方法では、スナップオンケーブルまたは充電/通信クレードルを使用した充電よりも遅くなります。

充電時間

- **メインバッテリー**
  メインバッテリーは、モバイルコンピュータに電力を供給して動作させます。
  空のメインバッテリーをフル充電するのに約 4 時間かかります。
  はじめて充電するときは 8 時間から 12 時間かけて充電して下さい。
  画面上部の充電 LED（左側）は、充電中は赤色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します
  メインバッテリーが取り外されても、RTC の保持は少なくとも 30 分間維持されます。
- **バックアップバッテリー**
  バックアップバッテリーはメインボードに取り付けられています。 その役割は、メインバッテリーが消耗した時にDRAM のデータが保持出来るように、モバイルコンピュータを一時的サスペンド状態に保つことです。
  バックアップバッテリーは、メインバッテリーまたは電源アダプタを使いフル充電するまでに約 3.5 時間かかります。

充電温度

バッテリーの充電は 0℃から 40℃の間で行ってください。

最適な性能を得るには室温 18℃から 25℃での充電を推奨します。

周囲温度が 0℃以下または 40℃を超えると、バッテリーの充電機能が停止することに注意してください。

バッテリーによる操作

Bluetooth Class II, v4.1 と v2.1+EDR, 802.11 b/g/n と 802.11 a/ac/n networking, GSM/GPRS/EDGE/WCDMA/UMTS/HSDPA/HSUPA/HSPA+/LTE, と GPS 全てがバッテリーで駆動されるとメインバッテリーのレベルは大幅に低下します。ディスプレイの長時間使用あるいは連続したバーコード読取りは同様にバッテリーレベルに影響します。

バッテリーが消耗してシステムがシャットダウンするのを防ぐために、新しい電池を常に交換用として手元に置いておくか、またはモバイルコンピュータを外部電源に接続することをお勧めします。

充電中のバッテリーと LED インジケータの状態

連続した充電や放電を防ぐため、RK25 モバイルコンピュータはスナップオンケーブルや充電/通信クレードルあるいは外部電源に microUSB ケーブルで接続されていても、バッテリーレベルが 100%に達すると自動的に充電を中止します。

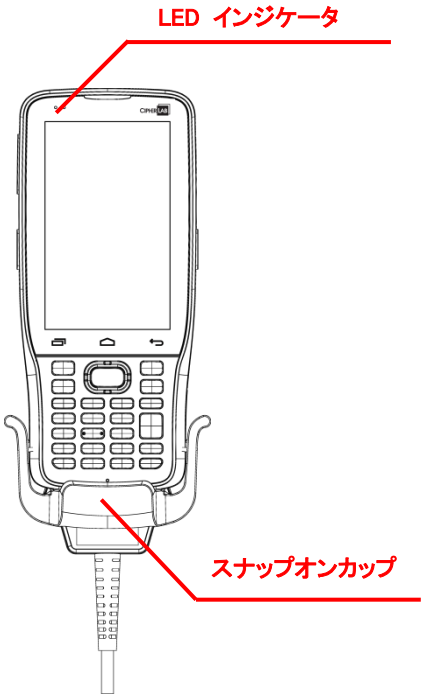
RK25 モバイルコンピュータが外部電源に接続時のタッチスクリーン上の LED は以下の通りです。

LED の状態	説明
赤色、点灯	充電中(0% to 99%)
赤色、点滅	充電エラー
緑色、点灯	充電完了(100%)
点灯しない	ケーブルが正しく接続されていない

注:
RK25 モバイルコンピュータはバッテリーレベルが100%に達したとき充電を中止し、バッテリーレベルが約90%以下、電圧が 4.15V になると再開します。RK25 モバイルコンピュータが充電を中止している間(バッテリーパワーレベルが100%から90%の間)LED は赤色点灯のままです。

スナップオンケーブルを使う

スナップオンケーブルは、通信用と同時に充電用としても使用できます。



装着

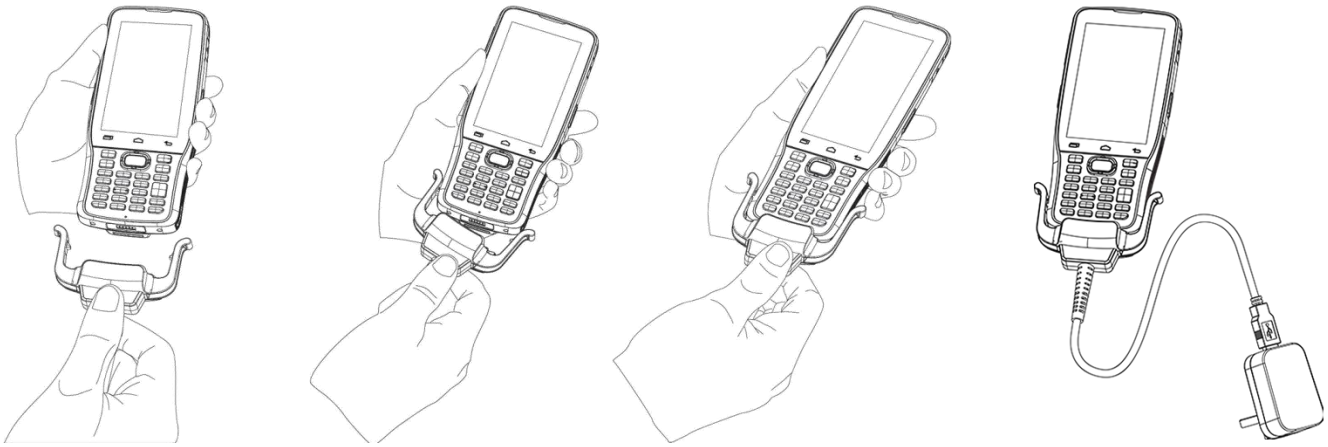
1) microUSB ケーブルを接続しないでください。

2) スナップオンカップを RK25 モバイルコンピュータの底部に向けて持ち、スナップオンカップの一端を RK25 モバイルコンピュータの一端に合わせます。

3) スナップオンカップを上方に押し上げて他端を RK25 モバイルコンピュータに取り付けます。

4) スナップオンケーブルと RK25 モバイルコンピュータが正しく接続されたとき、クリック音が聞こえます。

5) USB プラグを認証されたアダプターに、あるいは通信/充電のためには PC/PC/ラップトップの USB ポートに接続します。



バッテリー充電中の LED の状態は以下の通りです。

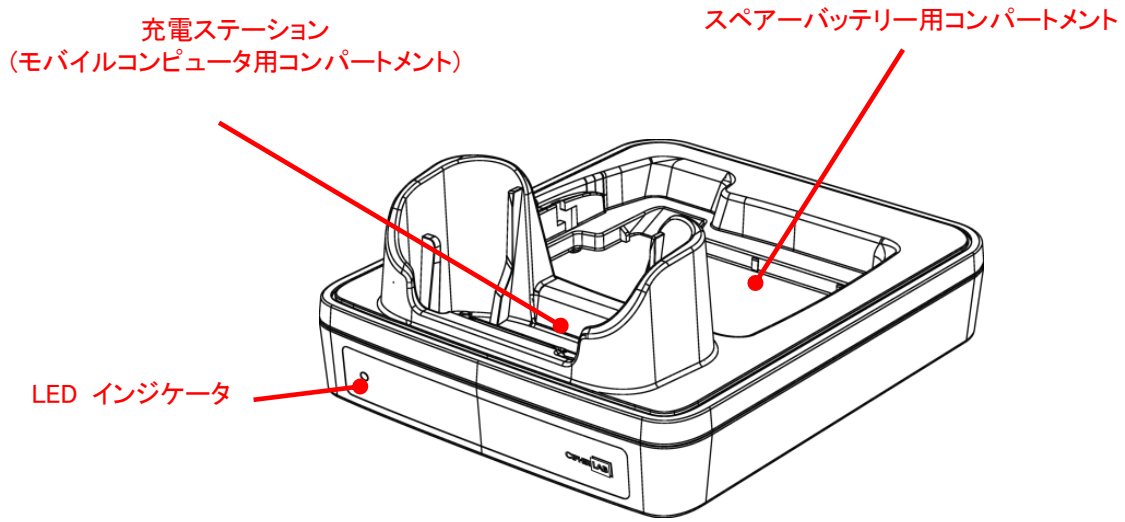
LED インジケータ	状態	説明
充電中	赤色、点灯	充電中
	赤色、点滅	充電エラー
	緑色、点灯	充電完了
	点灯せず	ケーブルが正しく接続されていない

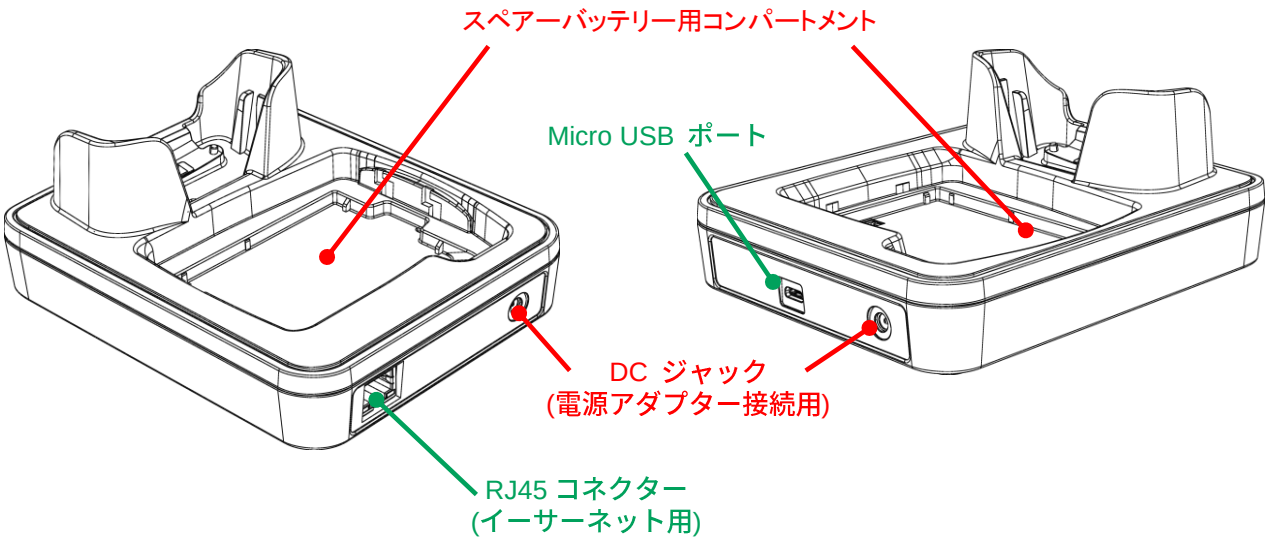
注:

1) スナップオンケーブルを装着する前に microUSB ケーブルは必ず取り外して下さい。
2) データ通信は microUSB ケーブルを PC またはラップトップと接続しても可能です。
3) RK25 モバイルコンピュータはバッテリーレベルが100%に達したとき充電を中止し、バッテリーレベルが約90%以下、電圧が 4.15V になると再開します。RK25 モバイルコンピュータが充電を中止している間(バッテリーパワーレベルが100%から90%の間)LED は赤色点灯のままです。

充電/通信クレードルを使う

充電/通信クレードルはモバイルコンピュータの充電と同時にスペアーバッテリーの充電も出来ます。
またデータ通信にも使えます。





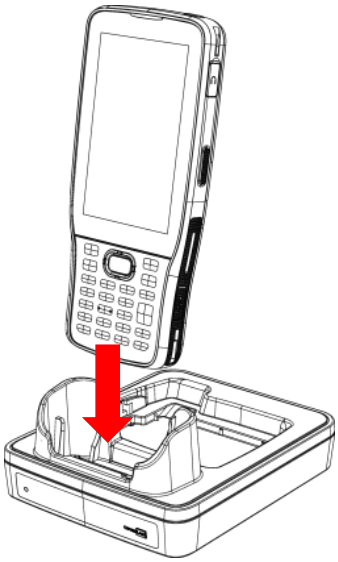
ENCR モデル **CCCR モデル**

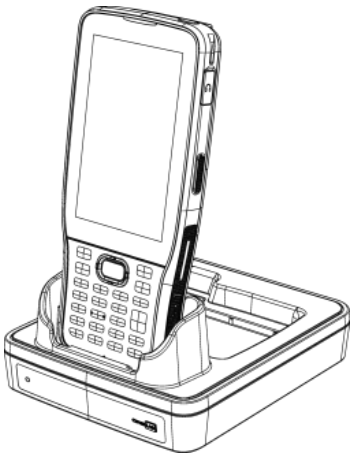
注:
充電/通信クレードルは１個の MicroUSB ポート（CCCR モデル）あるいは１個の RJ45 コネクター（ENCR モデル）を装備しています。

充電/通信クレードルでモバイルコンピュータを充電するには

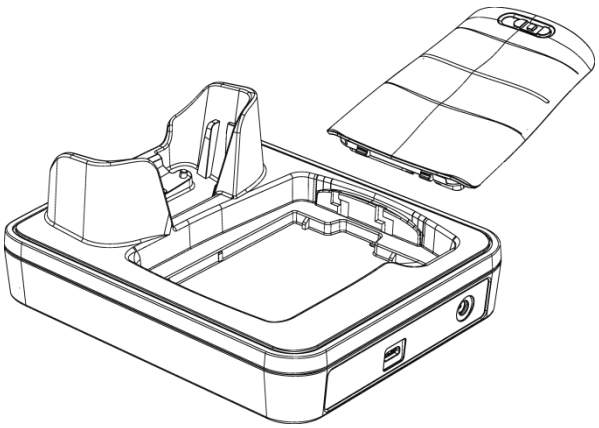
1) microUSB が接続されている時は取り外して下さい。

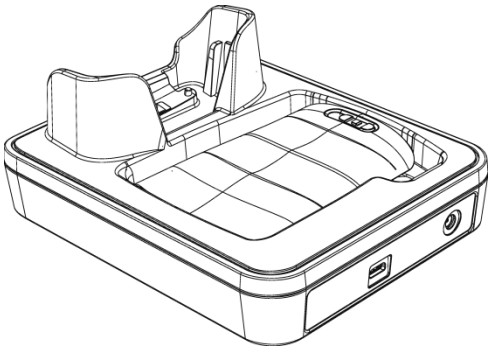
2) RK25 モバイルコンピュータをクレードルに差し込んでください。





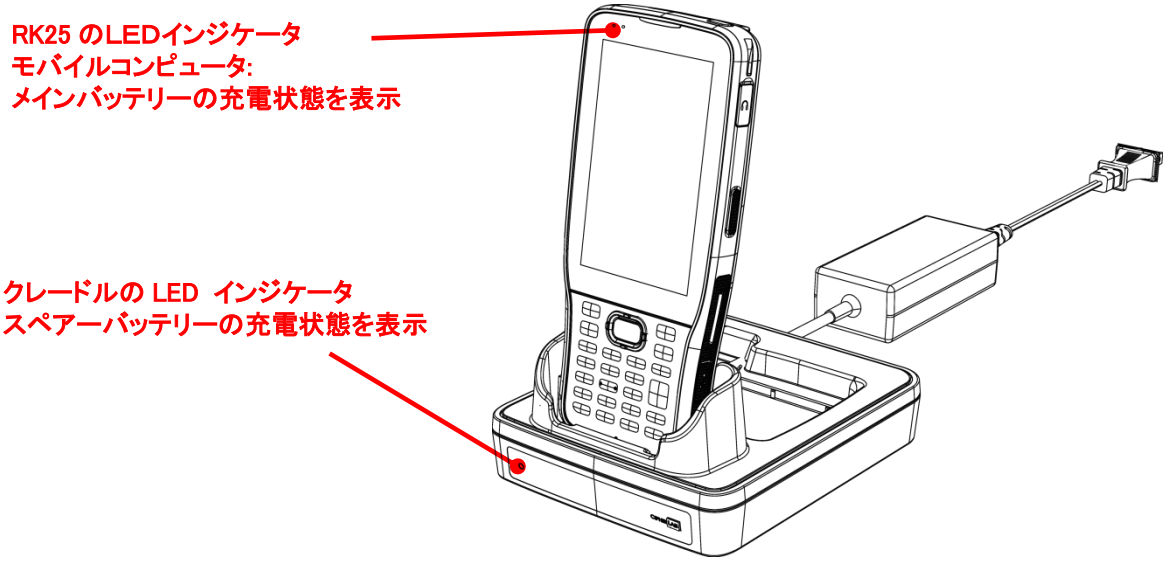
3) スペアバッテリーを充電するときは、バッテリーラッチがロックされていることを確認し、その上端部（接続ピンのある方）からスペアーバッテリーコンパートメントにコンタクトピンが接続されるように指し込んで下さい。バッテリーラッチがある下端部を押し込んでバッテリーラッチをスライドさせてロックします。
取り外すときは、バッテリーラッチをスライドさせてロック解除してから取り外して下さい。





4) アダプターをクレードルに接続し、他端をコンセントに接続

モバイルコンピュータの充電状態はデバイスに示されます。
クレードルの LED インジケータの状態は以下の通りです。



クレードルの LED インジケータ	状態	説明
充電	赤色、点灯	バッテリー充電中
	赤色、点滅	充電エラー
	赤色、1 回フラッシュ	バッテリー無し
	緑色、点灯	充電完了
	点灯せず	充電しない

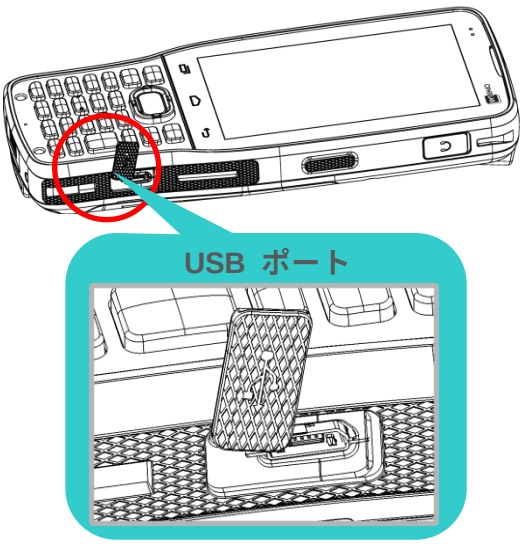
注:

1) 充電しないと言うことは、バッテリーの損傷、バッテリーの接触不良、あるいは AC プラグが抜けている可能性が考えられます。
2) 充電エラーはバッテリーの温度が上昇していると考えられます。
3) micro USB ケーブルは本体をクレードルにセットする前に必ず取り外して下さい。

1.2.2. ケーブルでの通信

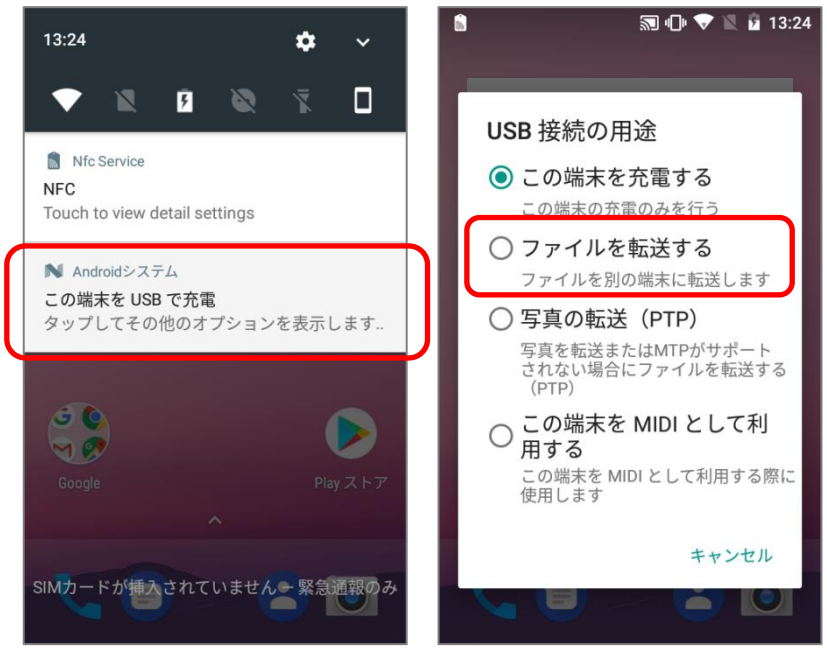
データ通信のため micro USB ケーブル/スナップオンケーブルで PC と接続します。

1) USB cable/ スナップオンケーブル/ クレードルで PC と接続して下さい。



2) ステータスバーを下にスワイプして通知一覧を表示します。

3) “この端末を USB で充電”をタップし USB オプションへ移行します。デフォルトは充電モードです。この場合はクライアント PC からこの端末にアクセスすることはできません。端末と PC 間でファイルを転送するためには“ファイルを転送する”を選択します。ビデオや写真を転送するためには“写真の転送 (PTP)”を選択します。DCIM と Pictures フォルダーのビデオと写真のみを共有できます。



1.2.3. 無線ネットワークを使う

RK25 モバイルコンピュータは Bluetooth 802.11 a/ac/n を含むほとんどの無線技術をサポートしており、リアルタイムにデータを効率的に送受信できます。
データや音声通信に GSM/GPRS/EDGE/WCDMA/UMTS/HSDPA/HSUPA/HSPA+/LTE を選択して下さい。

第 2 章

RK25 モバイルコンピュータを使う

この章では本機の基本的な活用や特徴を紹介します。

本章の内容

2.1 バッテリー 37
2.2 メモリー 52
2.3 タッチスクリーン 62
2.4 通知 70
2.5 日時の設定 74
2.6 言語とキーボード入力 75
2.7 ハードキーパッド 88
2.8 サウンドと音量 98
2.9 データ取り込み 99

2.1. バッテリー

- **メインバッテリー**
  モバイルコンピュータは、充電式の 3.8V / 4000mAh のリチウムポリマーバッテリーパックから給電され、電源アダプタからフル充電するまでに約 4 時間かかります。（初めて充電するときは少なくとも 8～12 時間充電して下さい）。ただし充電時間は使用条件によって異なる場合があります。

- **スペアーバッテリー**
  スペアバッテリーパックがオプションとして提供されています。 充電された予備バッテリーを手元に保管して、メインバッテリーがほぼ完全に放電されたときに交換してください。

- **バックアップバッテリー**
  メインボードには、メインバッテリーが空になったときにモバイルコンピュータをサスペンド状態に保つためのバックアップバッテリーが装備されています。 バックアップバッテリーは 60mAh の充電式リチウムポリマーバッテリーで、フル充電されている場合（モバイルコンピュータのワイヤレスモジュールが動作していない限り）、30 分間 DRAM にデータを保持できます。 バックアップバッテリーは、メインバッテリーまたは電源アダプタで充電することができます。
  フル充電するには約 3.5 時間かかります。

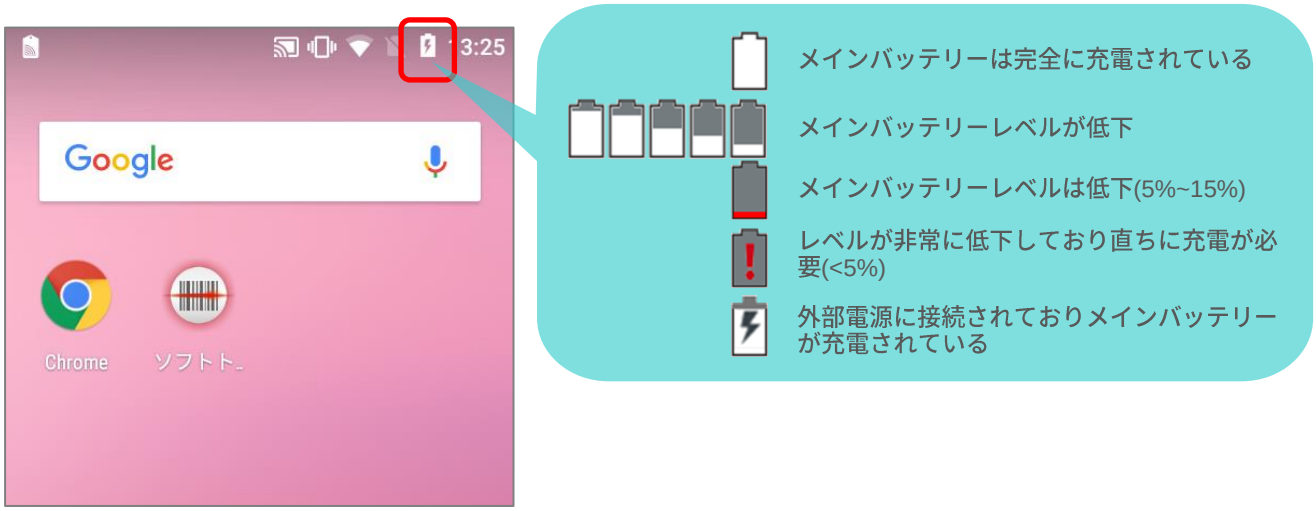
警告

1) **バッテリーカバーが所定の位置にしっかり閉じられている必要があります。**
   閉じられていない場合は、電源キーを押してモバイルコンピュータをオンにすることはできません。
2) **新しいバッテリーは、使用前に完全に充電されていることを確認してください。**
3) **データの損失を避けるために、メインバッテリーを交換する場合は、十分に充電されたスペアバッテリーパックに交換してください。特に屋外で使用の際は常に手元に予備のバッテリーを用意してください。**
4) **モバイルコンピュータを 30 分間バックアップバッテリーで稼働させると、システムがシャットダウンします。 データの消失を防ぐため、できるだけ早くメインバッテリーと交換してください。**

2.1.1. バッテリー状態インジケータ

メインバッテリーパックは、モバイルコンピュータが動作する唯一の電源です。 したがって、メインバッテリーの残量が少なくなった場合は、バッテリーパックを充電済みのものに交換するか、できるだけ早く充電する必要があります。 重要なデータは定期的にバックアップする必要があります。

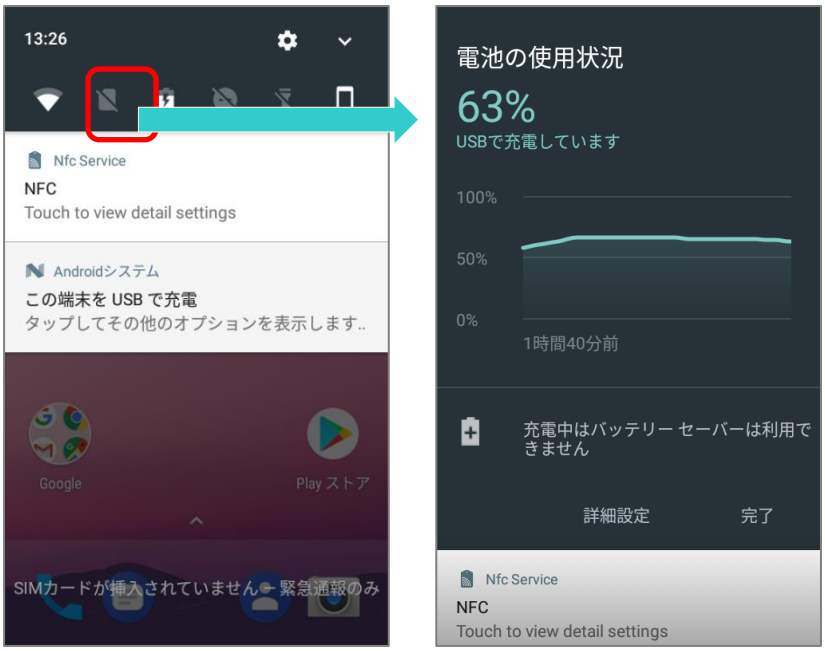
ステータスバーのバッテリーステータスアイコンでメインバッテリーのバッテリー残量を確認できます。



残りの電力のパーセンテージとバッテリー寿命を確認するには:

1) 二本の指で画面トップからスワイプしクイック設定を開きます。
2) バッテリー残量パーセンテージがバッテリーアイコンの下に表示され、それをタップしてバッテリー使用量クイック設定に移行します。"詳細設定"をタップ(詳細設定も可能)"完了"をタップして終了。

またステータスバーから下へスワイプして 通知一覧を開きバッテリーアイコンをタップして電池の使用状況ページに移行できます。



注:

バッテリーレベルが完全に充電され100%に達するとバッテリーアイコンは から に変わり充電完了を示します。

警告

1) **バッテリーレベルが 15%を下回ると、バッテリー残量通知が画面に表示されます。**
2) **バッテリー残量が少ないと RAM によるデータ損失が発生することがあります。 バッテリーの電力がなくなるか、新しいバッテリーを交換する前に必ずデータを保存してください。**
3) **常に低バッテリーレベルでモバイルコンピュータを使用すると、バッテリーの寿命に影響する可能性があります。最高の性能を得るには、バッテリーを定期的に充電して、バッテリーの消耗を防ぎ、良好なバッテリーの状態を維持してください。**

2.1.2. バッテリーレベルモニター

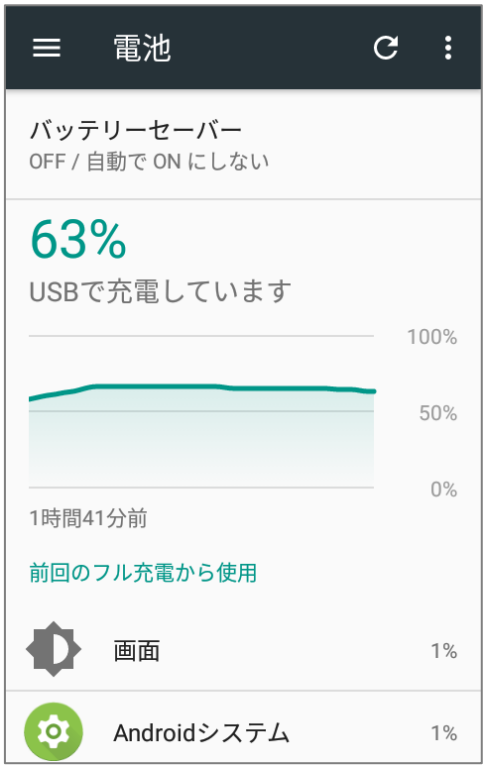
メインバッテリーレベル

メインバッテリーは、モバイルコンピュータに給電する唯一の電源です。 また、DRAM に格納されたデータを保持するためのメインボード上のバックアップバッテリーの電源でもあります。 メインバッテリー残量が少なくなった場合は、できるだけ早く充電または交換してください。 重要なデータはバックアップしてデータを保護することを推奨します。

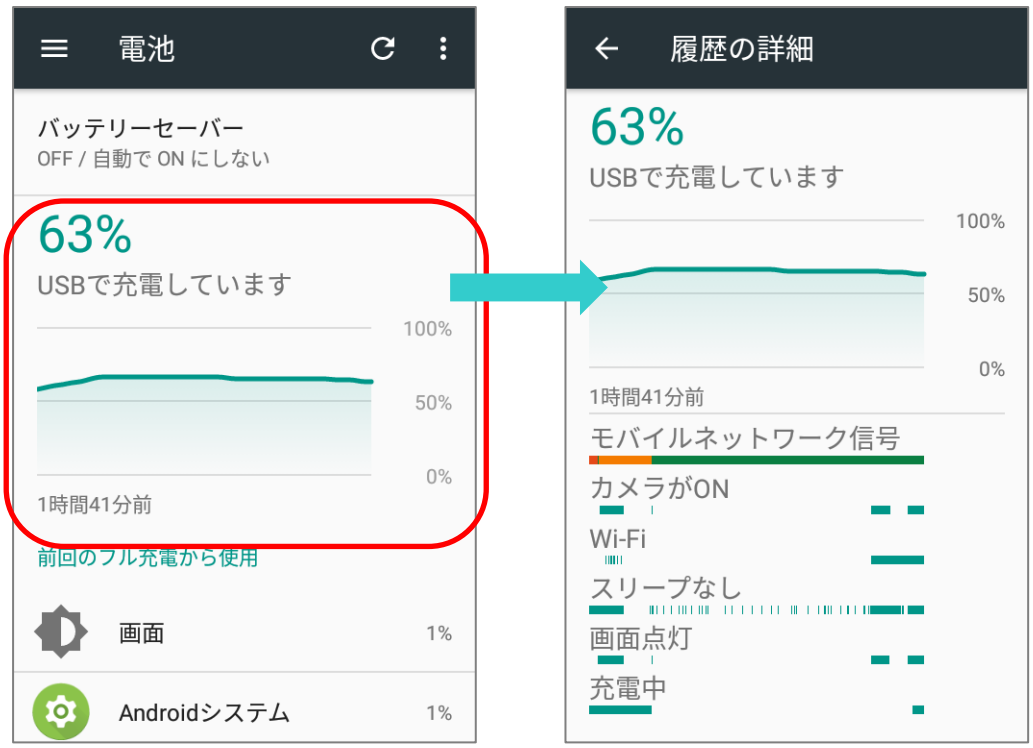
バッテリーレベルをチェックする

アプリ画面 | 設定 | バッテリ をタップ

バッテリー残量のパーセンテージが表示され、バッテリー残量を明確に把握できます。 画面には、最後のバッテリー充電セッションからのバッテリー放電率、バッテリー電力で動作している時間、およびバッテリー電力を最も消費しているアプリケーションも表示されます。



- バッテリーパワーを消費したあるいは消費しているアプリケーションのタイムラインを見るにはチャートの部分をタップ、これにより電量消費を診断することが出来ます。

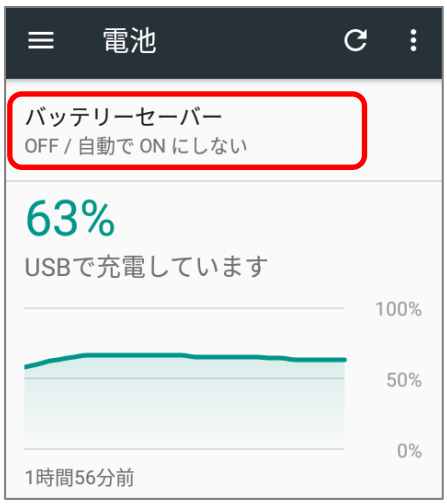


- アプリケーションのバッテリーパワー消費を防ぐためには、“前回のフル充電からの使用”をタップし“消費電力の調整”の示唆を参照。示唆の部分をタップすると関連するページに移行し設定を変更してバッテリーパワーの消費を抑えることが出来ます。

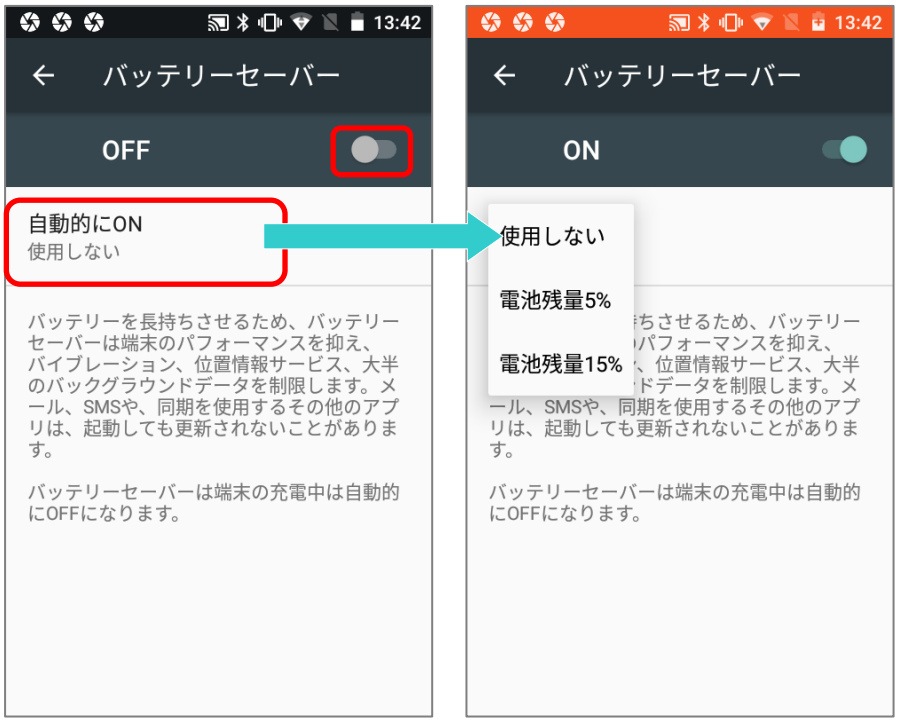
バッテリー節電モード

メインバッテリー残量が少なくなった時に、バッテリーセーバーモードを自動的にオンにすることができます。このモードでは、ロケーションサービス、バイブレーション、およびほとんどのバックグラウンド処理データの使用が制限されます。

1) バッテリー画面で“バッテリーセーバー”をタップ。



2) バッテリーセーバー機能を直接 ON にすることが出来ます。また”自動的に ON”にすることも可能です。この機能を可能にすると画面のタイトルバーがオレンジ色に変わります。

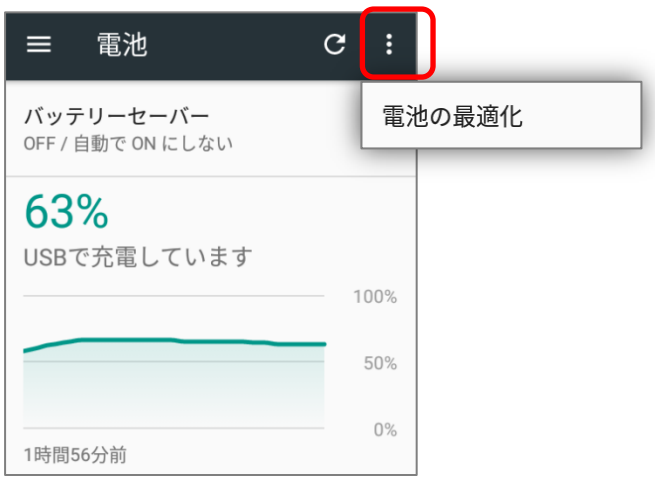


注：充電中はこのモードは自動的に不可になります。

バッテリーの最適化

アプリケーションのバッテリー最適化を ON にすると、端末がアイドル状態の時、あるいは数日間使われないとき非アクティブの状態を保ちます。

1) バッテリー画面で、 ⋮ をタップし “電池の最適化”を選択します。

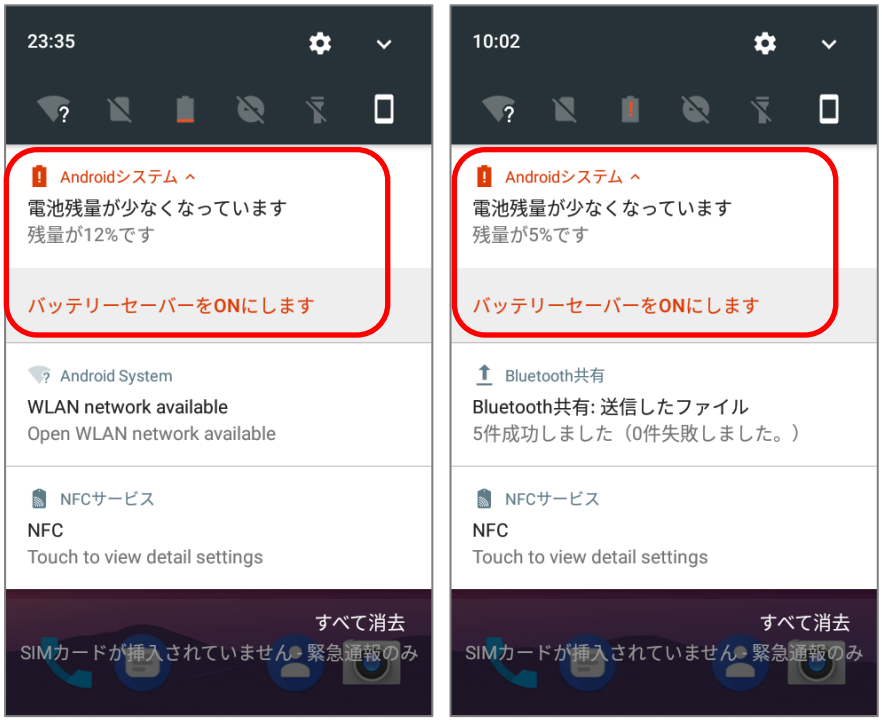


2) ドロップダウンリストから、 “すべてのアプリ”を選択; 全てのアプリケーションはデフォルトでこの機能により最適化されます。もし特定のアプリケーションからこの機能を外したいときは、アプリケーションの名称をタップして“最適化しない”を選択します。

バッテリー低下警告

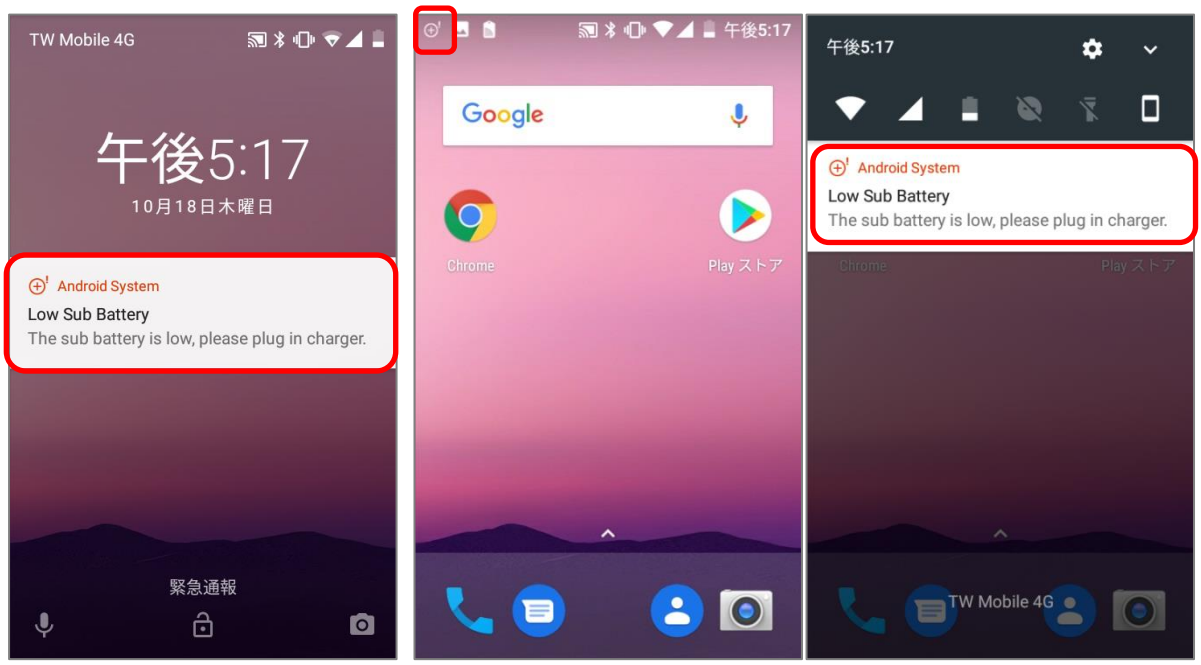
モバイルコンピュータは、メインバッテリーレベルが 15%および 5%に低下したとき、メインバッテリーを充電するよう警告を通知します。

通知一覧を開き、通知リストの警告を見ることが出来ます。できるだけ早く バッテリーセーバーモードをONにしたり、外部電源につなぐ、あるいはメインバッテリーパックを交換して下さい。



サブバッテリー低下警告

メインバッテリーパワーが低下するとRK25モバイルコンピュータは自動的にサスペンド状態に移行しバックアップバッテリーで30分間バックアップします。バックアップバッテリーのパワー低いと“Low Sub Battery”警告が表示され、直ちに外部電源に接続して充電しなければなりません。この時メインバッテリーを交換してはいけません。データロスが起きる可能性があります。



2.1.3. メインバッテリーの交換

メインバッテリーの残量が低下したら、以下の手順でメインバッテリーを交換します。

メインバッテリーを交換のためシャットダウン

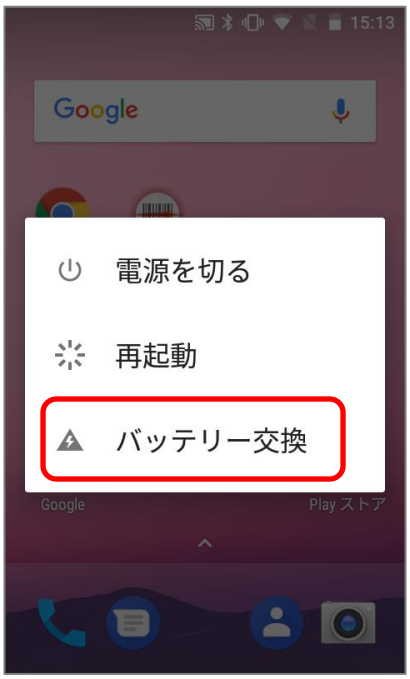
1) サブバッテリー（バックアップバッテリー）と新しいフル充電したメインバッテリーを確認。
2) パワーボタンを長押し。
3) ポップアップメニューの「電源を切る」をタップします。 モバイルコンピュータの電源が切れます。
4) メインバッテリーを取り外し、新しいバッテリーと交換する。

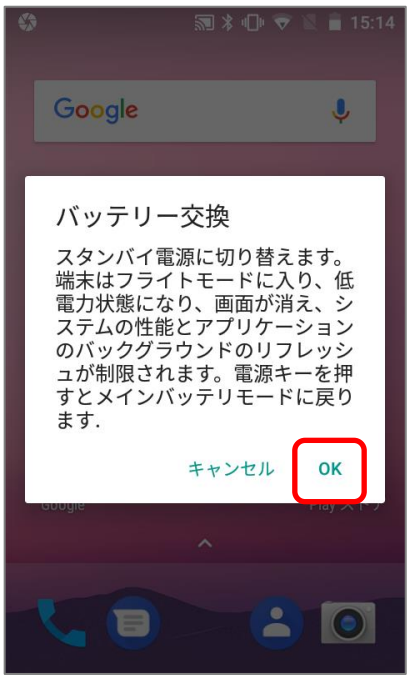
バッテリー交換

バックアップバッテリーはバッテリー交換中に電源を供給します。

バッテリーカバーが取り外されると、システムはサスペンドモードに入り、バッテリーカバーが元に戻り、電源ボタンが押されるまで復帰しません。バッテリー交換の前にサブバッテリーがフルチャージされていることを確認して下さい。

1) パワーボタンを長押しし、ポップアップメニューで“バッテリー交換”と“OK”をタップ。サスペンド状態に入ることをフロントパネルトップの LED が赤色に光って示します。
2) LED の赤色が消灯すると完全にサスペンド状態に移行したことを示し、メインバッテリーを交換できます。
3) メインバッテリーが取り外されるとシステムは少なくとも 5 分間サスペンド状態で、その間にできるだけ素早くメインバッテリーを交換して下さい。
4) パワーボタンを押してモバイルコンピュータをサスペンド状態から復帰させる前に、必ずバッテリーラッチがロックされていることを確認して下さい。





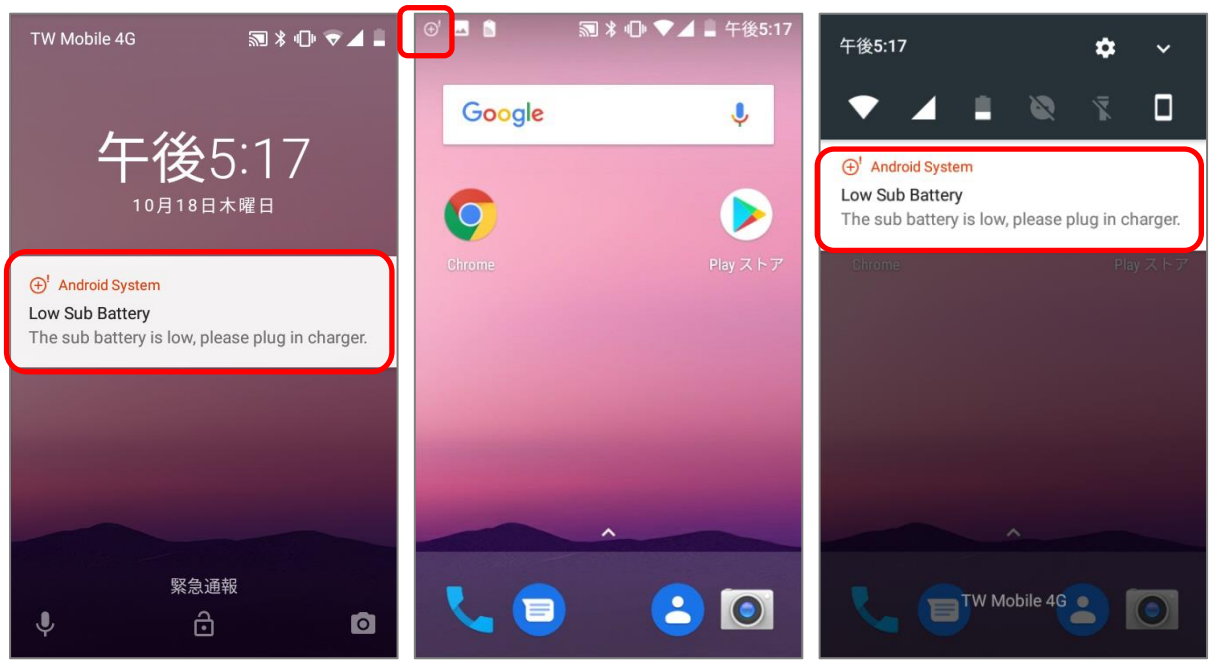
警告

モバイルコンピュータの OS がレディーになる前にバッテリー交換はしないで下さい。充電中にカバーを外すとシステム障害になる可能性があります。

注:

1) メインバッテリーが取り外されるとシステムは5分間ほどサスペンドモードに移行します。警告なしにシャットダウンされることを防ぐためメインバッテリーの交換は5分以内に行ってください。

2) メインバッテリーが消耗したときバックアップバッテリーがサスペンション状態をキープします。データロス危険を避けるため、バックアップバッテリーのパワーが低い時にはメインバッテリーの交換は決してしないでください。“サブバッテリー低下“の通知が消えるまで外部電源に接続して下さい。通知が消えればメインバッテリー交換が可能です。



2.1.4. 電源管理

あらゆるポータブルデバイスでは、電源管理、特に屋外作業の場合は重要な問題です。
以下は、バッテリーの電力を節約するためのヒントです。

警告
バックライト、ワイヤレス接続、および周辺機器を使用してバッテリー電源を使用すると、
バッテリー電力が大幅に削減されます。

- 外へ行かれる時はメインバッテリーパックを持ち歩くようにする。
- 使用していないワイヤレス接続（Bluetooth 送信、ワイヤレス接続、NFC、GPS など）を終了させます。
- 画面の消灯時間を短くする。
- 画面の輝度を下げる。
- Google アカウントを持っている時自動的にデータ同期するようなアプリは止めておく。
  (例えば Email、 Calendar、 や Contacts)
  アプリ画面 | **設定** | **アカウント** | **Google** でデータ同期を希望する時間無効にできます。

- バッテリー消費モード、バッテリー最適化モードを有効にします。

機内モード

機内モードを有効にすると、モバイルコンピュータのすべてのワイヤレス無線（通話機能、Bluetooth、ワイファイ、3G / 4G などのデータ接続を含む）がオフになり、バッテリーの消費電力を大幅に削減できます。

機内モードに入るには：

1) 二本の指で画面トップからスワイプダウンしてクイック設定メニューを開きます。

2) 機内モードアイコンをタップして有効/無効にします。

2.1.5. バッテリー予防措置

長時間のメインバッテリー充電に対する注意

長時間の充電中での非常に大きなサイズのシステムのローディングは避けて下さい。この間バッテリーは連続的に充電と放電繰り返すこととなりバッテリーが膨らむ原因となります。

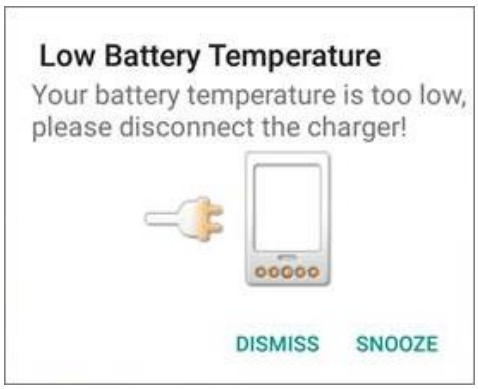
RK25 モバイルコンピュータが長時間外部電源で充電されていると、バッテリーはフル充電されていないとバッテリー状態が示されることがあります。その時は充電ケーブルを一旦取り外し改めて電源に指し直してください。

RK25 モバイルコンピュータがスナップオンケーブル/充電クレードル/microUSB ケーブルが外部電源に接続されている場合、バッテリーレベルが100%に達したとき充電を自動的に一旦停止します。バッテリーレベルが約90%あるいは電圧が 4.15V より低下した時再開します。

バッテリー温度異常

充電中に高温下に置かれるとバッテリー温度上昇の原因となります。RK25 モバイルコンピュータは自動的に安全のため充電を中断あるいはシャットダウンします。その後バッテリーが通常の温度まで冷却されると充電が再開します。

また RK25 モバイルコンピュータは低温下で使用されると自動的にシャットダウンします。充電中バッテリー温度が0℃以下になるとフロントパネルの LED が赤色点灯し充電器を取り外すよう警告メッセージを表示します。RK25 モバイルコンピュータは自動的に充電を中断します。



バッテリー寿命のために、充電器を直ちに取り外し、適切な温度状態の時に充電して下さい。

2.2. メモリー

- **フラッシュメモリ（ROM）**
  OS（アンドロイド 7. 0およびカスタムアプリケーションプログラム）を格納するための 16GB フラッシュメモリ。

- **ランダムアクセスメモリ（RAM）**
  プログラムの保存と実行、プログラムデータの保存用に 2GB の RAM。

- **拡張スロット**
  モバイルコンピュータには、micro SD カード、 microSDHC (32GB) microSDXC (64GB)に対応できる 1 個の SD カードスロットが装備されています。RK25 モバイルコンピュータとの互換性と性能を最大限に引き出すために SD カードを選択する場合は、必要な容量を確保してください。 SDXC カードを使用するには、新しいカードを使用して、他のホストデバイス（コンピュータ、カメラ、またはリーダー）で使用されていないことを確認してください。

データ消失に付いての注意

メインバッテリーが取り外されたり消耗しきったりすると、メインボードのバックアップバッテリーがモバイルコンピュータに供給され、サスペンド状態を維持します。 完全に充電されたバックアップバッテリーは、RAM に 30 分間データを保持します。 バックアップバッテリーが放電されると、モバイルコンピュータがシャットダウンし、RTC の内容だけが保持されます。 保存されていない他のデータはすべて失われます。

数日間モバイルコンピュータを放置しておきたい場合は、メインバッテリーとバックアップバッテリーが完全に放電したときにデータが消失することに注意してください。モバイルコンピュータを放置する前にデータとファイルをバックアップする必要があります。

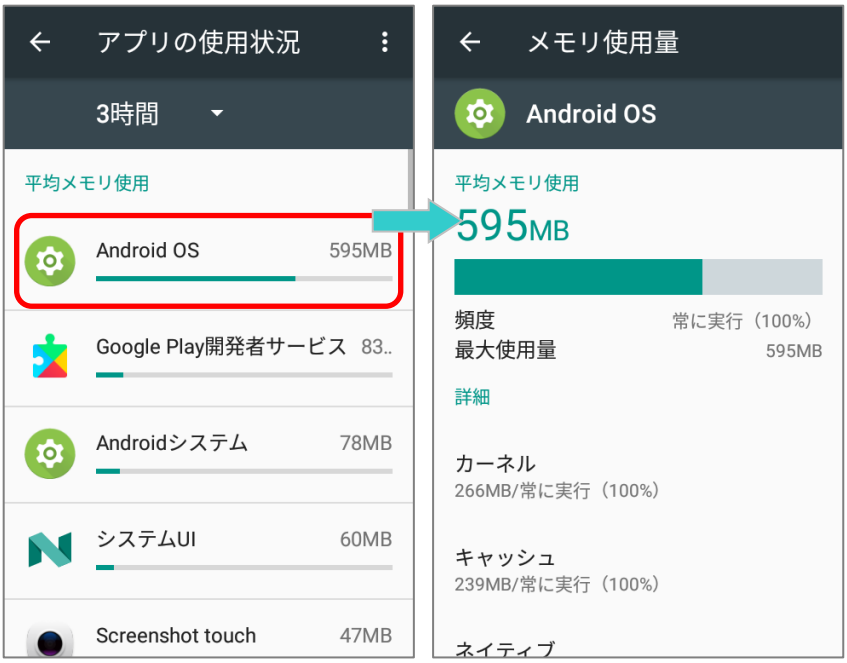
2.2.1. メモリーの使用状況をチェック

メモリーマネージャーは、デバイスが RAM をどのように使用しているかを確認することができます。

アプリ画面 | 設定 | メモリー からメモリーマネージャー画面に移行

メイン画面には、RAM の使用済みおよび空き容量だけでなく、使用パターンがデバイスの全体的なパフォーマンスにどのように影響しているかが示されます。 システムとアプリがどのように長期間にわたってメモリを占有しているかを把握するには、ドロップダウンリストをタップし別の時間帯を選択します。

個々のアプリがどのようにメモリ容量を消費しているかを調べるには、「アプリのメモリ使用状況」をタップし、各アプリのメモリ使用量を調べます。



アプリの名前をタップしてそのメモリー使用状況をチェックします。

新しくインストールしたアプリの RAM 消費量を把握できます。

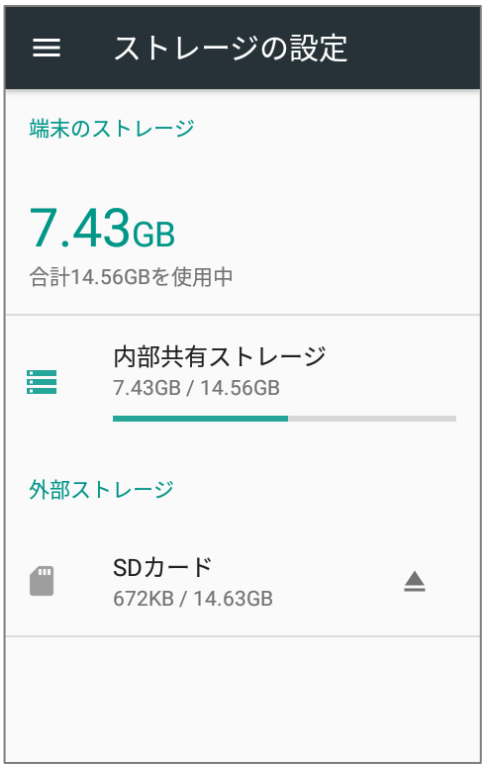
2.2.2. ストレージスペースの管理

SD カードは、デバイスの内部ストレージ（OS、アプリケーション、およびファイルを格納するための 16 GB のフラッシュメモリ）の拡張機能として機能します。

アプリ画面 | 設定 | ストレージ で内部および外部ストレージスペースをチェックします

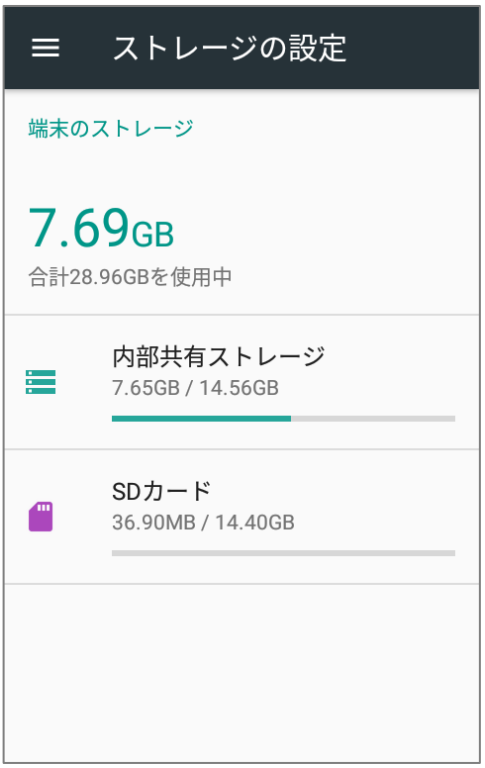
デフォルト設定は、すべてのビデオ、写真、およびダウンロードされたファイルは、デバイスの内部ストレージに直接保存されます。前もってポータブルストレージとして SD カードを挿入していた場合には、写真や他のメディアをこの SD カードに転送/保存できます。また内部ストレージとして設定されている場合は写真やファイル、アプリは SD カードに移動されます。

SD カードをポータブルストレージとして設定



SD カードは写真や他のメディアを端末間での移動に使われます。

SD カードを内部ストレージとして設定



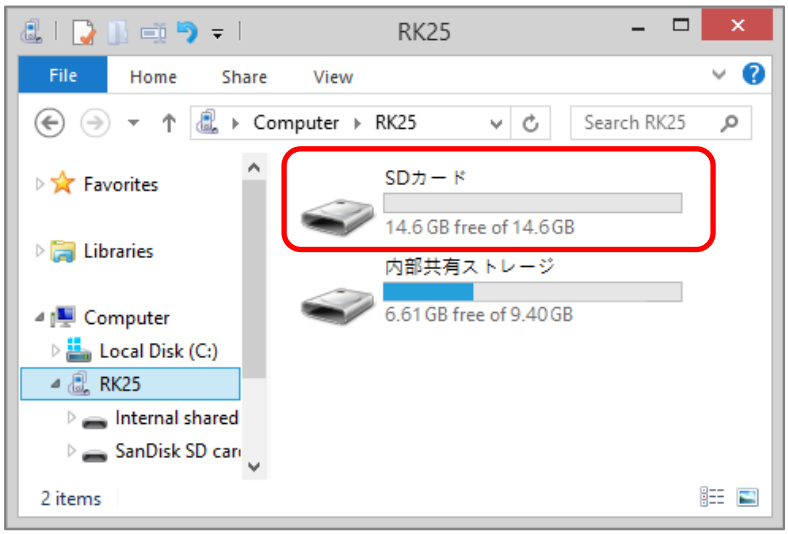
SD カードは端末での保存のみに使われます。

他の端末での使用を防止するためフォーマッティングは必要です。

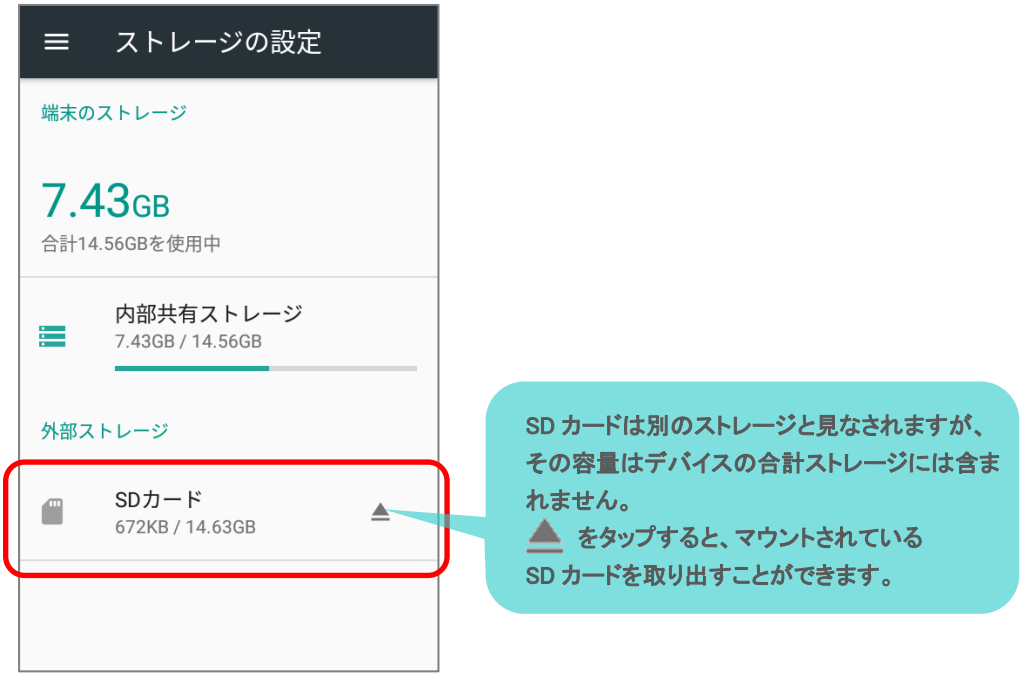
SD カードをポータブルストレージとして設定

SD カードをポータブルデバイスとして使用すると USB ディスクとして使うことができ、アンドロイドデバイスとコンピュータ間でファイル交換が簡単に転送できます。これは、あまりにも多くのストレージスペースを占有しているファイルをオフロードする必要がある場合には非常に有効です。

ディスクの内容は PC クライアントで読み込み可能です。



ストレージ画面で、このディスクは個別に管理することが出来ます。

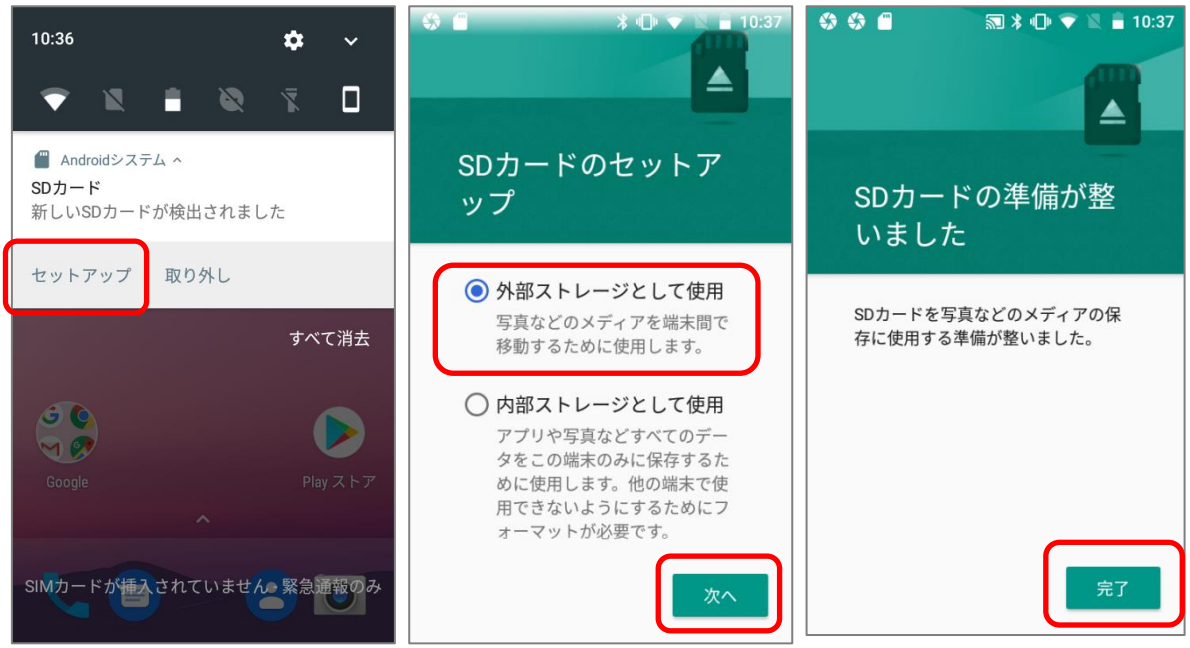


始めるには

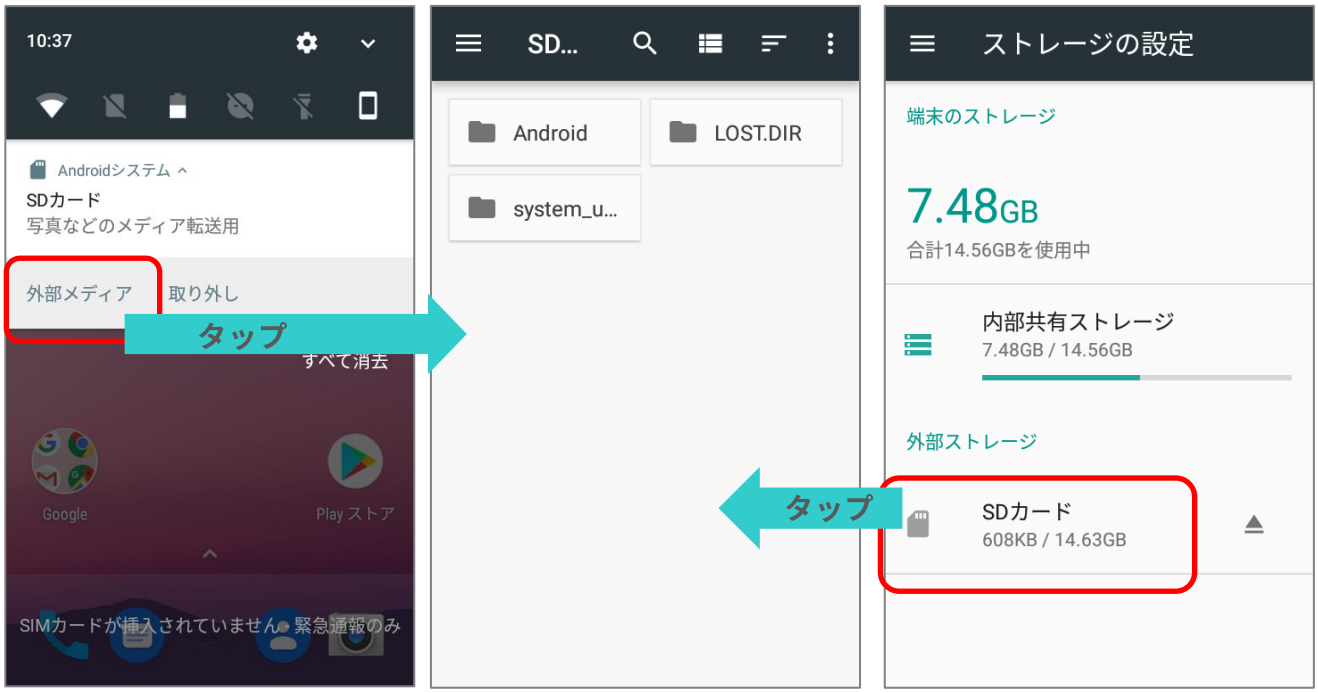
1) SD カードを挿入すると SD カードが検出されたという表示がされます。
ステータスバースからワイプダウンして“セットアップ”をタップします。

2) “外部ストレージとして使用” をタップして “次へ”

3) セッティングが完了したら、“完了”をタップ



4) ステータスバーからスワイプダウンして SD カードは写真やメディアの転送に使えるとのメッセージが表示されます。
その内容をチェックするため“EXPLORE”をタップするかストレージの設定画面で SD カードをタップします。



写真やメディアを端末と PC 間で転送

SD カードが外部ストレージとして設定されている場合、端末と PC 間で写真やメディアを転送するには

1) USB ケーブルでモバイルコンピュータと PC を接続。
2) ステータスバーからスワイプダウンして通知画面を表示させ、“この端末を USB で充電”をタップ、USB オプションメニューに移行。
3) ”ファイルを転送する“を選択すると、PC クライアントでディスクの内容を見ることが出来ます。ファイル転送の間、USB ケーブルが正しく接続されていることを確認して下さい。

SD カードを内部ストレージに変換

1) SD カードは、ポータブルストレージから内部ストレージにいつでも変換できます。 ストレージ＆USB 画面で、SD カードをタップします。 始める前に、このディスク上にファイルを保存したい場合は、そのファイルのバックアップを作成してください

2) SD カードスクリーンで詳細 ⋮ をタップして“ストレージの設定”をタップ

3) “内部ストレージとしてフォーマット”選択” 、 デバイスはこの SD カードをデバイスで読み取り可能な特定のファイル形式にフォーマットします。

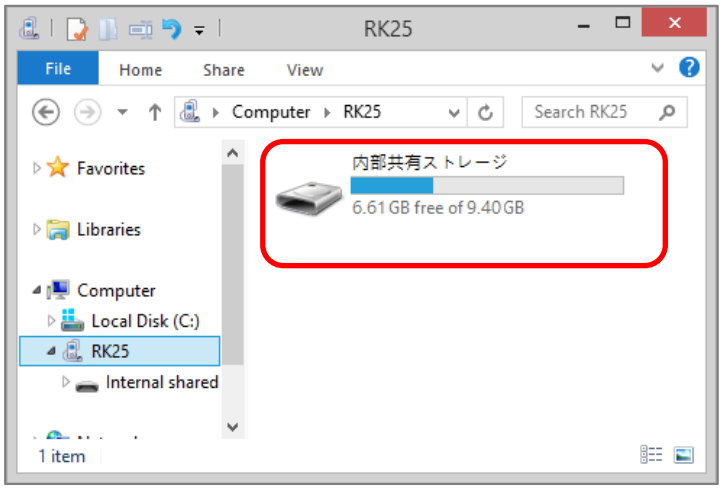
4) 内部ストレージ画面で、”消去してフォーマット“をタップしてカードをフォーマットします

5) メディアファイルをこの新しい SD カードにすぐに移動するかどうかを尋ねるメッセージが表示されますので、選択して「次へ」をタップ

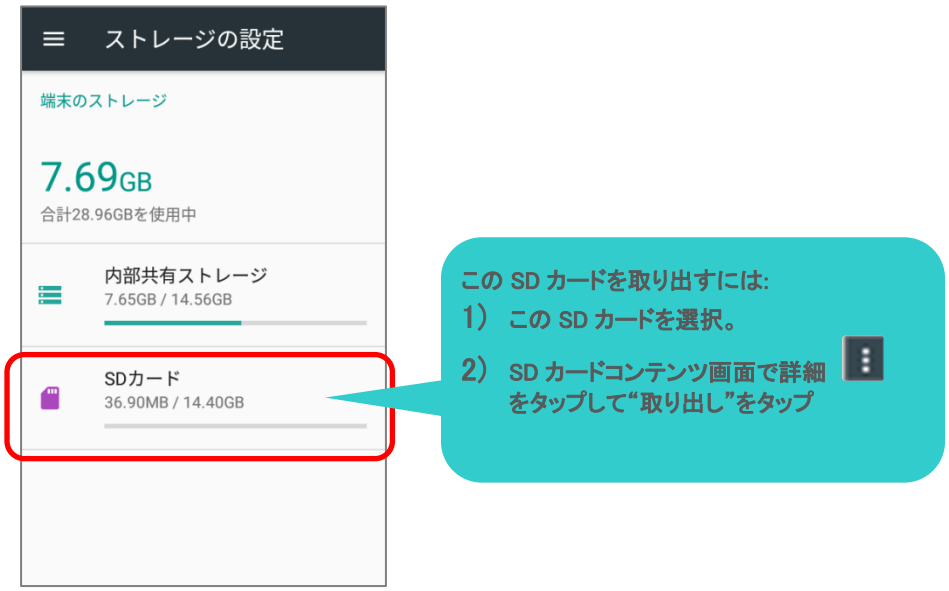
6) フォーマットが完了したら“完了”をタップ

SD カードを内部ストレージとして設定

内部ストレージとして SD カードを使用すると、既存のデバイスストレージを拡張し、大容量のアプリケーションを格納することができます。 この SD カードは、別のデバイスで読み取ることができないファイル形式で再フォーマットされ、暗号化されます。 したがって、フォーマット前にこの SD カードの重要なファイルをバックアップすることが必要です。もし SD カードを取り外した場合、その中のアプリケーションやメディアファイルは、その SD カードを再度デバイス挿入するまで読み取ることはできません
このデバイスを PC に接続しても SD カードに格納されたデータを読み取ることはできません。



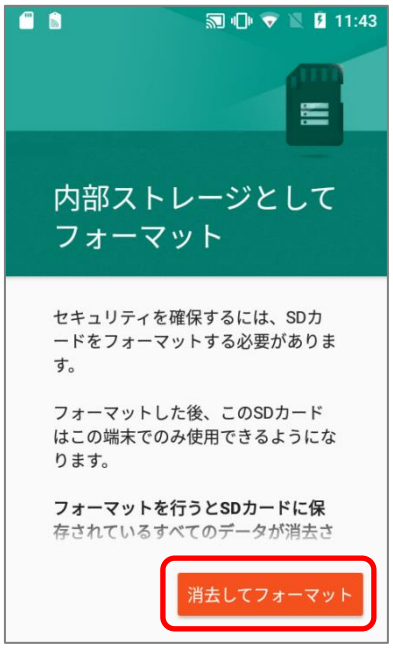
ストレージ画面では、この SD カードの容量が合計デバイスストレージに合計されます。その点に注意してください。この設定では、SD カードにどのファイルを保存するかを決めることは出来ません



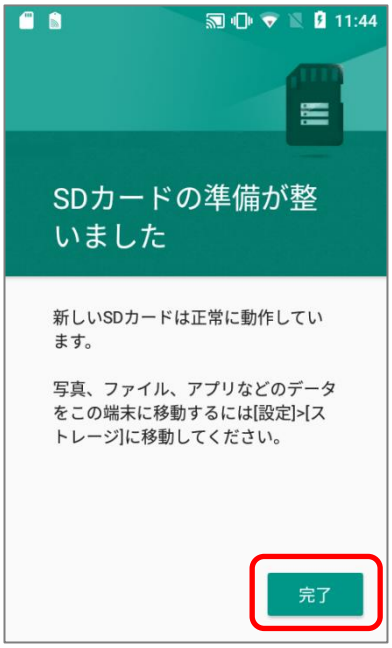
警告:
このカードを事前に取り出す処理をすることなく、デバイスから SD カードを取り外さないでください。

始めるには

1) SD カードを挿入します。 SD カードが検出されたことを示す通知が表示されます。“セットアップ”をタップします。
2) “内部ストレージとして使用” と”次へ“をタップ
3) “消去してフォーマット”をタップしてカードをフォーマットします



4) メディアファイルをこの新しい SD カードに移動するかどうかを尋ねられますので、選択して「次へ」をタップします。
5) 設定が完了したら “完了”タップ



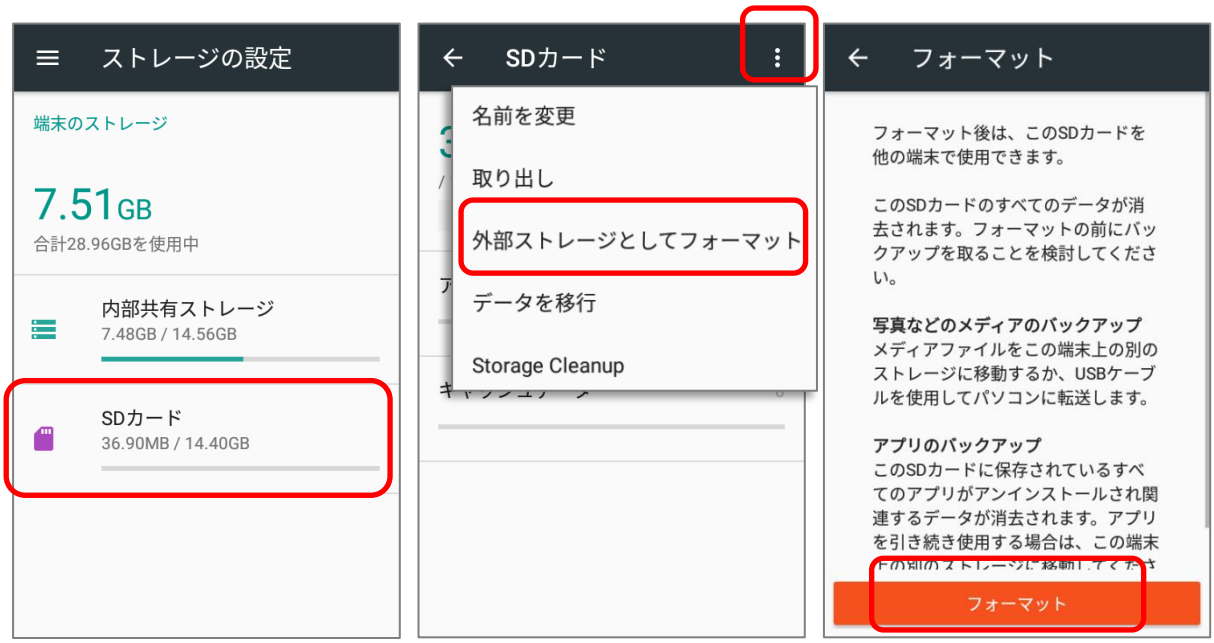
手順 4 で「今すぐ移動」を選択後、SD カードスペースの使用をすぐに開始することをお勧めします。 [後で移動]を選択すると、デバイスは元のデバイスを唯一の保管場所と見なしてファイルを保存します。

SD カードをポータブルストレージに変換

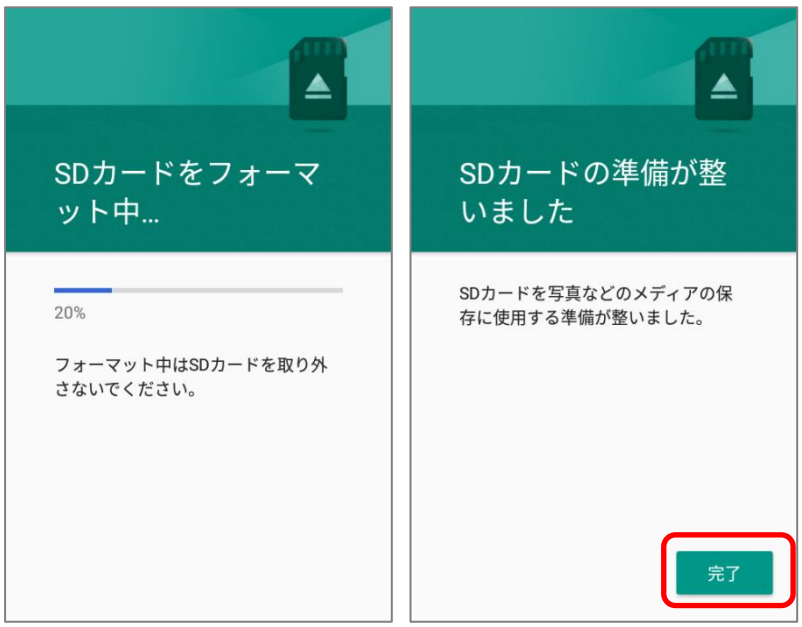
1) SD カードは、内蔵ストレージからポータブルストレージにいつでも変換できます。ストレージ画面で、SD カードをタップします。 その前に、このディスクのファイルを保存しておきたい場合は、このディスク上のファイルのバックアップを作成してください。

2) SD カードのコンテンツ画面で、詳細 ⋮ をタップ、“外部ストレージとしてフォーマット”をタップ

3) “フォーマット”をタップするとこの SD カードは他のデバイスからアクセスできるようにファイルを再フォーマットします。



4) フォーマットが完了したら”完了”をタップ



注意：

フォーマットを進める前にこの SD カードの中の重要なファイルはバックアップして下さい。

2.3. タッチスクリーン

モバイルコンピュータは、4.0 インチ、コーニングゴリラガラス3、480RGBx800 ピクセル LCD 画面を搭載。
暗い環境下での読み取りを容易にする画面の LED バックライトは、手動および自動で制御できます。

警告

スクリーンの表面をとがった物や鋭いもので擦らないで下さい。

2.3.1. スクリーンの明るさ

アプリ画面 | 設定 | 画面 | 明るさのレベル。
スクリーンの明るさをスライダーを左右にドラッグして調節。
明るさの自動調整を ON にするとモバイルコンピュータ内臓のセンサーがバックライトを自動調整します。
クイック設定メニューでショートカットメニューで調整も出来ます。

注:
バッテリーの電力を節約するには、明るい場所で作業しているときに画面の明るさを暗くするか、
画面のバックライトが消えるようにスリープ時間を短く設定します。

2.3.2. スクリーンの回転

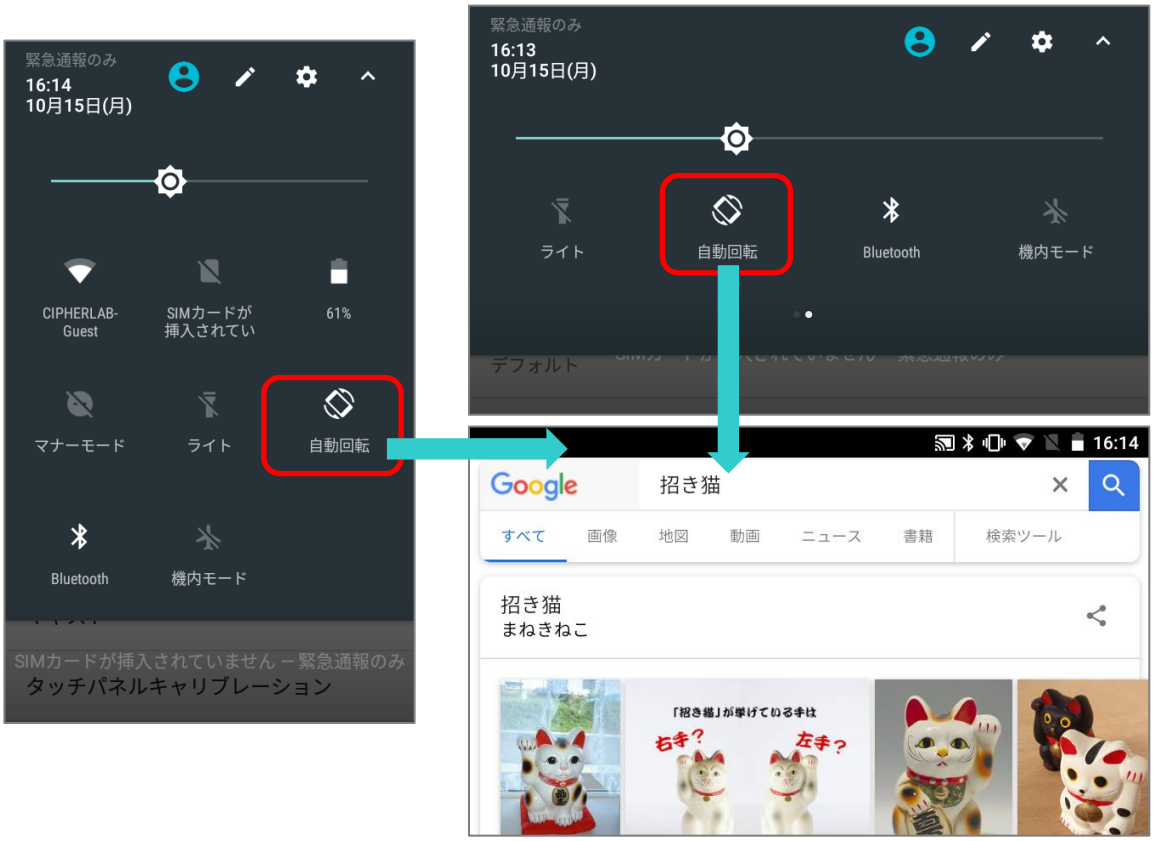
デフォルトでは、デバイスを横向きにすると自動的に画面が回転します。 この機能をオンまたはオフに切り替えるには:

1) アプリ画面 | 設定 | 画面
2) “端末が回転した時”をタップし“画面のコンテンツを回転させる”か”現在の向きを維持する“選択

“現在の向きを維持する”の場合、選択した時のスクリーンの向き(縦長、あるいは横長)による。

または

3) 2 本の指でスクリーントップからスワイプダウンしてクイック設定を開き、自動回転アイコンをタップしてスクリーンの回転を有効にします。これにより、一時的な文字入力の時、ワイドキーパッドが使え容易にすることが出来ます。



ホームスクリーン回転を有効にするには自動回転が有効であることを確認し、ホームスクリーン上の空いている個所を押し、“設定”をタップして“ホーム画面の回転を許可”を有効にします。

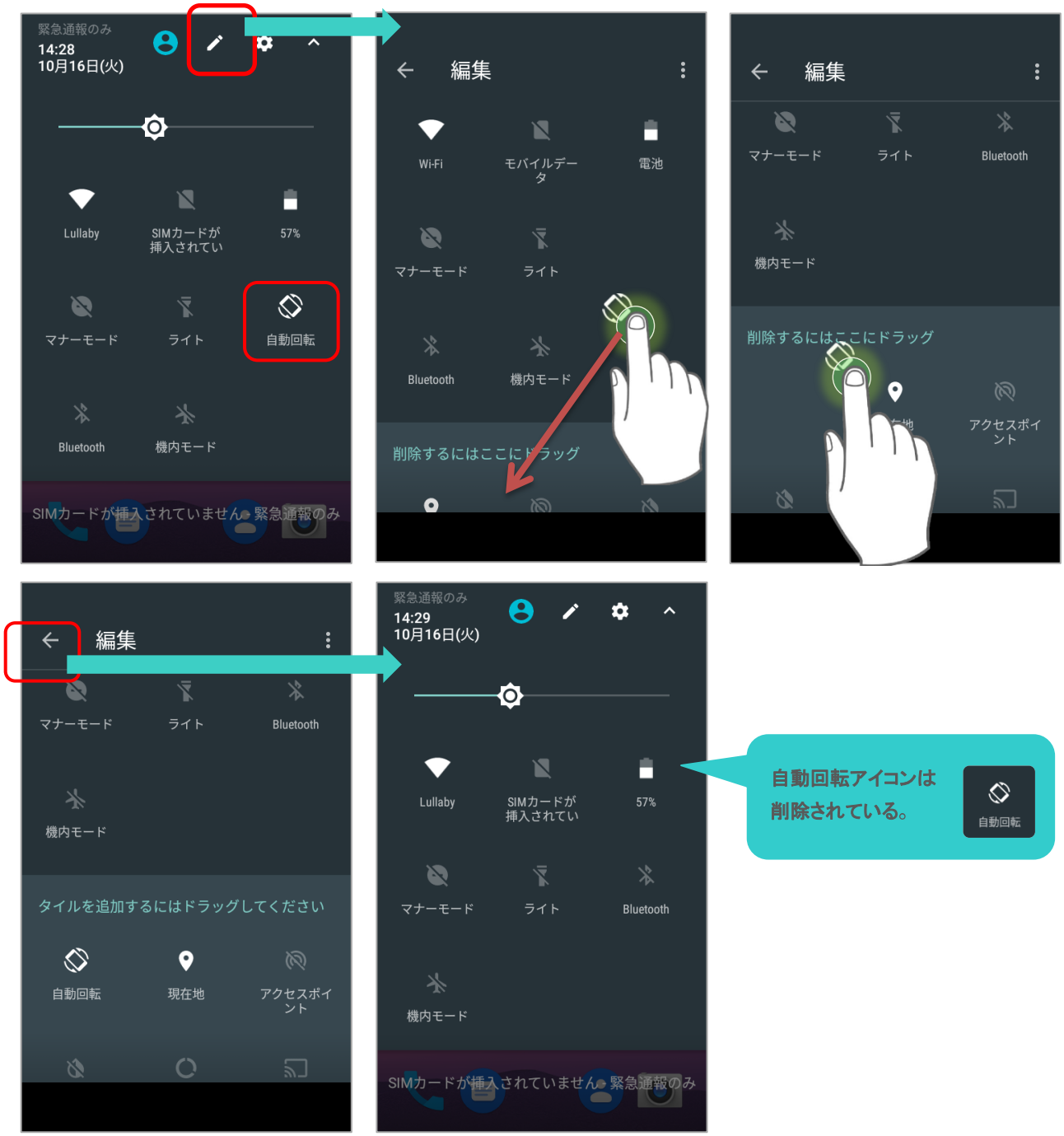
自動回転アイコンをクイック設定メニューと画面設定から削除

自動回転アイコンをクイック設定メニューから削除することにより、突然画面が回転してしまうという危険を避けることが出来ます。

1) 2 本の指で画面トップからスワイプダウンしてクイックせってメニューを開く。

2) ボタンをクリックして編集画面に移行。自動回転アイコンをタップして押さえながら灰色の領域にドラッグしてそこで指を放す。

3) クイック設定メニューに戻っても自動回転アイコンは削除されている。



アプリ画面 | 設定 | ユーザ補助 で画面の自動回転を OFF にする。これによりディスプレイ画面から自動回転オプションが削除される。

注:

自動回転は特定のアップリには有効でなく、“ホームスクリーンの回転を許可”が有効に設定されていないと、ホームスクリーンやアプリリスト画面に対しては無効です。

2.3.3. スクリーンタイムアウト設定

アプリ画面 | 設定 | 画面 スリープ

スクリーンのタイムアウト時間を選択

2.3.4. フォントサイズ

アプリ画面 | 設定 | 画面 | フォントサイズ

小さいアイコン A あるいは大きなアイコン A をタップして小、デフォルト、大、最大のフォントサイズを選択

2.3.5. 画面サイズ

アプリ画面 | 設定 | 画面 | 画面サイズ

プラスアイコン + またはマイナスアイコン − をタップして画面サイズを小とデフォルトから選択

2.4. 通知

2.4.1. 通知 LED

タッチスクリーンの上に位置する 2 個の LED インジケータは、データ収集中の充電状態、スキャナ光、スキャナ「Good Read」に関する情報を表示します。

LED 1　パワーインジケータ

インジケータ	状態	説明
充電	緑色点灯	充電完了 (100%)
	赤色点灯	充電中 (0% to 99%)
	赤色点滅	充電温度エラー (0℃以下あるいは40℃以上)
バッテリー交換	赤色、1回フラッシュ	電源ボタンを押してポップアップメニューで”バッテリー交換“を選択。LED が赤色点灯。 赤色ライトが消えると端末はサスペンド状態に移行。メインバッテリーを取り外せます。

LED 2　リーダーおよびシステム関係の通知

インジケータ	状態	説明
バーコードデコード	緑色、1回フラッシュ	読み取り成功

注:
スキャナ読取りおよびスキャナ光 LED が機能するためには、リーダー設定で LED 通知を有効にする必要があります。

2.4.2. オーディオ

スピーカーは、ウィンドウやプログラム内のイベントのサウンドの再生、オーディオファイルを再生するために使用されます。 さらに、ステータスフィードバック用にプログラムすることもできます。 ノイズの多い環境では、代わりにヘッドセットを接続することを検討してください。 モバイルコンピュータの上部には、3.5 mm DIA ステレオイヤホンジャックであるヘッドセットジャックが装備されています。

モバイルコンピュータは、Bluetooth ヘッドセットの使用もサポートしています。

サポートしているオーディオファイルは： MP3, AAC, He-AAC v1 and v2, WMA9/Pro, Dolby AC-3, DTS-HD M6 and DTS-HD M8 になります。

モバイルコンピュータの側面にある音量ボタンを使用して、システム音量を調整します。

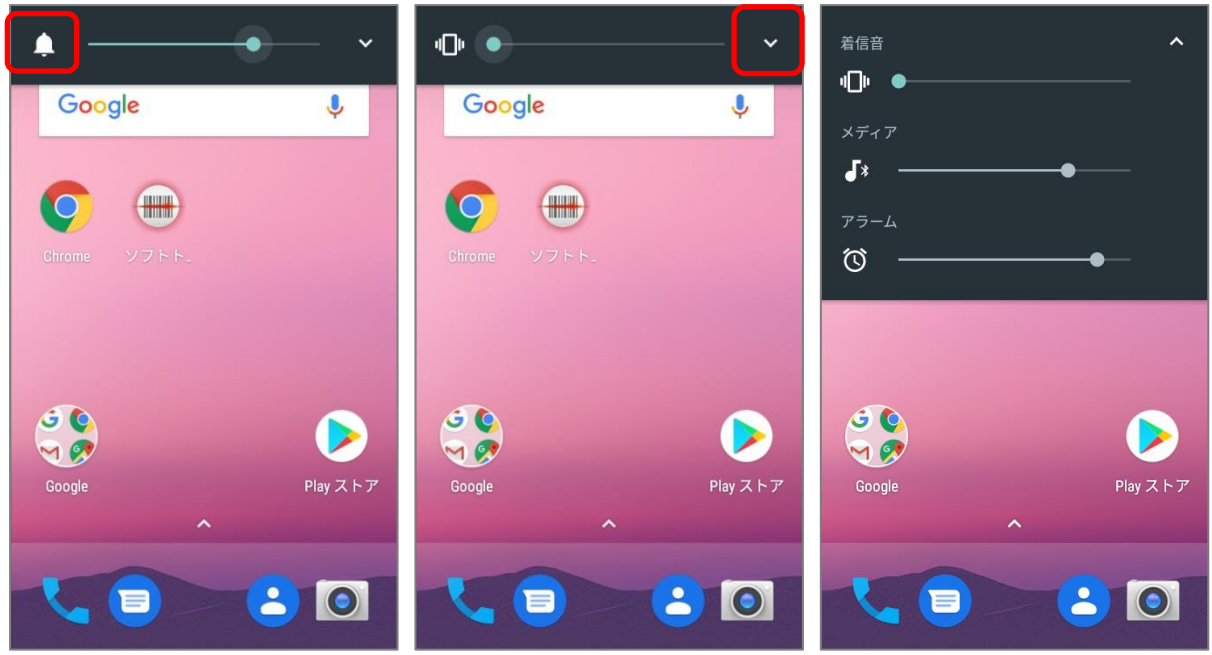
2.4.3. サウンドとバイブレーション

モバイルコンピュータは、プログラム可能な触覚的フィードバックとしてバイブレータが装備されています。（騒々しい環境で作業する場合に役立ちます。）

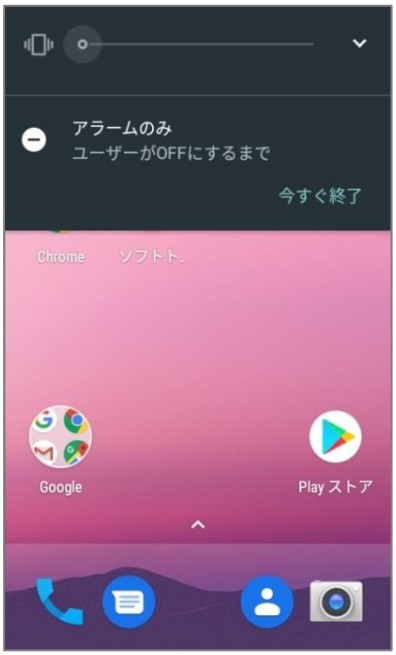
モバイルコンピュータをバイブレーション機能のみに設定することもできます。この場合、すべてのシステムサウンドはミュートされ、バイブレータに置き換えられます

どの画面からでもボリュームキーを押してクイックサウンドメニューを開けます。

をタップすると端末は バイブレーションモードに切り替わります。特定のサウンドを設定するには をタップして設定します。



音量を下げるキーを長押しすると直接“マナーモード”に設定されます。



サウンド設定

アプリ画面 | 設定 | 音 詳細設定

マナーモード

クイック設定メニューでマナーモードに設定できます。この機能は有効期間を設定することもできます。

二本の指でステータスバーから画面をスワイプダウンしてクイック設定を開きマナーモードをタップし、
必要な設定を続けます。

項目	サイレント	アラームのみ	重要な通知のみ
アラーム	OFF	ON	ON
リマインダー	OFF	OFF	デフォルトは ON
イベント	OFF	OFF	デフォルトは ON
着信	OFF	OFF	デフォルトは電話帳からのみ
メッセージ	OFF	OFF	デフォルトは OFF
音楽、ビデオ、ゲームまたはメディア	OFF	ON	ON
通話中	ON	ON	ON

2.5. 日時の設定

デフォルトでは、自動的に WWAN ネットワークと同期します。(WWAN 接続時のみ有効)
日時を手動で設定するには

1) アプリ画面 | 設定 | 日付と時刻
2) 日付と時刻の自動設定をタップして OFF に設定。
3) タイムゾーンの自動設定も OFF。
4) 日付設定をタップ スライダーで正しい月、日、年を選択し OK をタップして保存。
5) 時刻設定をタップし、同様に正しい時刻を選択、OK をタップ。
6) タイムゾーンの選択をタップしリストから正しいタイムゾーンを選択。

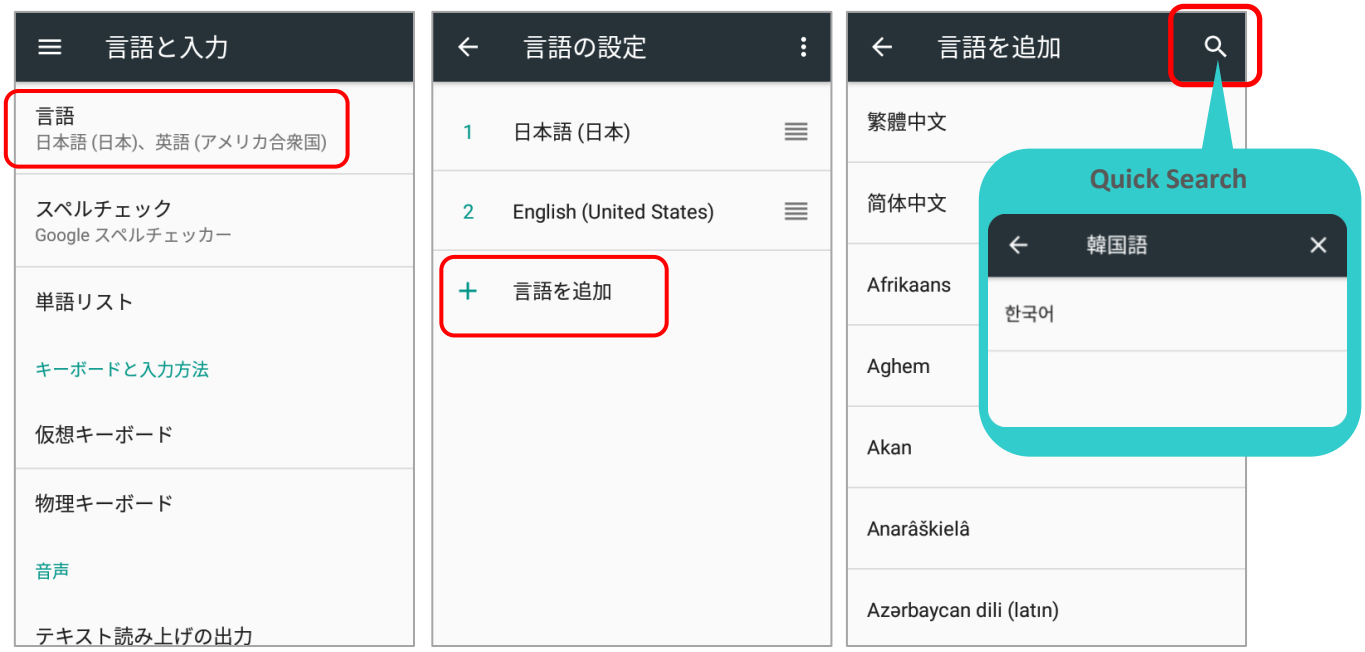
2.6. 言語とキーボード入力

アプリ画面 | **設定** | **言語と入力** でシステム言語、デフォルトのキーボードタイプ、キーボード入力と音声入力の設定を変更します。

2.6.1. 画面の言語

画面言語を設定：

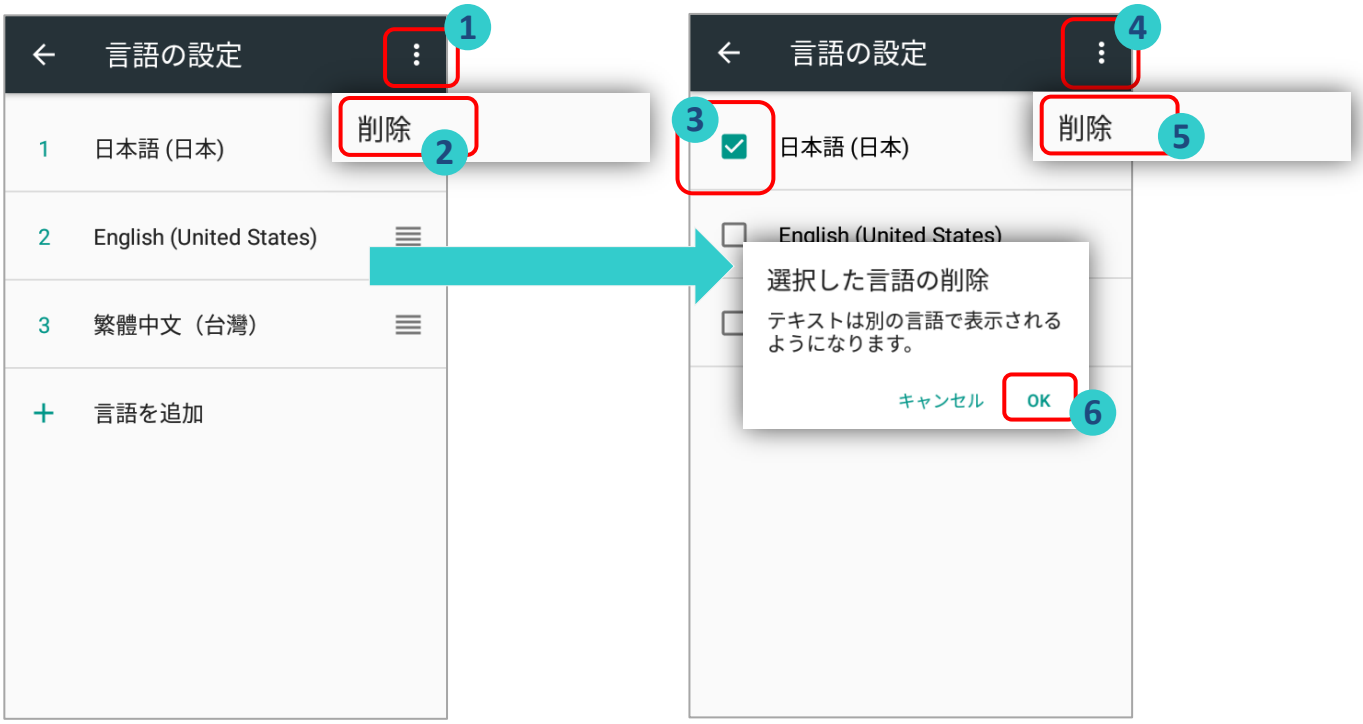
1) 言語と入力画面で言語をタップ、“言語の設定”ページを開き、“言語を追加”をクリック、希望するシステム言語を選択。



2) 希望するシステム言語をソーティングオーダーの1番目に押しながらドラッグ。新しい言語の設定がすぐに適用されます。

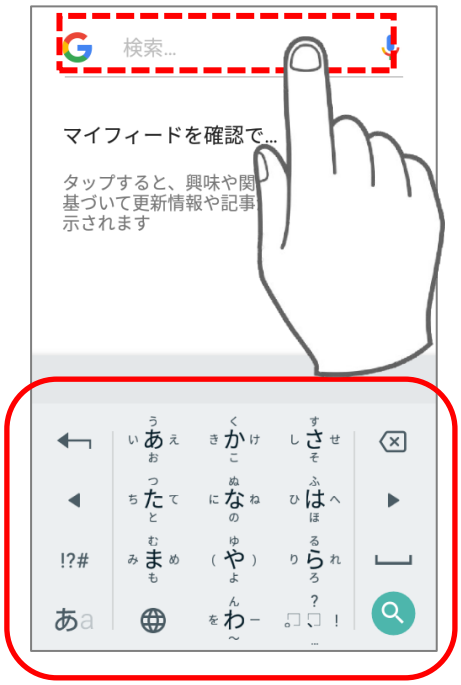
言語の削除

⋮ をタップし”削除“オプションをタップ。削除する言語を選択」、選択した言語が削除されると画面の言語はそれに従って変更されます。



2.6.2. オンスクリーンキーボード

テキスト入力フィールドをタップすると自動的にオンースクリーンキーボードが表示されます。仮想キーボードはデータタイプ(テキストか数字か)によって変わります。



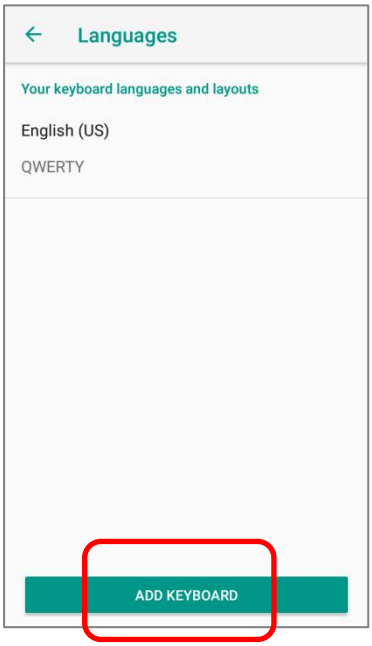
キーボード選択(入力方法)

言語と入力画面で“仮想キーボード”を選択、キーボードを管理ページで入力方法を ON/OFF で選択。

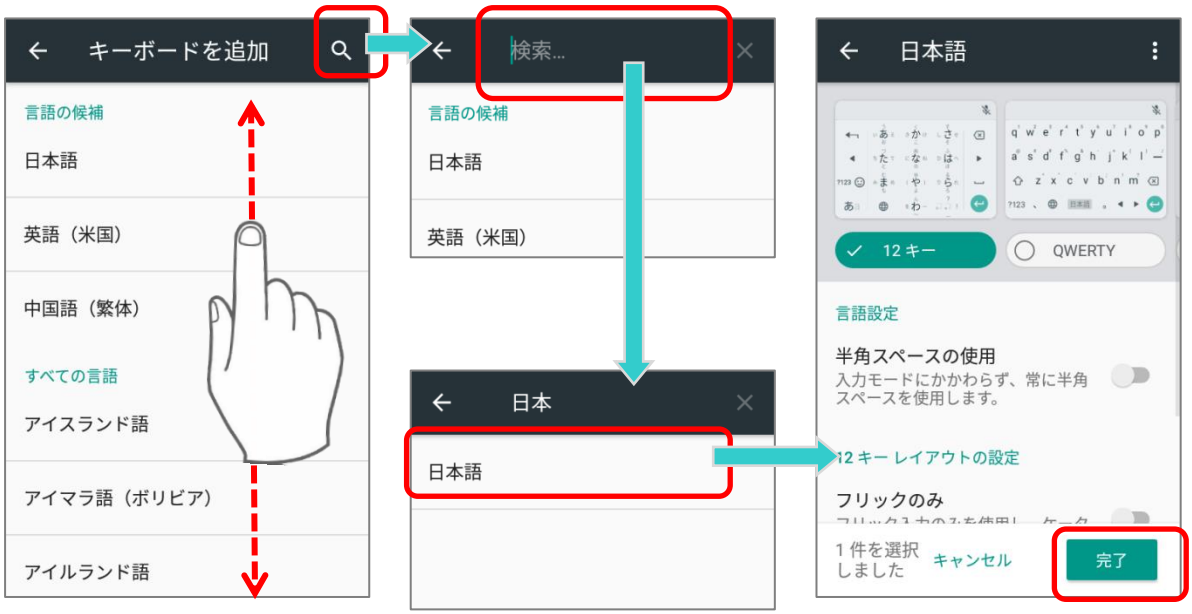
デフォルトのキーボードは “Gboard”で多言語入力をサポートしています。キーレイアウトオプションで、日本語も可能です。

1) 言語と入力画面で仮想キーボードをタップ、Gboard と言語を選択

2) 言語画面で “キーボードを追加”をタップ、



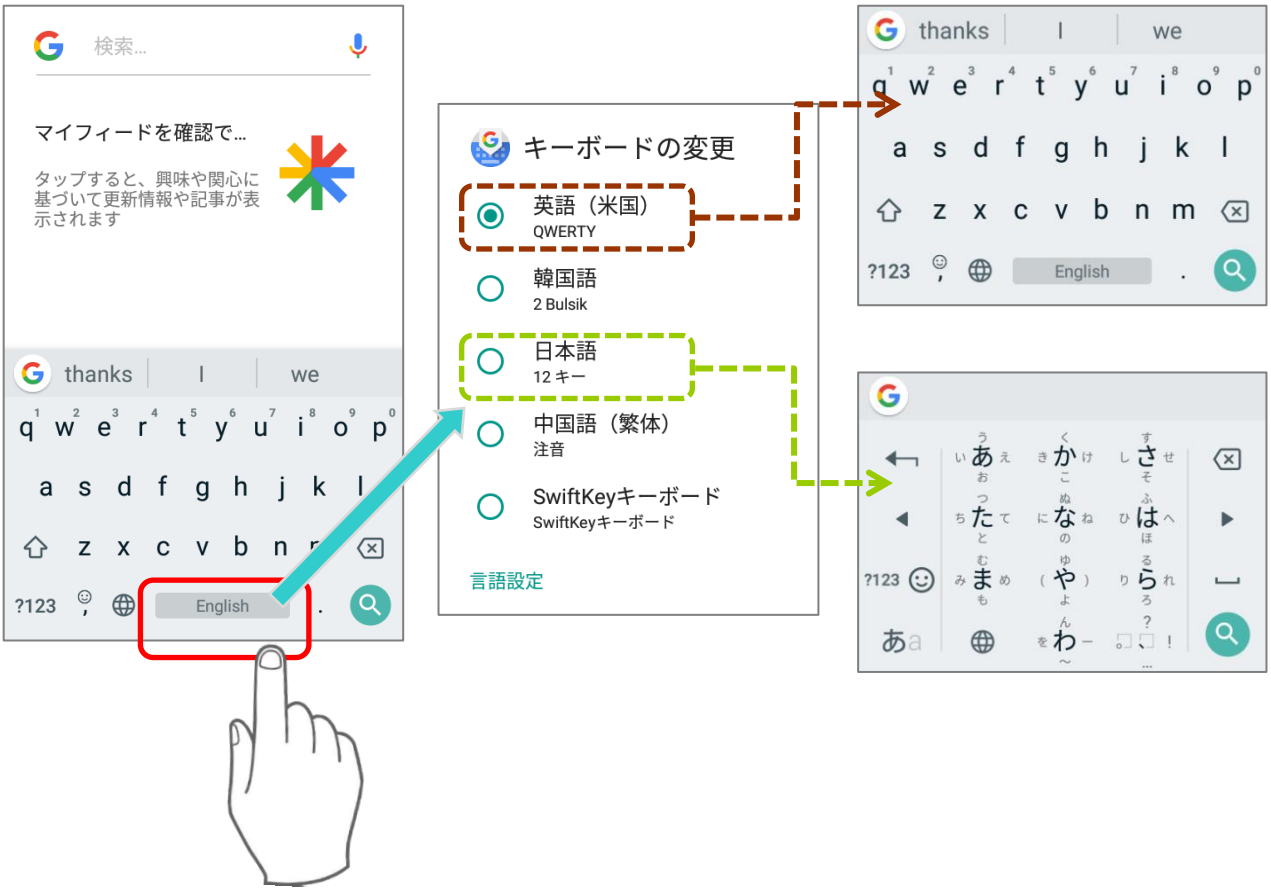
3) 希望する言語を検索するためスワイプするかキーワードを入力、キーパッドレイアウトを選択。



4) 言語画面に戻ります。設定したキーボード言語とレイアウトがリストされます。

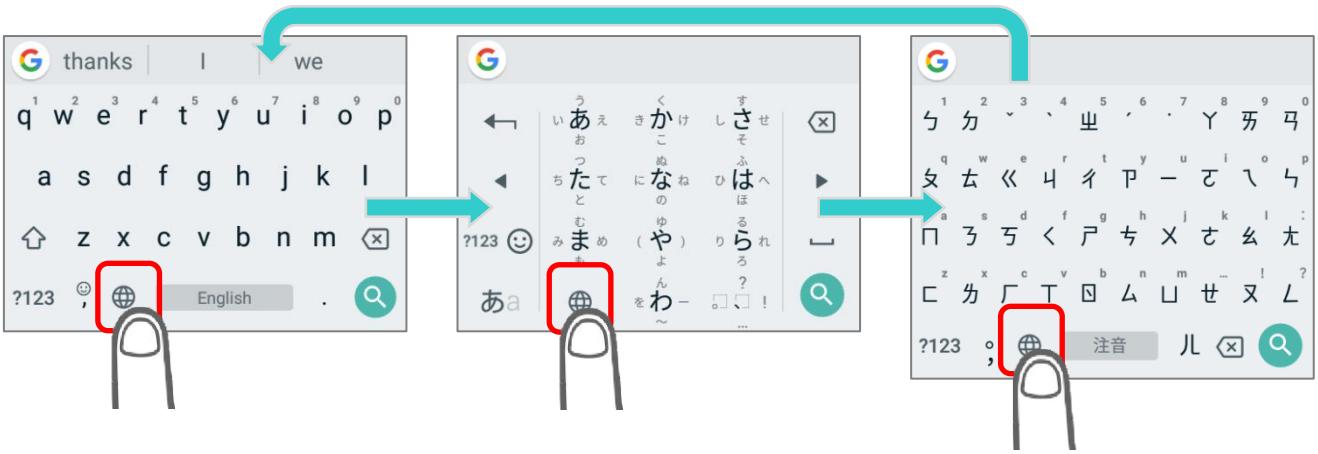
キーボードの変更（入力方法）

Gboard でスペースキーか を長押しして“キーボードの変更”メニューを開き希望する入力言語を選択



または

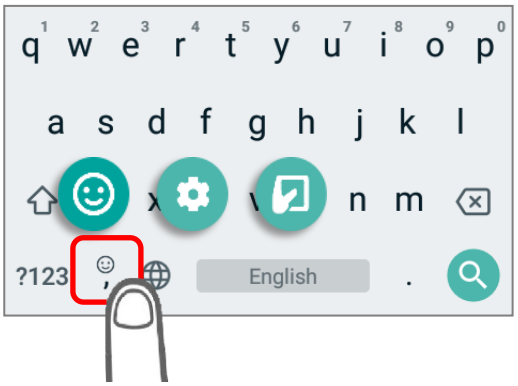
単純に をタップしてオプションを選択



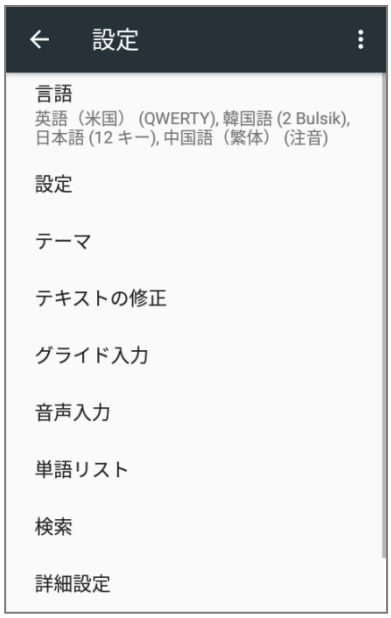
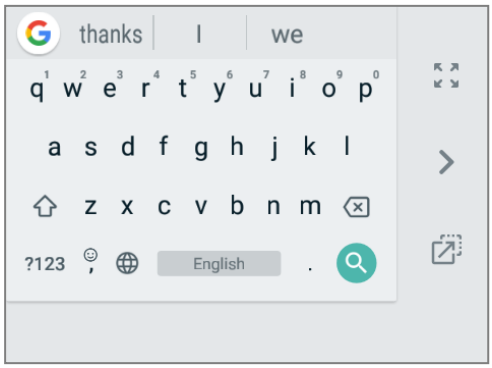
もし独自にインストールしたキーボードがある場合は”キーボードの変更“が表示されるまでスペースキーあるいは を長押し、必要なキーボードを選択。 またはステイタスバーからスワイプダウンして通知を開き”キーボードの変更“通知をタップしてそれを変化させます。

キーボード設定の調整

キーボード設定の調整のため、 カンマボタン をロングタッチ、設定ボタン が表示されます。スクリーンを押し続けながら必要な機能のボタンにスワイプします。



それぞれの設定ボタンをタップします：

ボタン	説明	図解
	設定するために Gboard 設定ページに移行	
	絵文字を表示 ABC をタップ、テキストキーボードに戻ります	
	必要とするレイアウトに調整 をタップ、デフォルトキーボードレイアウトに戻ります または をタップして右手モードあるいは左手モードにスイッチ をタップしてキーボードの位置を調整	

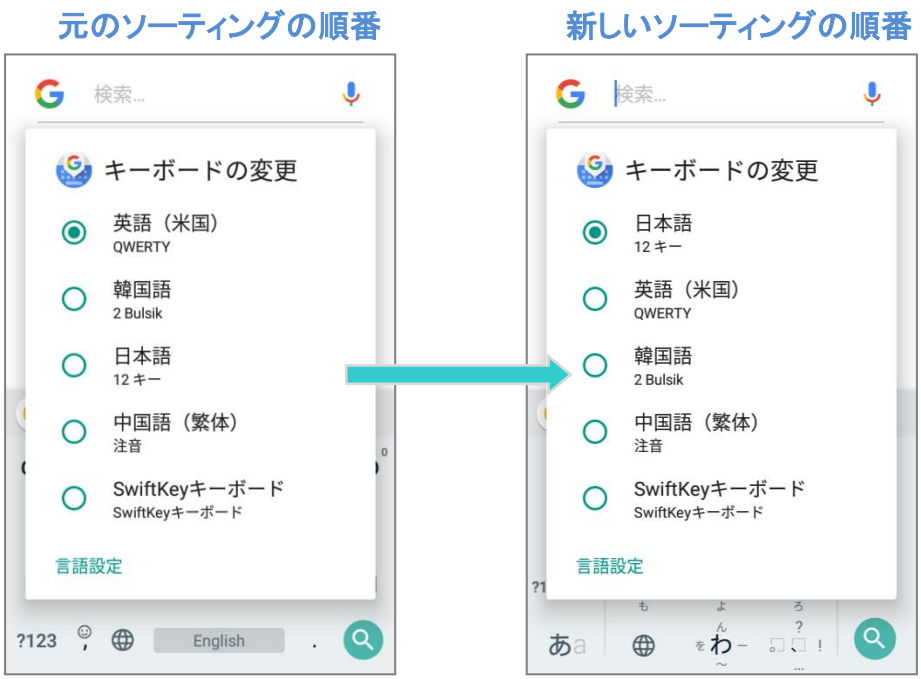
キーボード言語の編集（入力方法）

キーボード言語を以下のように編集できます。

言語と入力 | 仮想キーボード | Gboard | 言語、 言語画面でキーボード言語を加える/削除することが出来、またキーボード言語ソーティングの順番を変えることが出来ます。

言語画面で、 編集アイコン をタップして編集モードへ移行。

キーボード言語ソーティングの順番を変えるには、目的の言語の上に指を置き、上下にスライドさせソーティングの順番を変えます。前画面に戻り、 任意のテキスト入力フィールドをタップし Gboad を表示させ、スペースキー/ ボタンを長押し、または”キーボードの変更“をタップ、キーボード変更メニューのリストでソーティングの順番は変更されます。



キーボード言語を削除するには、削除する言語にチェックをし、画面右上の削除アイコンをタップします。
最低一つの言語は残しておかなければなりません。

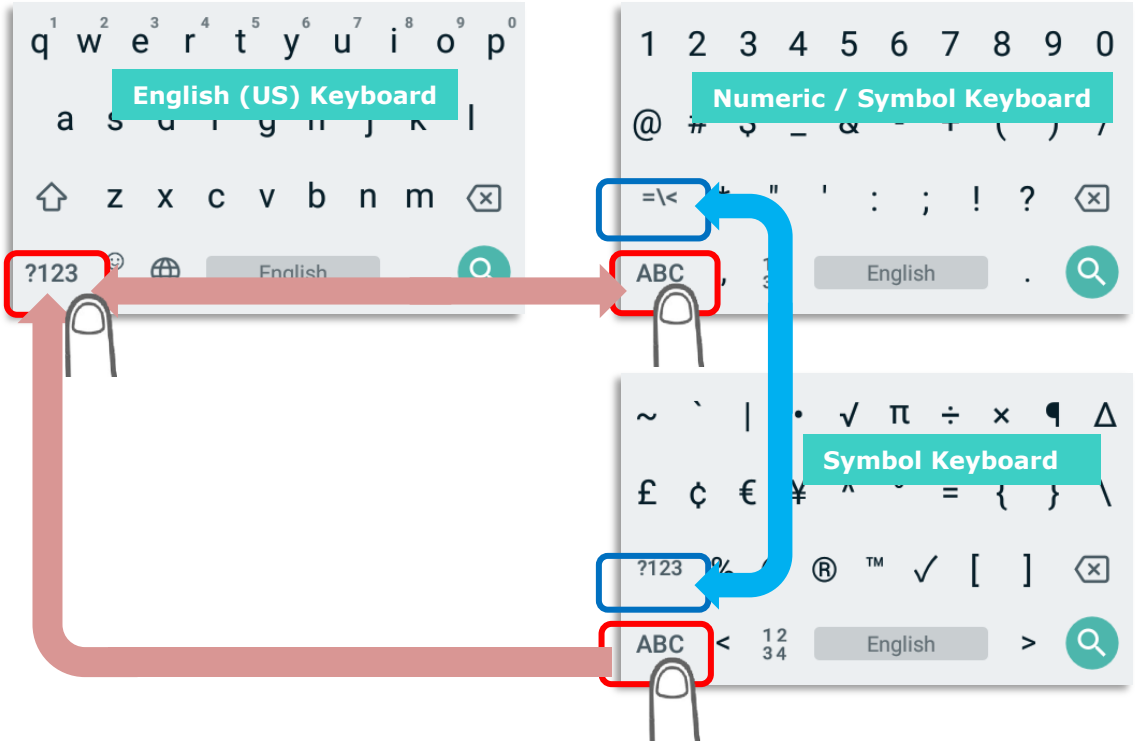
テキストの編集

テキストをタップし続けるとテキスト編集メニューですべて選択やコピー＆ペーストなどが出来ます。ただしアプリによっては異なる方法でテキストの選択や編集をします。

数字と記号の入力

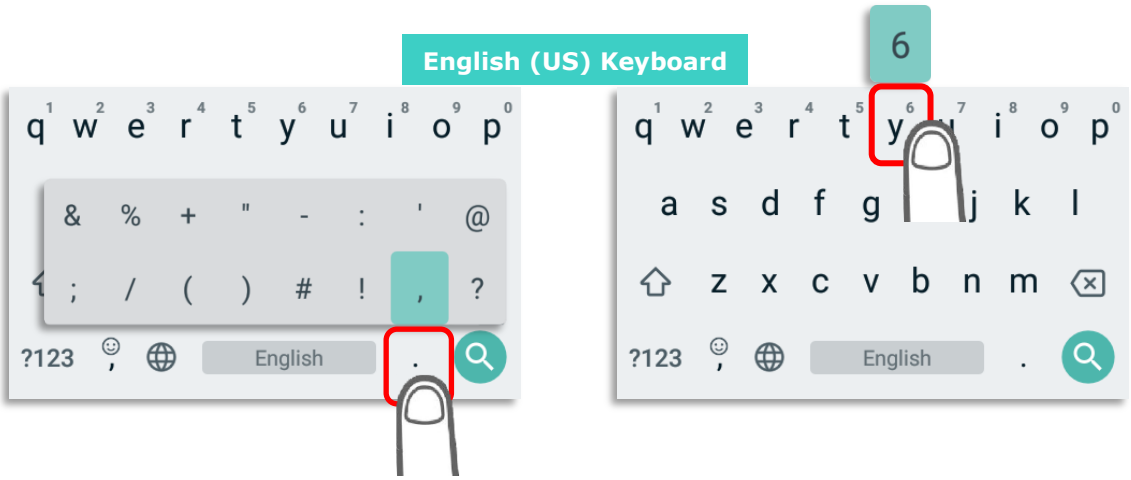
スイッチボタンで、数字や記号キーボードに切り替え出来ます。

ABC をタップして Android English (US) キーボードに戻る



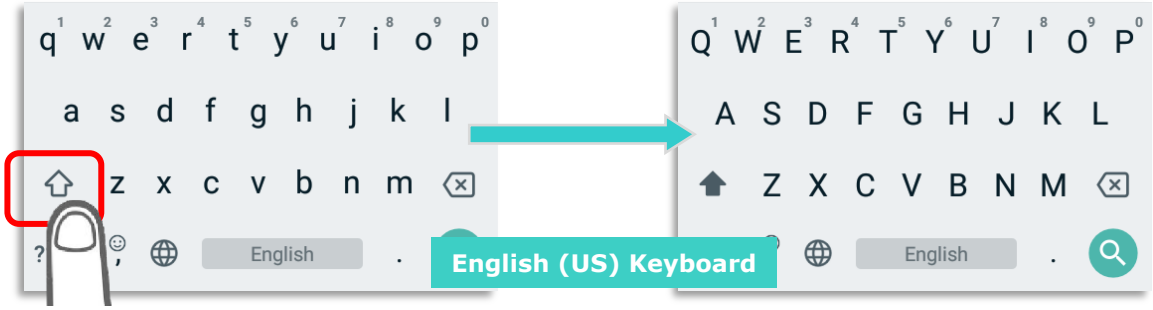
Gboard キーボードでは上記のスイッチをしなくても数字や記号を入力できます。

- ピリオドボタン . をタップしてロングタッチ、クイック記号キーボードが表示されます。
- pからqをロングタッチすると数字が表示されます。

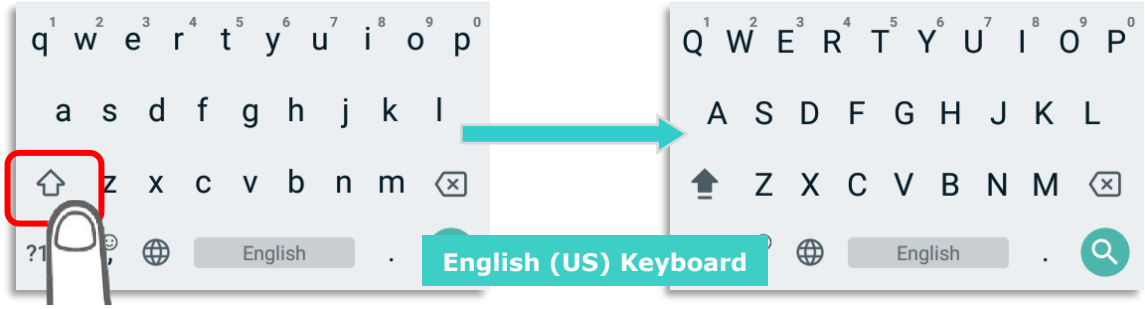


大文字の入力

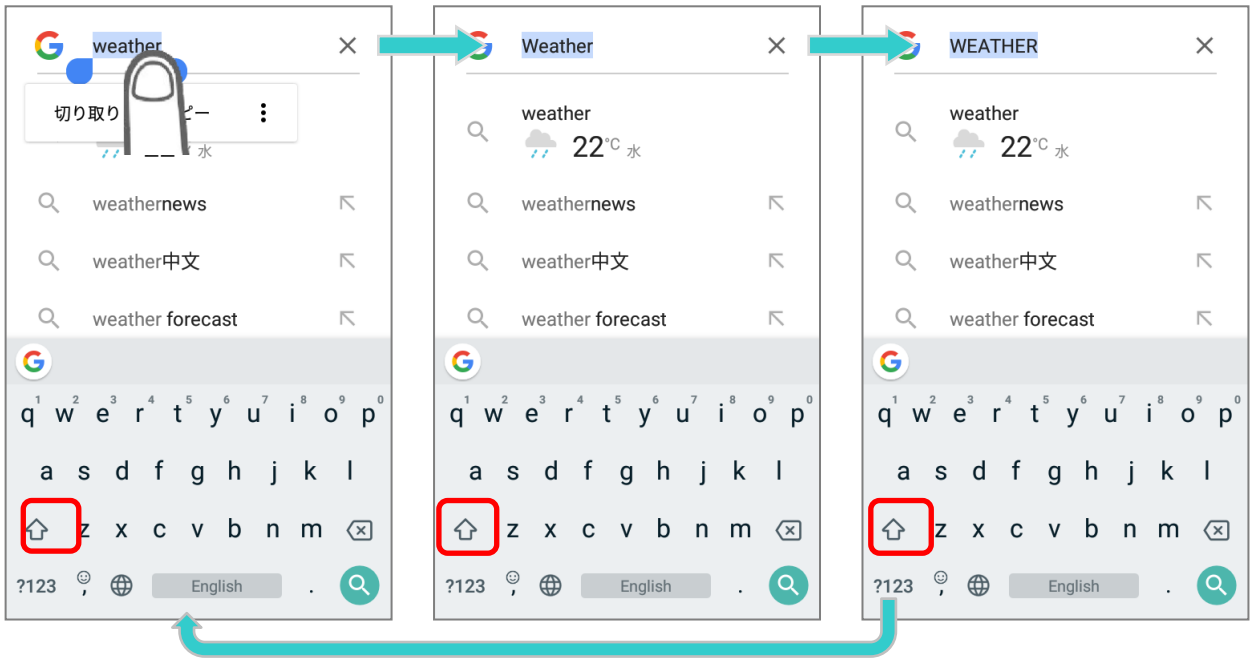
シフトキー タップすると に変わり、大文字キーに変換できます。なお大文字が一旦入力されると、再び小文字キーに戻ります。



シフトキー を 2 回タップすると に変わり、この場合は大文字キーが保持されます。小文字キーに戻すにはシフトキーを再度タップします。



または、直接入力した単語をタップし、ハイライトしたらシフトをタップ。
単語全部あるいは単語の先頭文字をシフトキーをタップしながら大文字に変換できます。



2.7. ハードキーパッド

ハードキーは画面と同様にバックライトされます。また2つのキーを同時に押してさらに機能を持たせることができます。

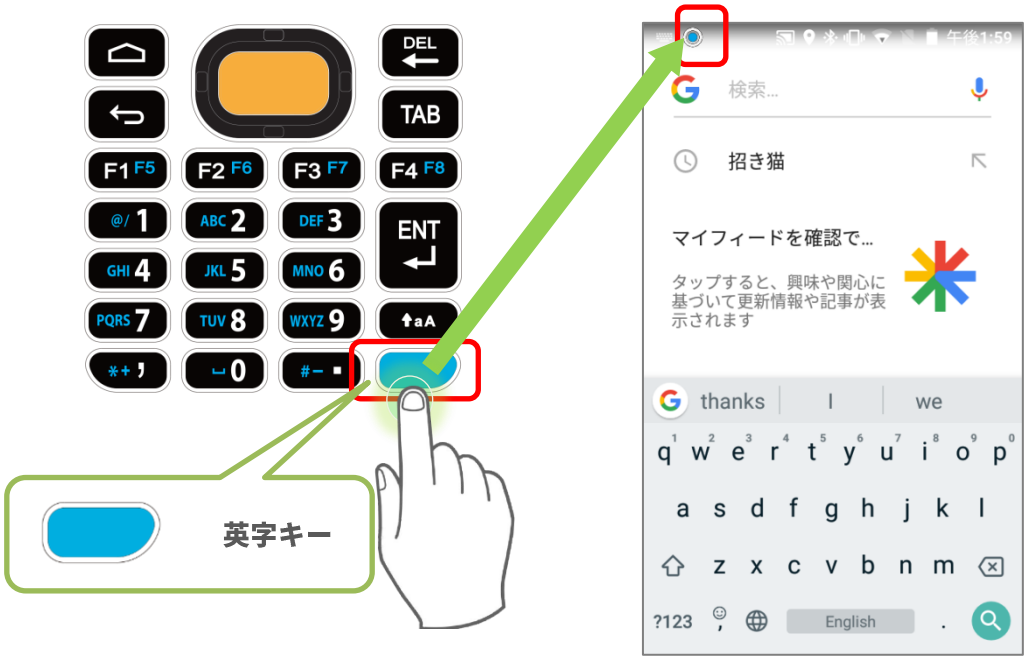
2.7.1. 基本キー

基本キーの機能は以下になります。

キー		説明
スキャンキー		スキャンキー
矢印キー		センターのスキャンキー周りの円周上、カーソルの上下左右移動
ホームキー		ホームスクリーンの表示
バックキー		直前の画面や、閉じたウインドウ、キーパッドなどへ戻る
削除キー	DEL	直前に入力した文字を削除
タブキー	TAB	カーソルを次のタブに進める
エンターキー	ENT	タップまたはダブルタップと同じ機能

2.7.2. 英字キー

キーパッドの右下部にある英字キーを押すとブルーアイコンが ステータスバーに現れ英文字モードになったことを示します。



英字キーになると、キーパッドは英字入力にロックされキー上の青色で示される文字の入力のみが有効となります。キーモードを戻すには再び英字キーを押します。

デフォルト入力モード

英字モード

注:

英字モードでシフトモードも有効であり、その場合は入力された文字は全て大文字となります。

参照 異なるモードでのキーの機能

2.7.3. シフトキー

シフトキー ⬆aA は英字キーの上にあり、それが押されるとステータスバーにアイコン が表示されキーの状態はシフトレジュームモードになっていることを示します。デフォルト入力モードに戻るには任意のキーを押します（削除キー以外）

シフトレジュームモード　　シフトロックモード

シフトキーが 2 回押されるとステータスバーにアイコン が表示されキーはシフトロックモードとなります。戻すにはシフトキーを再度押します。

2.7.4. 異なるモードでのキーの機能

デフォルト入力モード	シフトモード	英字モード	シフト＋英字モード
DEL ←	DEL ←	N/A	N/A
F1	F1	F5	F5
F2	F2	F6	F6
F3	F3	F7	F7
F4	F4	F8	F8
1	!	@/	@/
2	@	ABC	A, B, C 大文字
3	#	DEF	D, E, F 大文字
4	$	GHI	G, H, I 大文字
5	%	JKL	J, K, L 大文字
6	^	MNO	M, N, O 大文字
7	&	PQRS	P, Q, R, S 大文字
8	*	TUV	T, U, V 大文字
9	(	WXYZ	W, X, Y, Z 大文字
0	)	␣	␣
,	<	*+	*+
.	>	#−	#−
ENT ↵	テキスト入力フィールドで改行あるいは新しいパラグラフへ移行	ENT ↵	ENT ↵

2.7.5. キーパッドロック

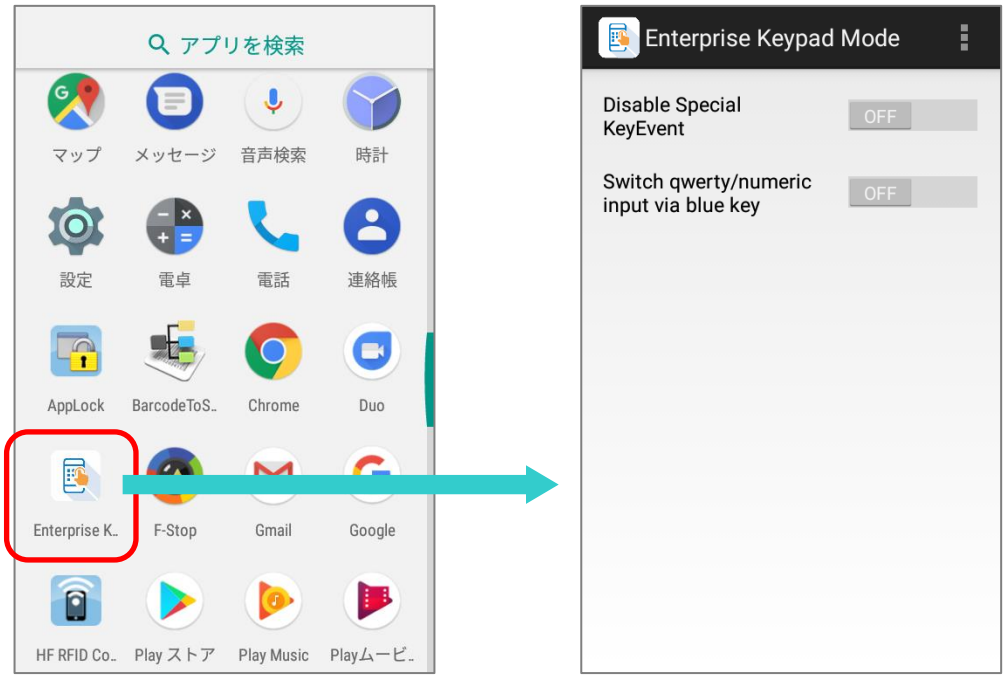
シフトキー ⬆aA 削除キーを押すと DEL キーパッドロックモードになります。

キーパッドロックモードになると、キーパッドはロックされ キーパッドロックアイコン がステータスバーに表示されます。

注:

英字モードの時削除キーは"削除"機能のみとなり(シフト+削除キー)の機能は作動しません。

2.7.6. エンタープライズ キーパッド モード

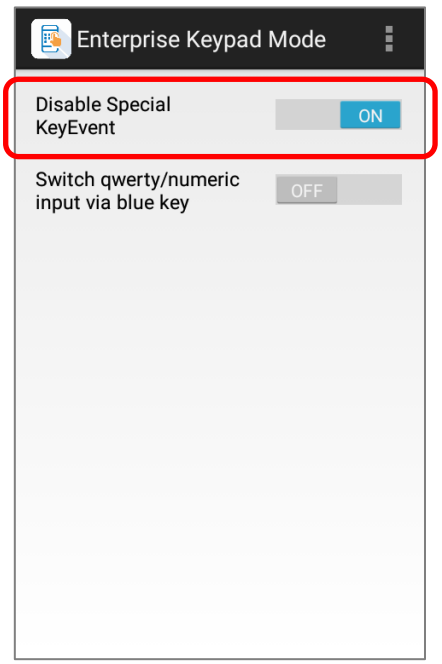


“エンタープライスキーパッドモード“アプリでハードキーパッドを設定できます。

アプリ画面から “エンタープライズキーパッドモード”をタップ：

特定のキーイベントを無効化

“特定のキーイベントを無効化”は 英字キー、および トリガーキーからの特定のキーコードを無効にします。デフォルトはこの機能は OFF で、スイッチで ON にできます。

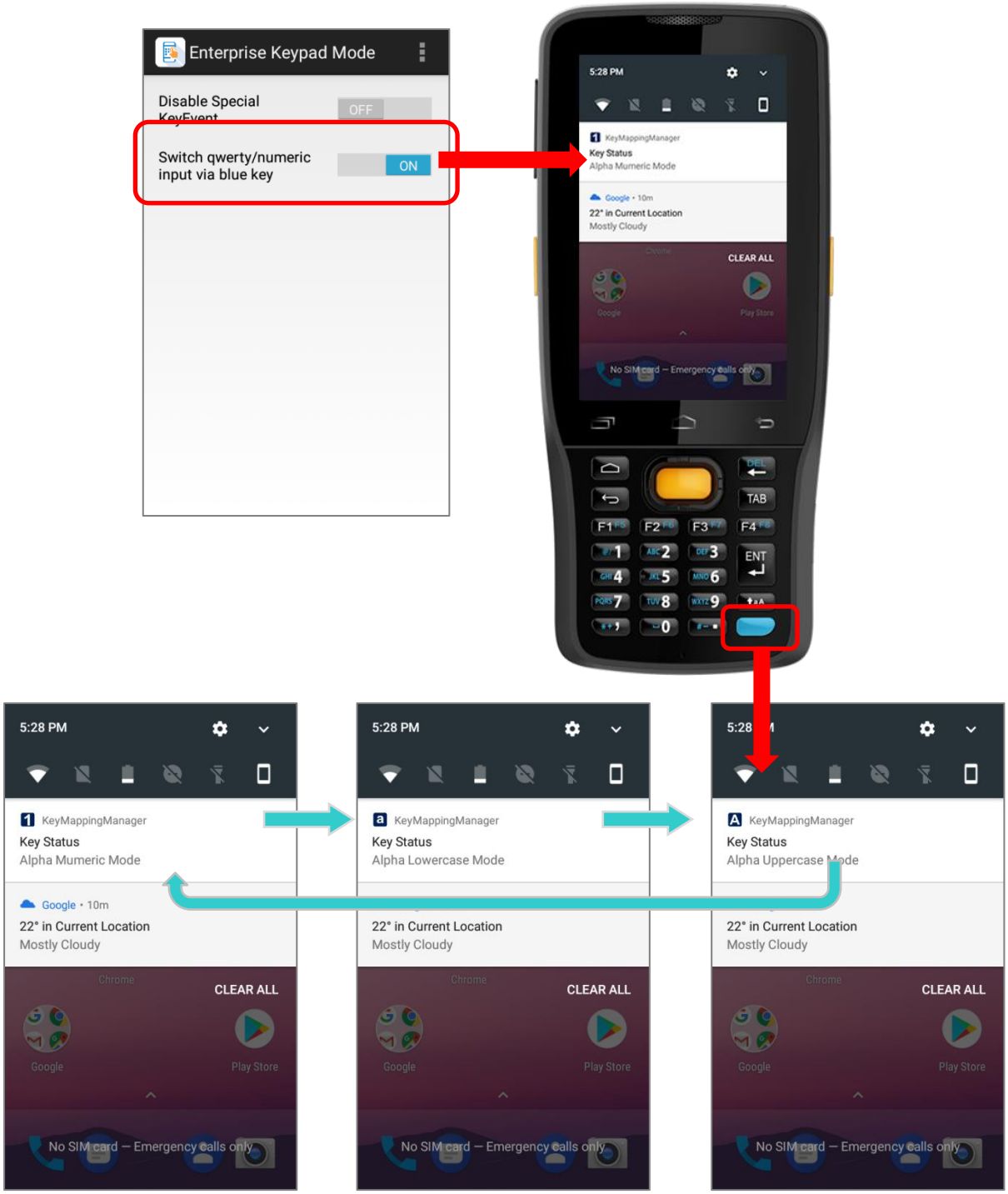


注：

この機能を ON にしてもトリガーキーを押してバーコードをスキャンする機能には影響しません。

青色キーで QWERTY/数字入力切り替え

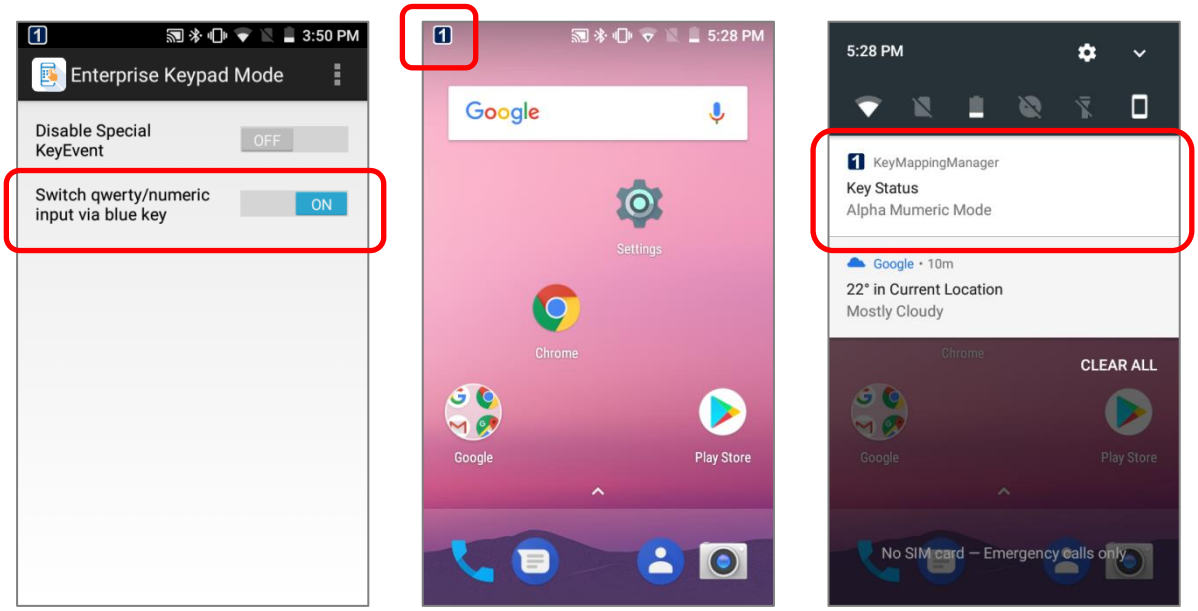
“青色キーで qwerty/数字入力 切り替え” を ON にしてハードキーの入力モードを切り替えることができます。この機能を有効にすることにより英字キー(青色キー)を押すことにより英数モード、英字小文字モード、英字大文字モードを順次切り替えることができます。



1) 英数字モード:

“青色キーで qwerty/数字入力 切り替え”機能を ON にするとハードキーは直ちに数字キーパッドになります。

アイコン 1 がステータスバーに表示され英数字モードであることを示します。

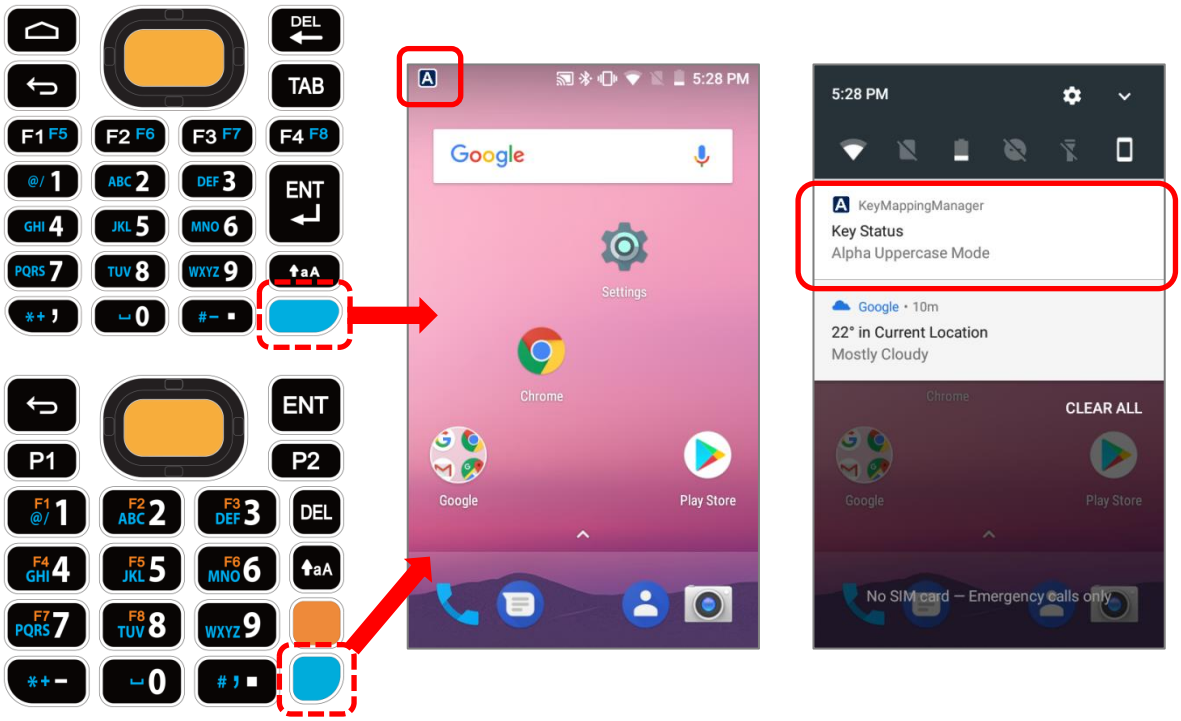


2) 英字小文字モード:

英数字モードで、英字キー(青色キー)を1回押すとハードキーは小文字キーパッドになりステータスバーに a アイコンが表示されます。

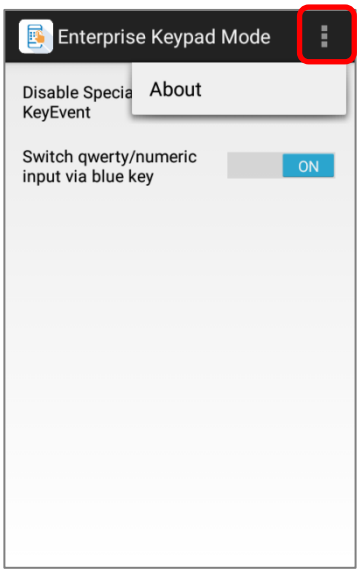
3) 英字大文字モード:

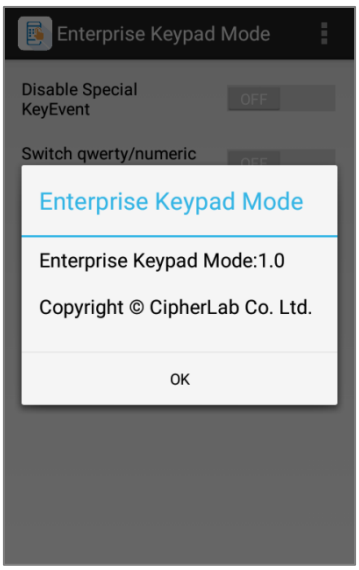
英数字モードで、英字キー(青色キー)を2回押す、あるいは英字小文字モードで1回押すと英字大文字モードになり A アイコンがステータスバーに表示されます。英字キー(青色キー)を再度押すと英数字モードに切り替わります。



ABOUT

アクションバーの ⋮ をタップし、"About"をタップするとアプリのバージョンと著作権情報が表示されます。





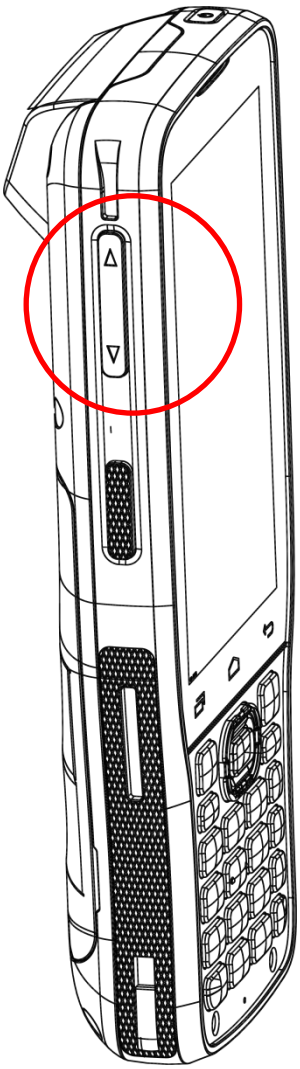
2.7.7. キーパッドバックライト

デフォルトではキーパッドバックライトは有効になってます。

ON/OFFするには アプリ画面 | 設定 | 画面 で”キーバックライト“をタップします。

2.8. サウンドと音量

モバイルコンピュータの左側面にある音量調節ボタンで調整します。



2.9. データ取り込み

2.9.1. バーコードリーダー

多様な要望にお応えできるようスキャンエンジンを選択できます。(RK25J は2D イメジャーのみ)内蔵されているスキャンエンジンによって多くのバーコードを読み取ることが出来ます。

ReaderConfig アプリにより、読み取るバーコードと読み取らないバーコードとを設定することも可能です。

2.9.2. デジタルカメラ

モバイルコンピュータに内蔵されている 8 メガピクセルのリアカメラはイメージデータを収集するのに最適に設計されています。デフォルトではカメラでと撮られたイメージはカメラのDCIMストレージホルダーにJPGファイル形式で保存されます。

第3章

基本操作

この章では RK25 モバイルコンピュータで作業するためのスキルを、例えばホームスクリーンの操作、チェックシステムの状態、管理の通知などを記します。データ収集やその処理、転送に付いては次章に記します。

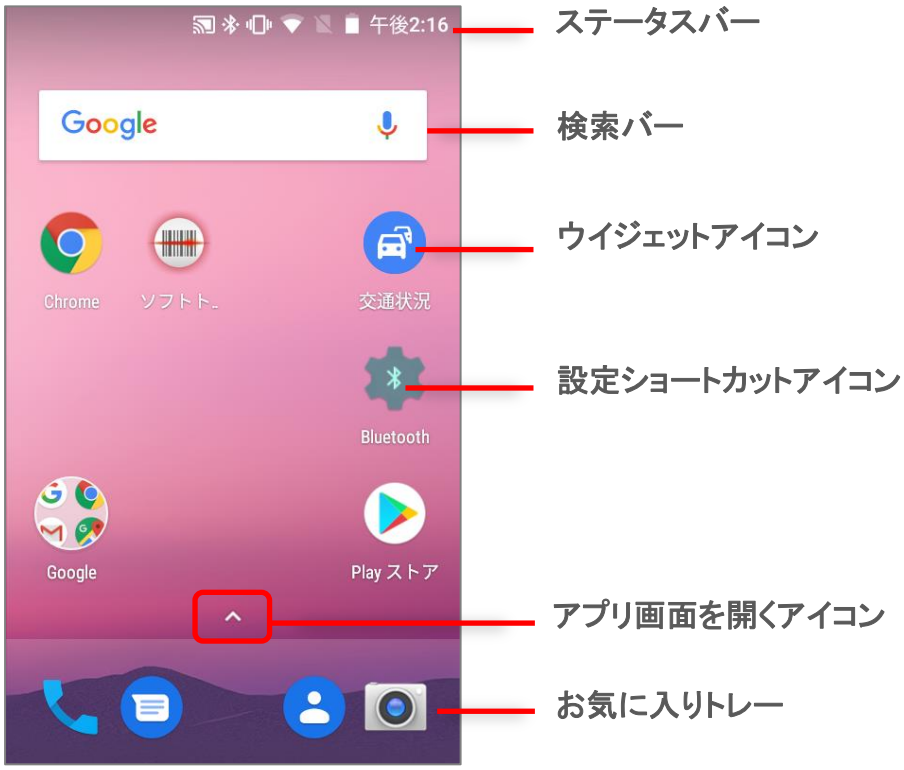
本章の内容

3.1 ホームスクリーン 101
3.2 ステータスバー 114
3.3 アプリケーション管理 122
3.4 サスペンドとロック 126
3.5 OS のアップデート 129
3.6 データのバックアップ 131
3.7 データの初期化 132

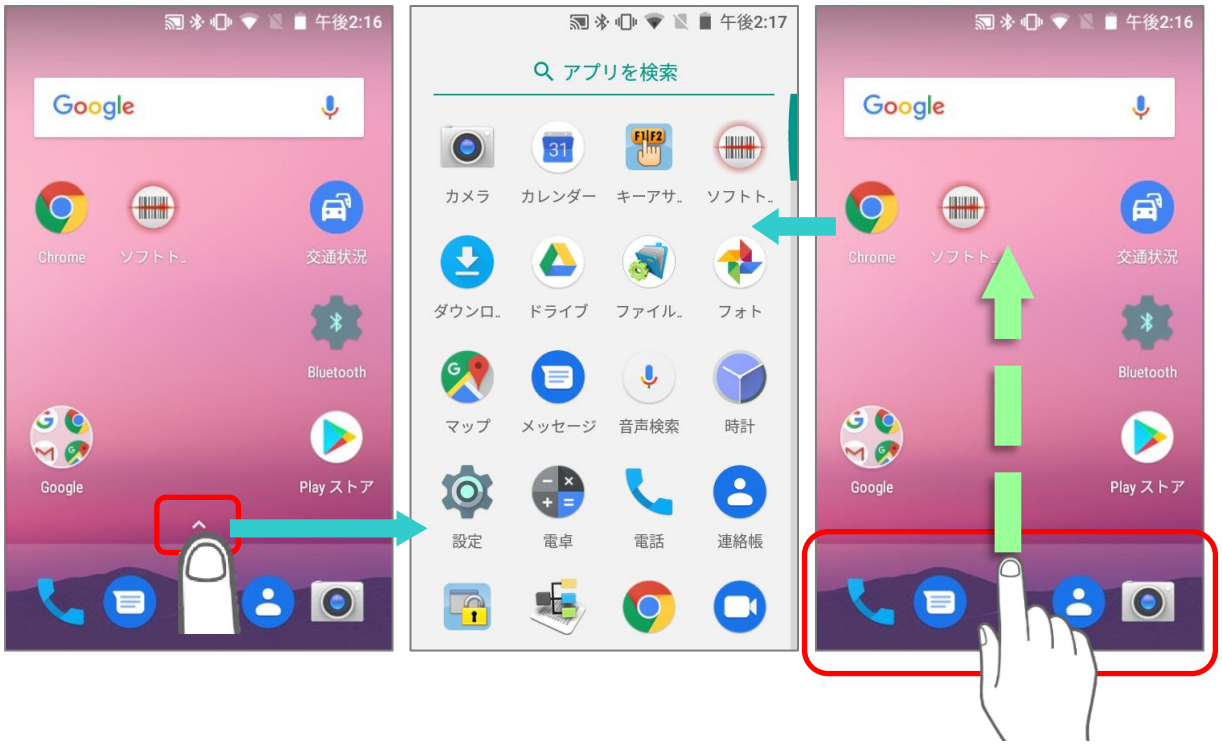
3.1. ホームスクリーン

フル充電されているモバイルコンピュータの電源キーを 3 秒ほど押すと、ロックされた画面が表示されます。ロックボタンを上にスワイプしてロックを開錠します。

ホーム画面の表示は以下のようになります。
また、ウイジェットやアイコン用に複数ページにすることが出来ます。カスタマイズ可能です。



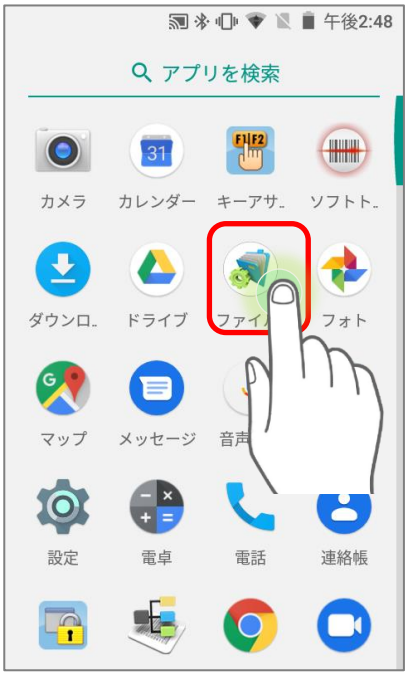
アプリ画面を開くには アイコンをタップするか、お気に入りトレーから上にスライドします。

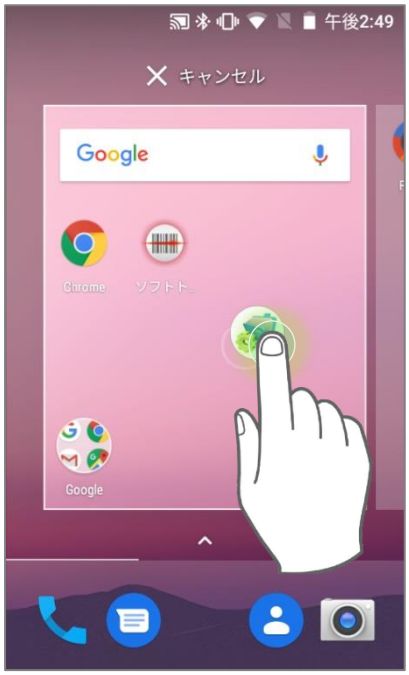


3.1.1. ホーム画面のカストマイズ

アプリのショートカットをホーム画面に追加する

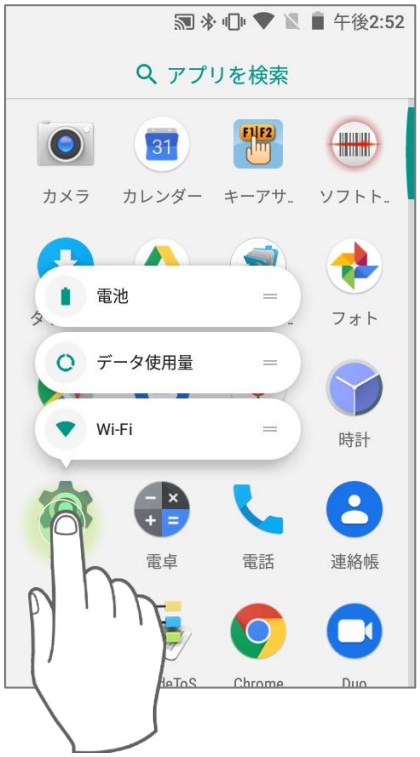
1) ホーム画面をカストマイズするには、 アイコンをタップ、あるいはお気に入りトレーからスライドする。
2) 追加したいアプリアイコンを長押しすると、
3) ホーム画面が表示され、アプリアイコンをドラッグして適当な位置で指を離します。

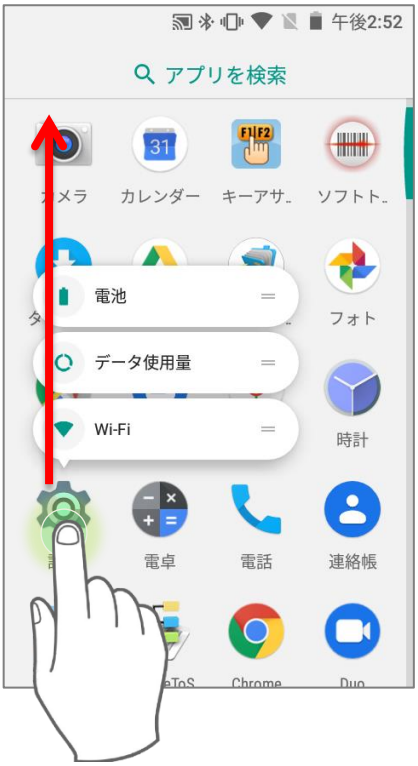


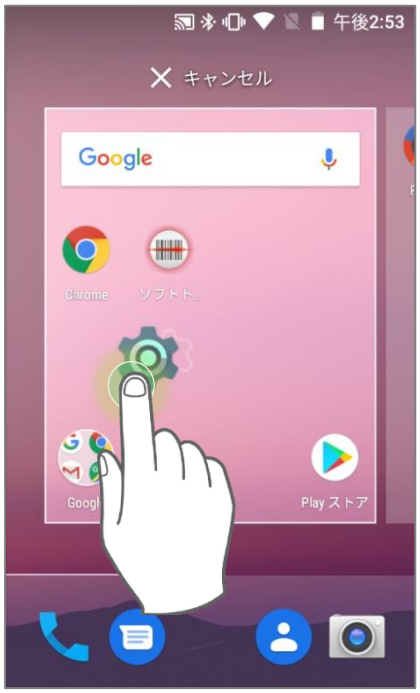


Chrome や Gmail のようなアプリはロングタッチするとショートカットを表示しますが、ホーム画面は表示されません。以下のようにしてください。

1) アイコンをロングタッチして上にドラッグ
2) ホーム画面が表示されるので、適当な位置にドラッグして指を離す。

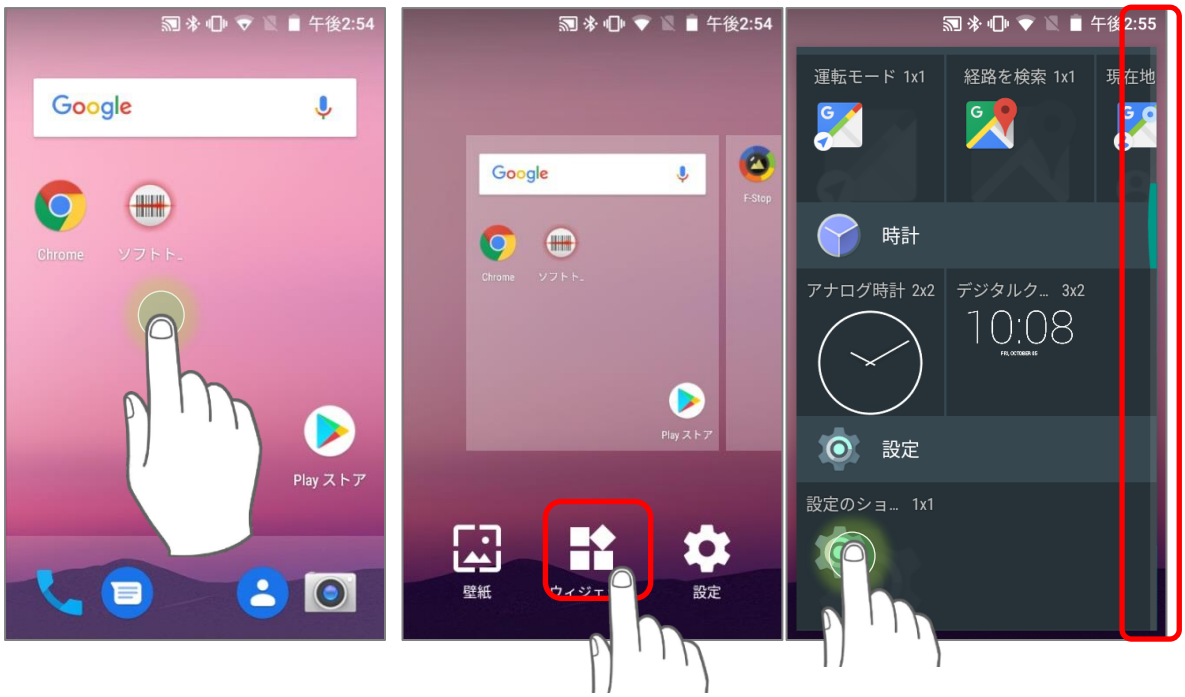


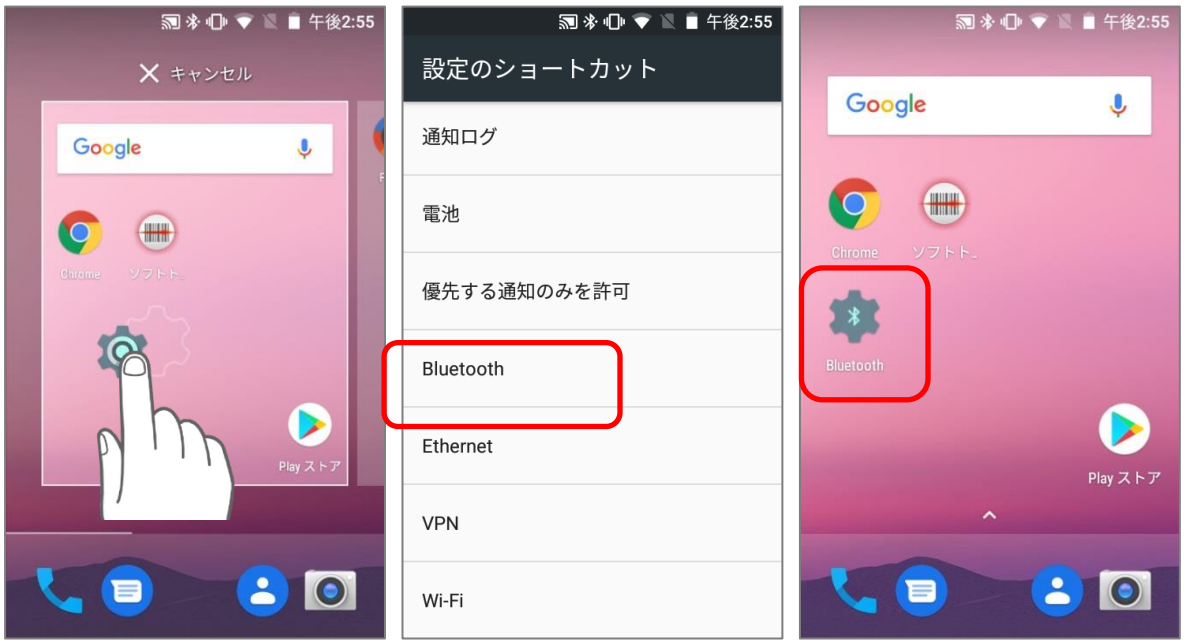




ウイジェットをホーム画面に追加する

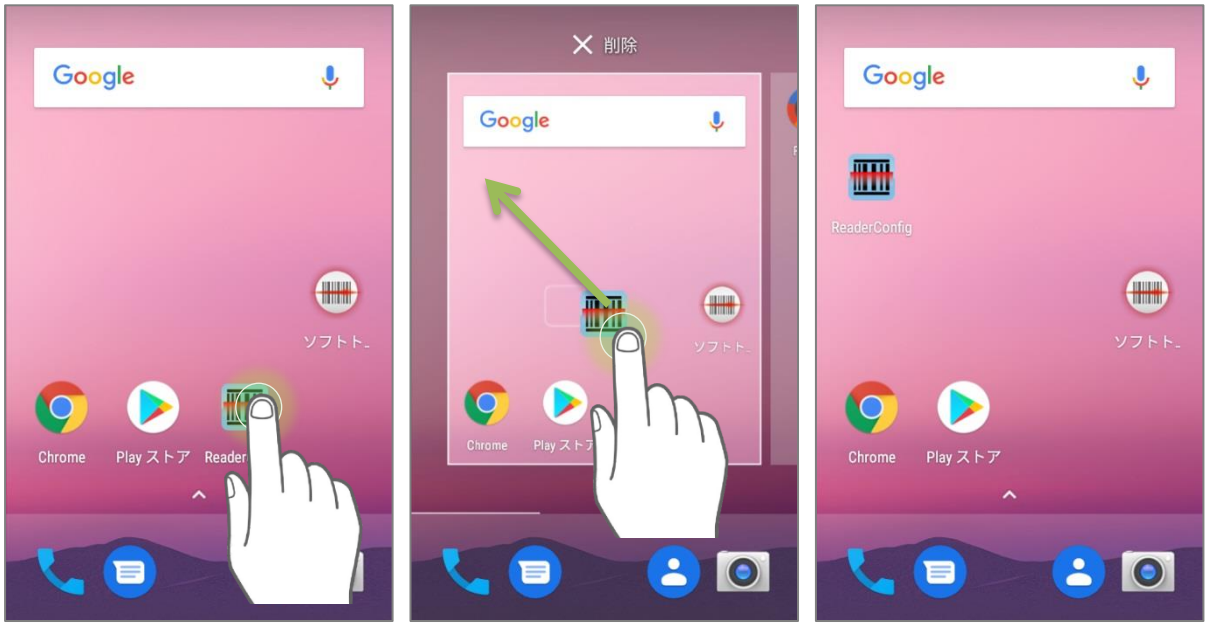
1) ホーム画面の空いている場所をロングタッチ
2) 現在のレイアウトが縮小され、ホーム画面に関連するオプションが下の方に表示される。
   ウイジェットをタップして選択リストを開く
3) ウイジェット選択リストを希望するウイジェットまでスクロール
4) ホーム画面が表示されるまでそのウイジェットを長押し、適当な場所までドラッグして指を離す。
   ショートカット設定の場合はショートカットリストから特定の設定を選択する必要があります。



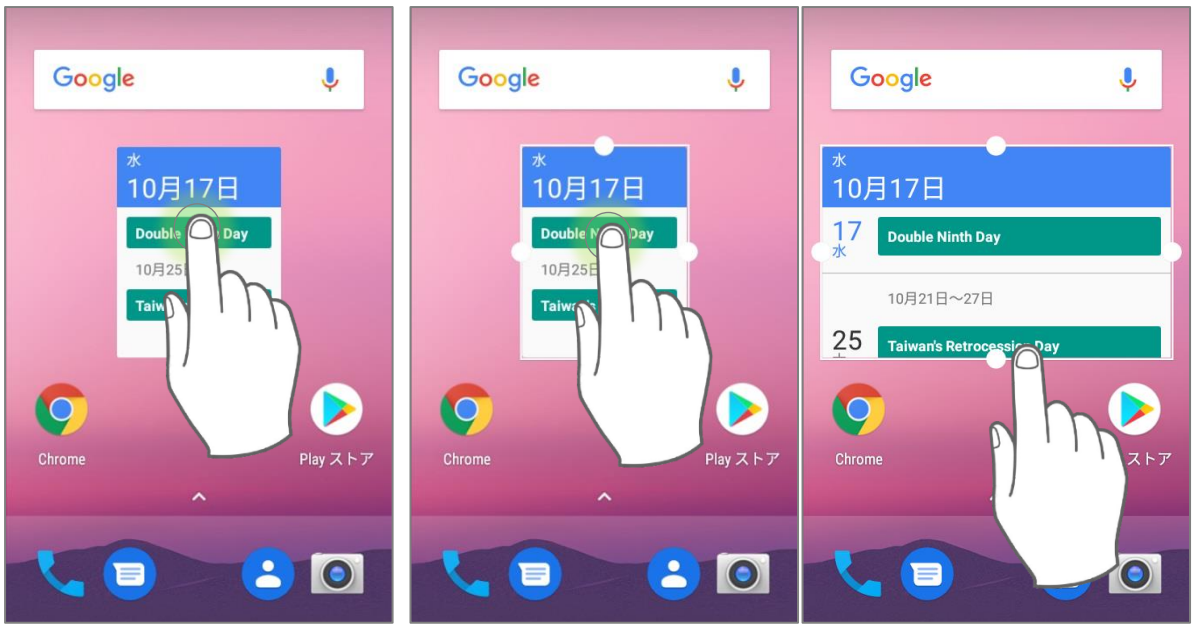


ホーム画面でショートカットやウイジェットを編集

ショートカット/ウイジェットを移動あるいは削除するには、対象となるアイコンをロングタッチしてレイアウト編集モードに入ります。画面トップに“X　削除”と言うオプション表示後、そこに削除したいショートカットやウイジェットをドラッグします。または希望する場所までドラッグします。

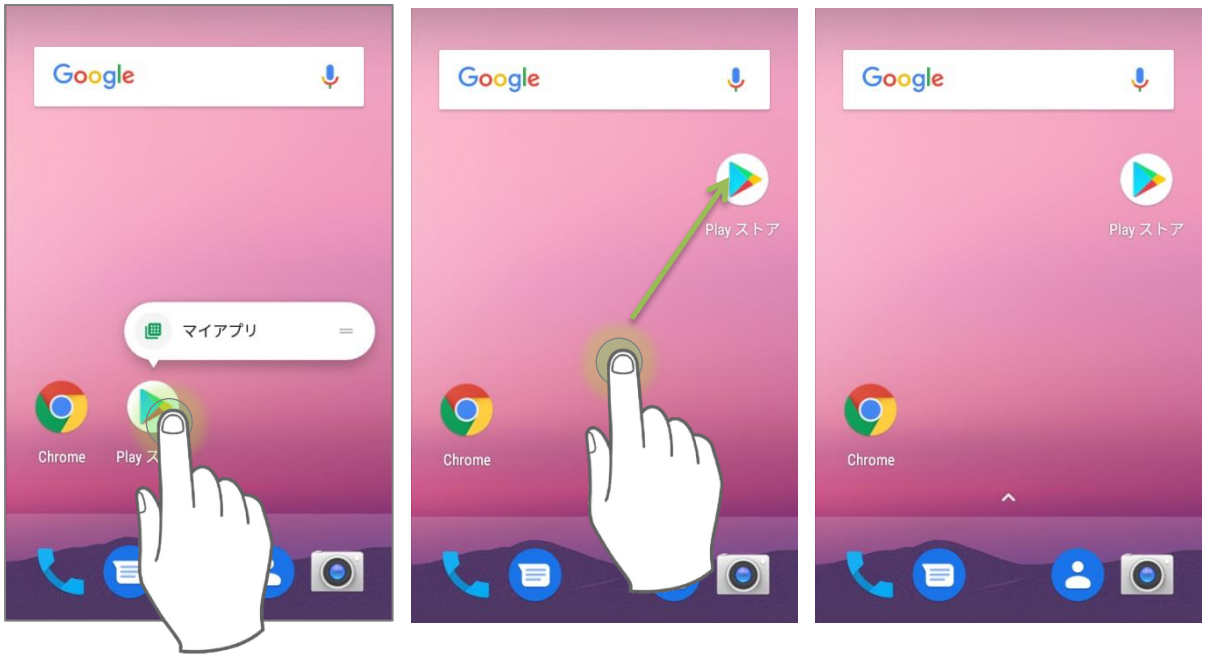


ウイジェットのサイズを戻すには、白いフレームが表れるまでロングタッチして白い丸印をタップ・ドラッグします。



ホーム画面でショートカットと共にアプリをアレンジする

アプリショートカットを移動あるいは削除するには、対象となるアイコンをロングタッチしてレイアウト編集モードに入ります。画面トップに“X　削除”と言うオプションが表示後、そこに削除したいアイコンをドラッグします。または希望する場所までドラッグします。

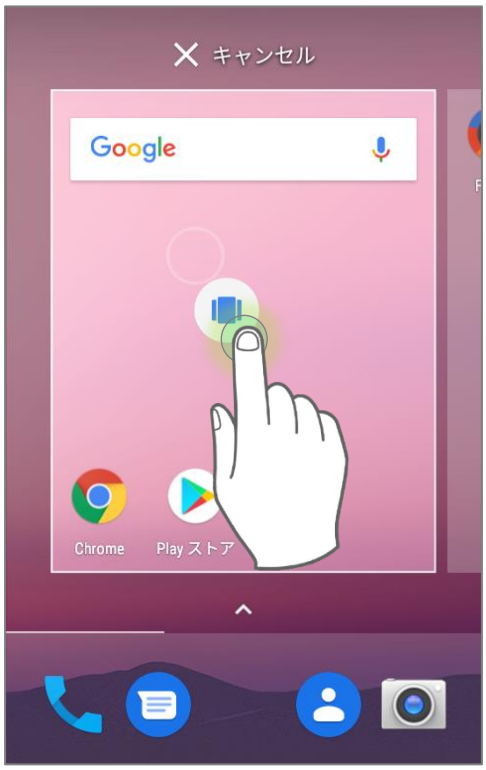


アプリショートカットから実行アイコンを作成するには

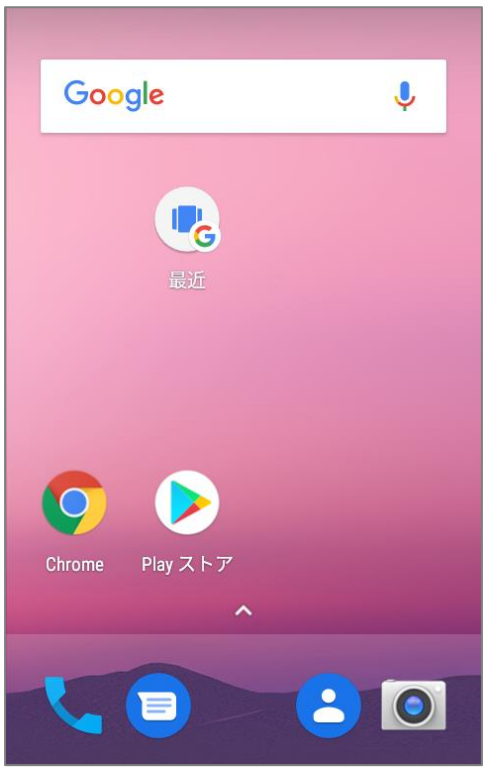
1)　アプリアイコン（ホーム画面あるいはアプリ画面画面でも可）をロングタッチしてアプリショートカットを開く

または

2) 実行アイコンをホーム画面上の希望する場所にドラッグ

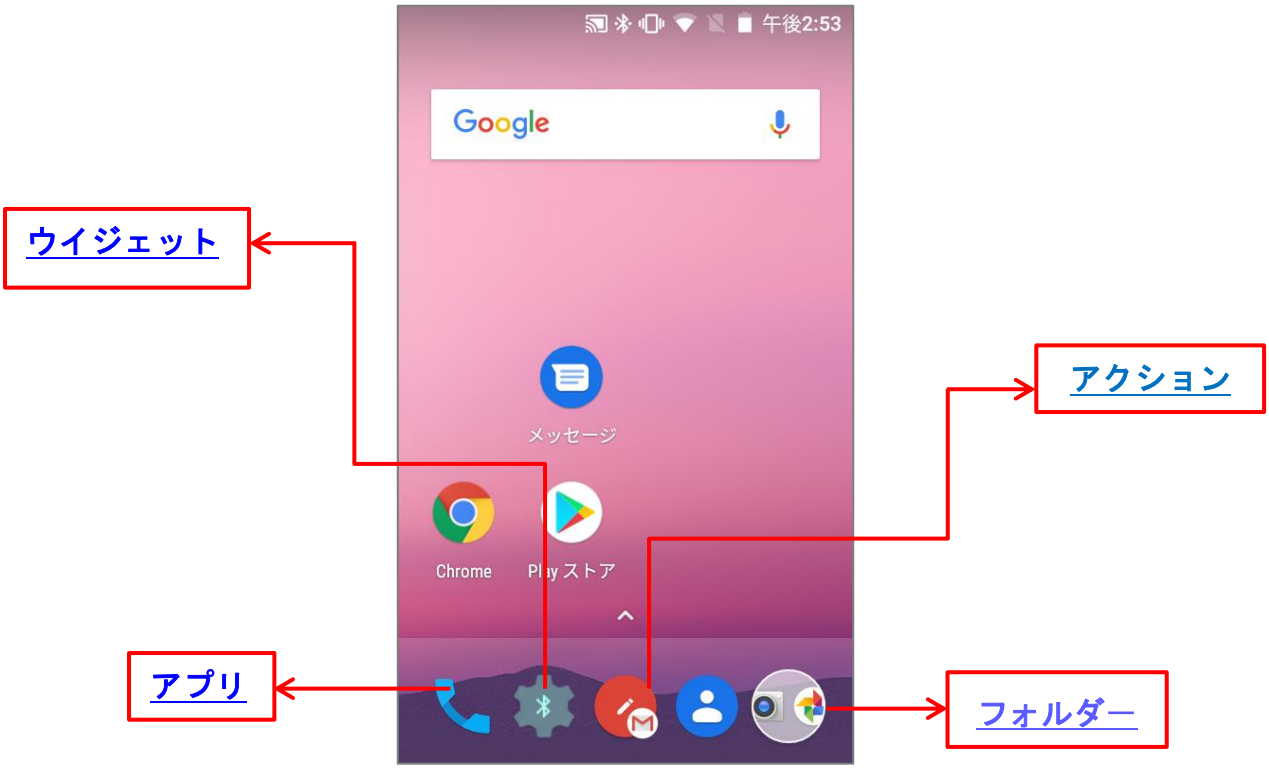


3) 指を離す。



お気に入りトレーの編集

お気に入りトレーはホーム画面の下部に表示され、5 個までのアイコンを入れることができます。
またすべてのホーム画面で表示されます。

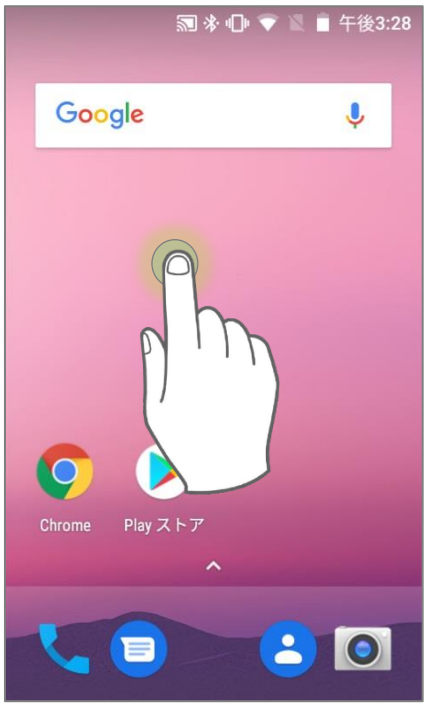


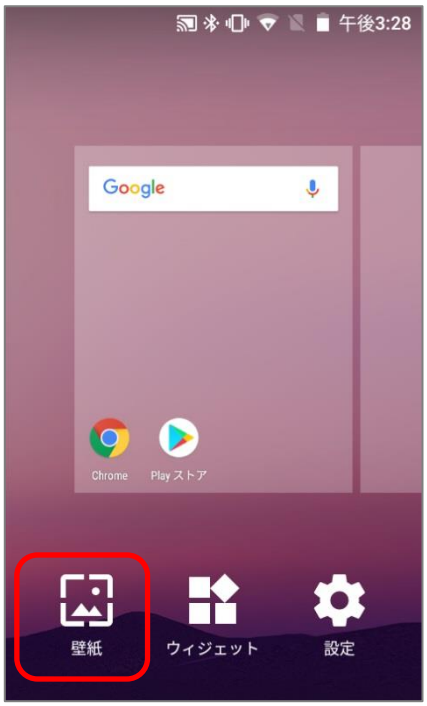
ウイジェット、アプリアイコン、フォルダーをお気に入りトレーに加えるには
1) アイコンをロングタッチしてお気に入りトレーへドラッグ
2) 指を離す

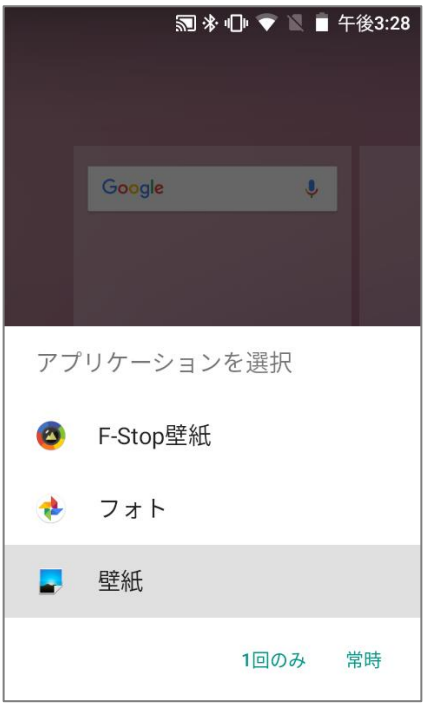
お気に入りトレーから移動/削除するには
1) アイコンをロングタッチしてレイアウト編集モードを開き
2) 希望する場所までドラッグして移動、あるいは画面上部の“X 削除”までドラッグして削除

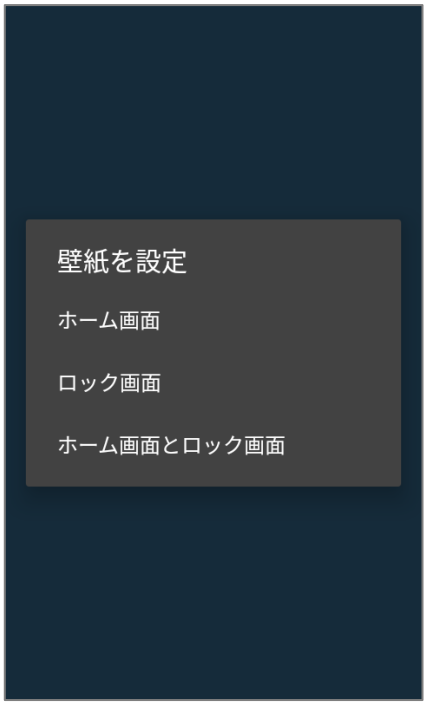
ホーム画面の壁紙を変更

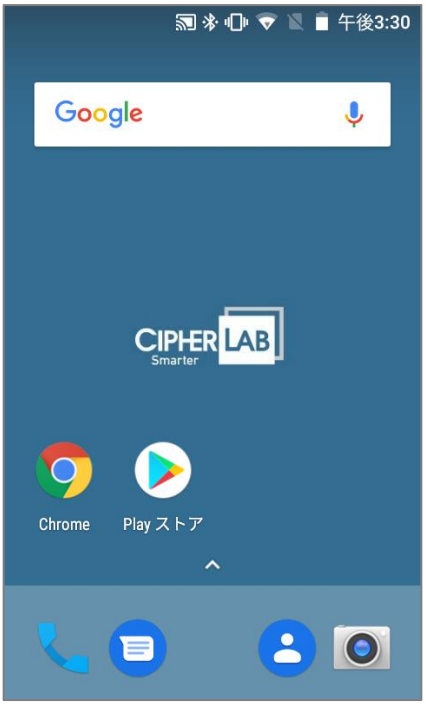
1) ホーム画面の開いている場所をロングタッチ
2) メニューに壁紙が表示され希望のアプリを選択
3) 壁紙イメージを選択
4) 壁紙を設定をタップ





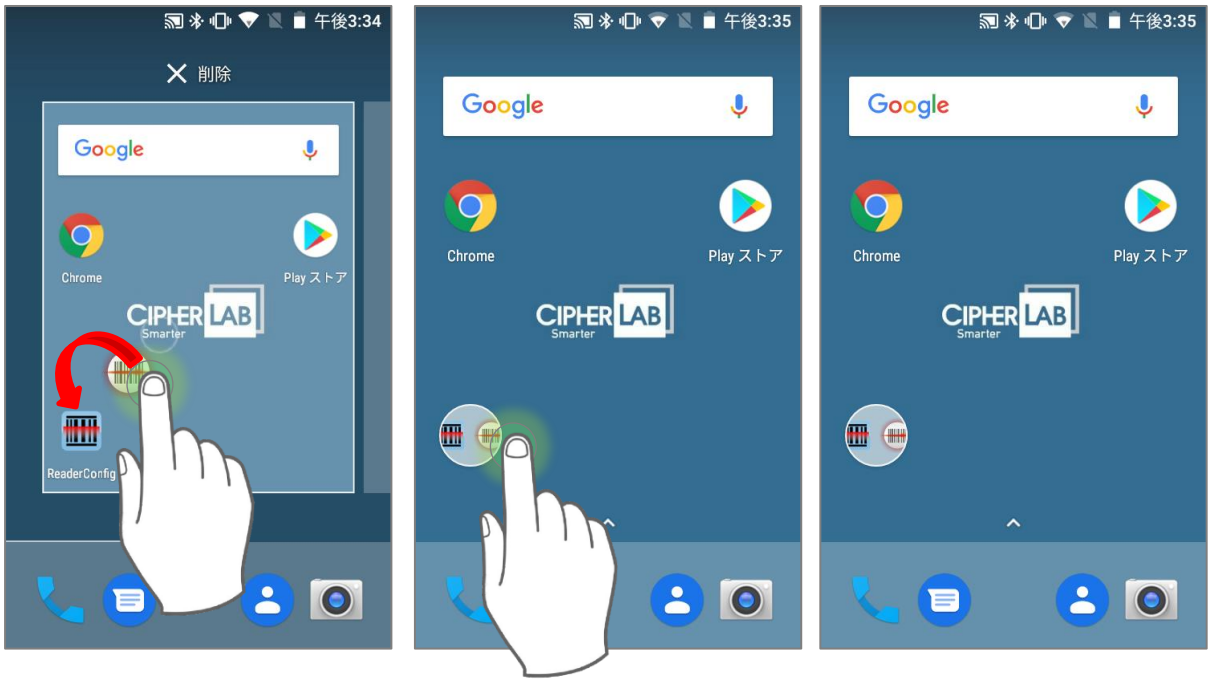






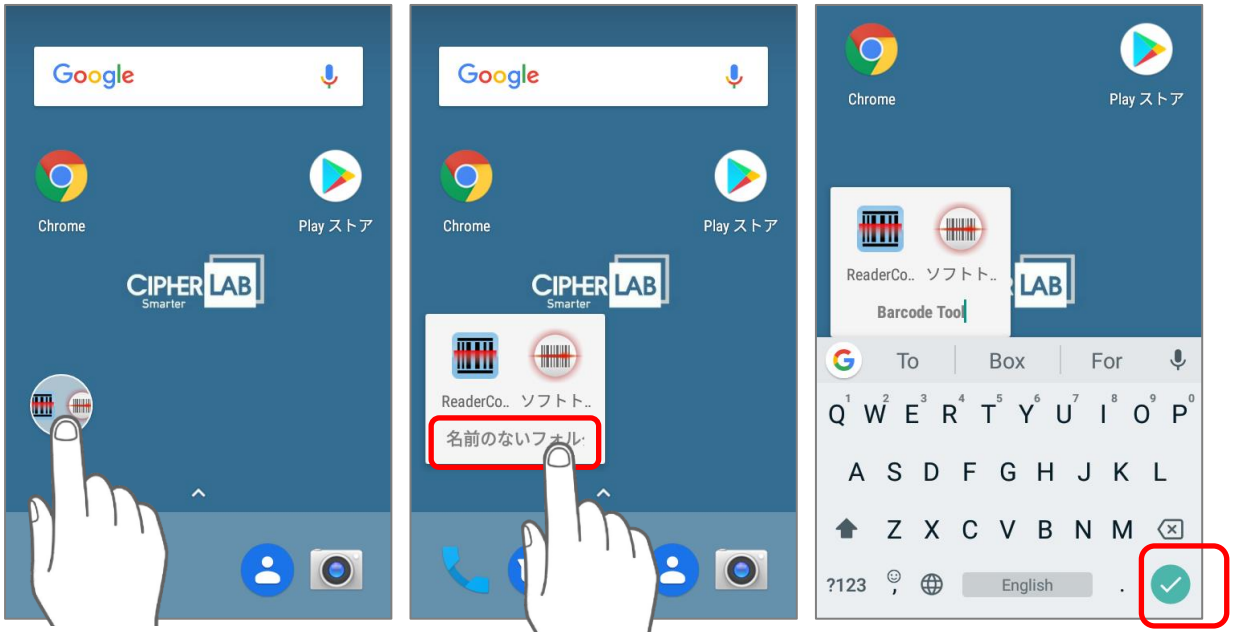
フォルダーの作成

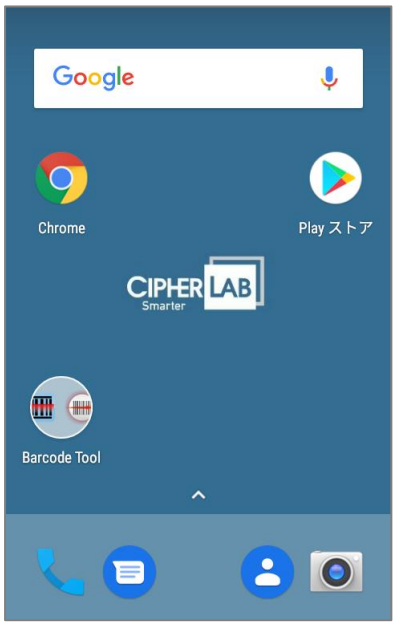
1) 移動したいアイコンをフォルダーを作成したい他のアイコンの上にドラッグ
2) これらのアイコンが重なるとフォルダーが作成される
3) その後これらのアイコンが円で囲まれて表示される



フォルダーの名前

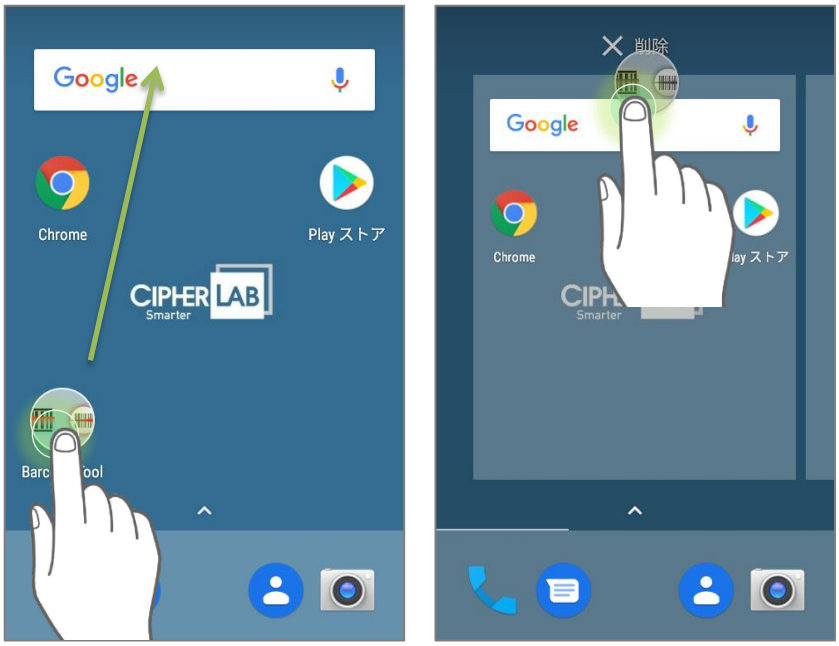
1) 名前を付けたいフォルダーをタップ
2) フォルダーは小さな円からフォルダー内のショートカットを表示する四角になる。
   “名前の無いフォルダー”をタップし名前を編集
3) 終了 をタップ
4) 画面の他の箇所をタップ、フォルダーは新しい名前と共に元の小さな円にもどる。





フォルダーの削除

1) 削除したいフォルダーをロングタッチ
2) “X 削除”オプションまでドラッグして削除。

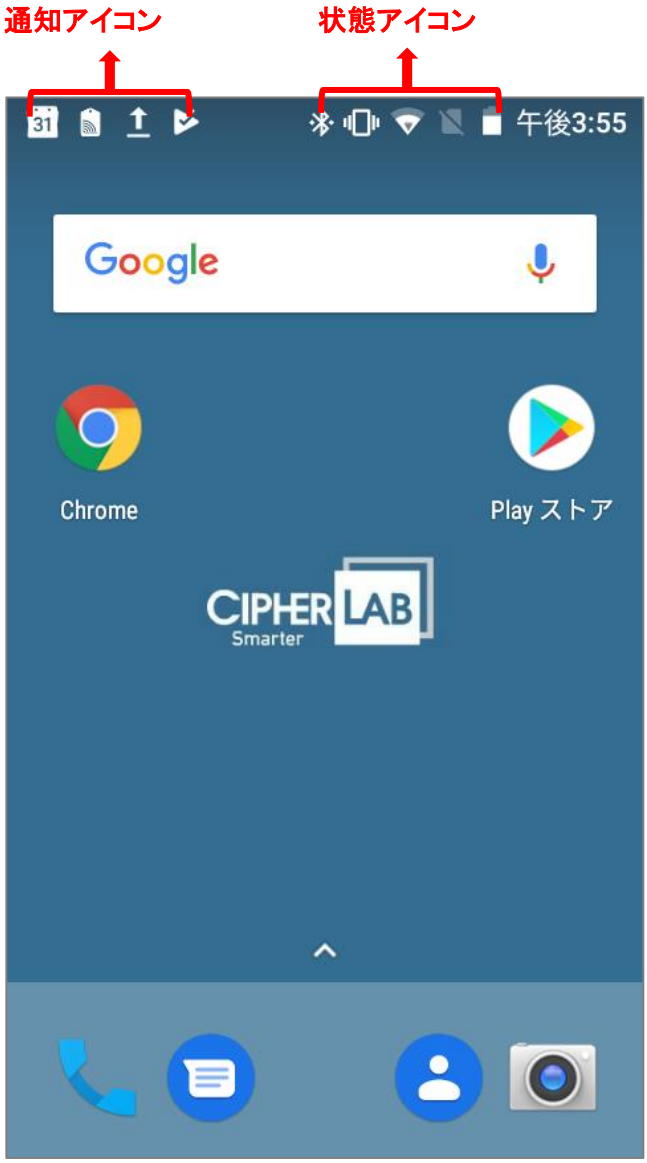


注:

フォルダーを削除すると中のショートカットも同じように削除されます。

3.2. ステータスバー

ステータスバーの左側には通知アイコン、右側には状態アイコンが表示されます。



3.2.1. ステータスバー上のアイコン

状態アイコン

アイコン	説明
	Bluetooth は ON
	Bluetooth デバイスと接続
	Wi-Fi ネットワークと接続しテータ転送中
	モバイルネットワークの信号無し
4G	4G ネットワークと接続
	モバイルネットワーク信号がフル
	機内モード、すべての無線は無効
	アラーム作動中
	SIM カードが装着されていない
	アラーム以外のサウンドはマナーモード（振動モード）
	バッテリーはフル充電されている
	バッテリー消費状態
	バッテリーのレベルは非常に低く（＜5%）直ちに充電が必要
	外部電源に接続中でバッテリー充電中

通知アイコン

アイコン	説明
	USB デバッギングモードが有効
	データ同期中
	次のイベントがある
	データダウンロード中
	データアップロード中
	Wi-Fi ネットワークオープン有効
	メモリーカードが装着されている
	新しい SIM カードが認識された
	問題発生（例えば SIM カードが 2 個のカードスロットで検出されない）
	ヘッドセットが装着された
	電話が接続
	不在着信アリ
	現在の通話をポーズ
	Wi-Fi ホットスポットがアクティブ
	Bluetooth テザリングがアクティブ
	USB テザリングがアクティブ

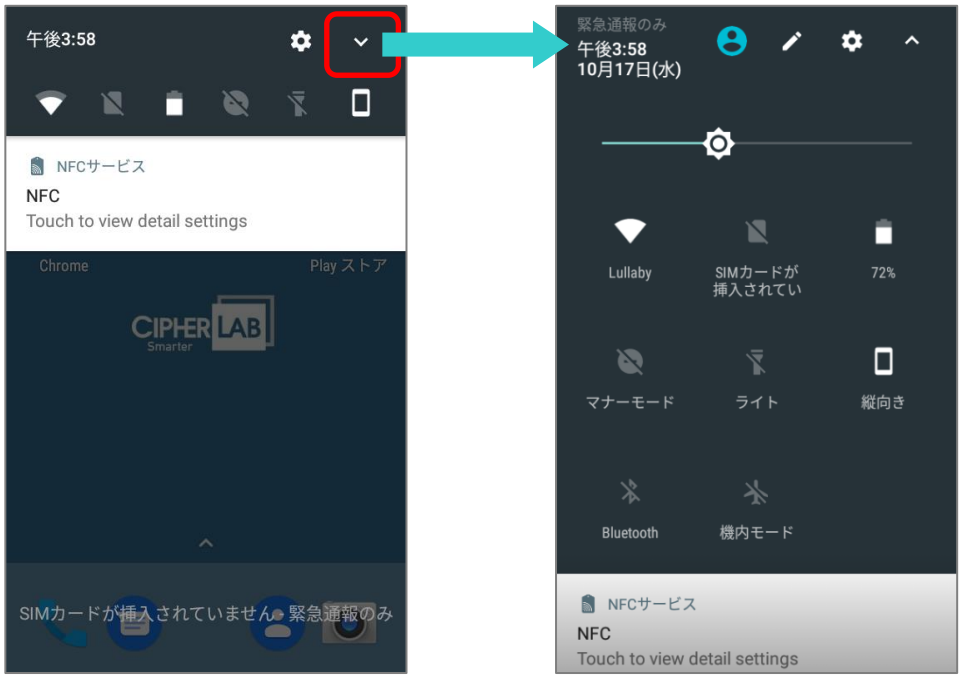
3.2.2. クイック設定メニューを開く

二本の指で画面の上から下へスワイプ。
それぞれのアイコンをタップして異なるモードに変更または設定画面に移行できます。

または

1) 1 本の指でスワイプダウンして 通知一覧 を開く

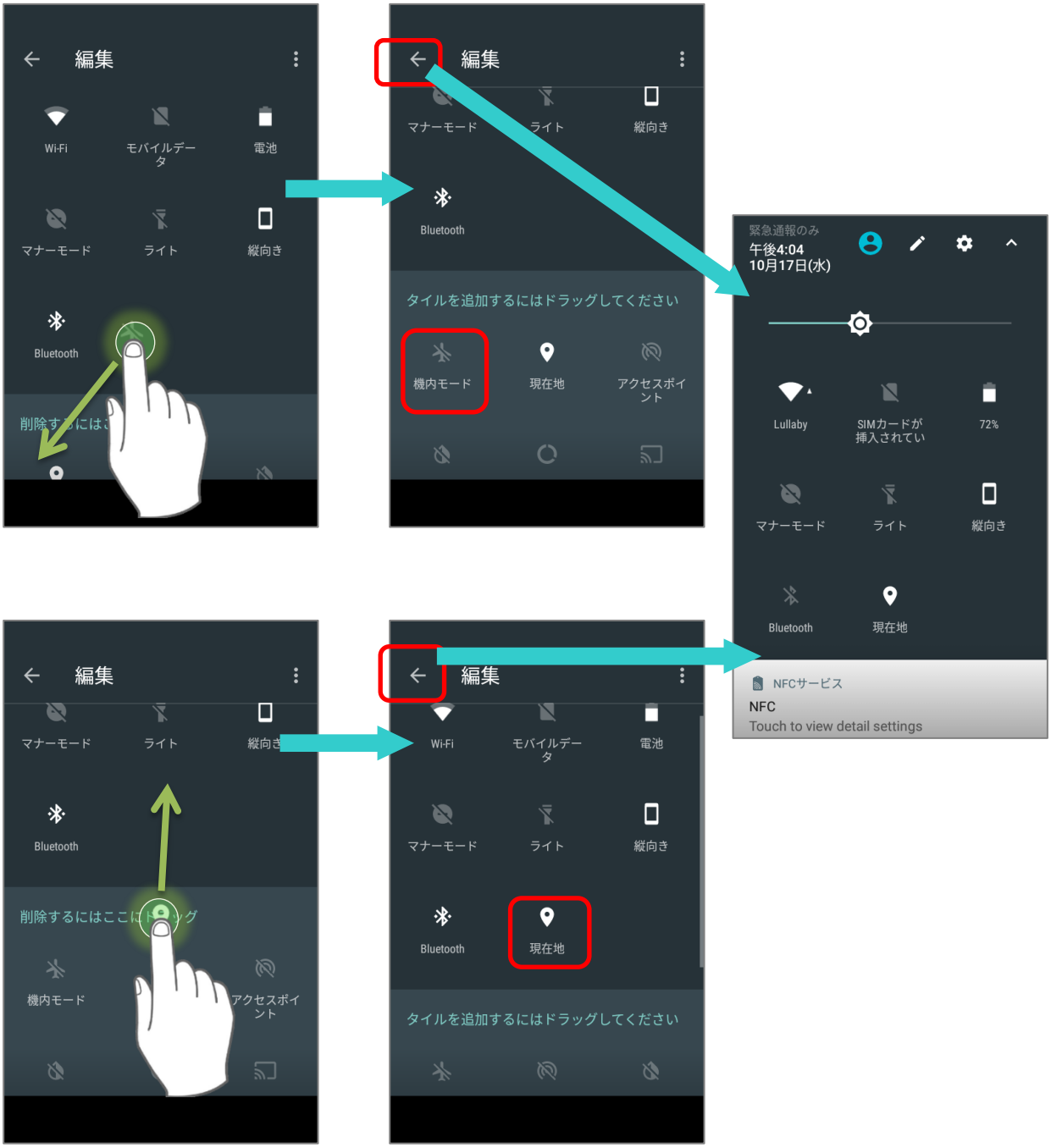
2) アイコンをクリックしてクイック設定メニューを開く



クイック設定メニューを編集する

クイック設定メニューをカストマイズするには

1) アイコンをクリックして編集ページを開く
2) 削除： 削除したいアイコンを画面下の灰色のエリアにドラッグ
3) 追加： 追加したいアイコンを暗灰色のエリアにドラッグ
4) クイック設定メニューに戻りすべての設定は完了



クイック設定メニューをリセットするには:

1) をタップして編集ページを開く

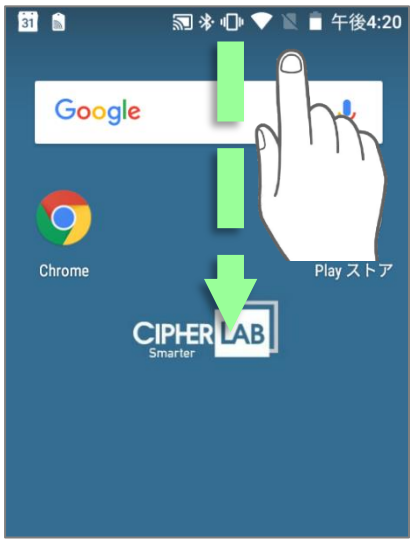
2) 画面右上の設定 アイコンをタップ、”リセット“をタップ

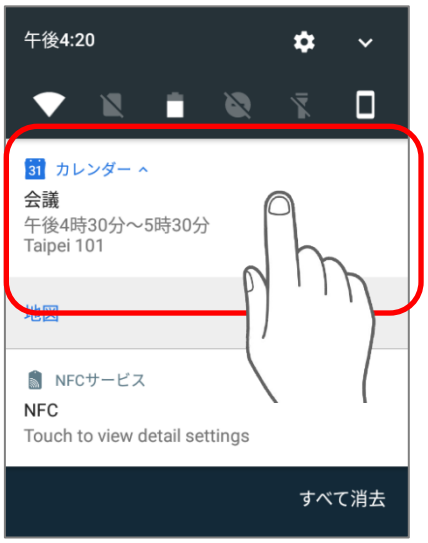
3.2.3. 通知一覧を開く

通知アイコンは新着の電話やメッセージ、USB 接続などを通知します。

通知のチェック

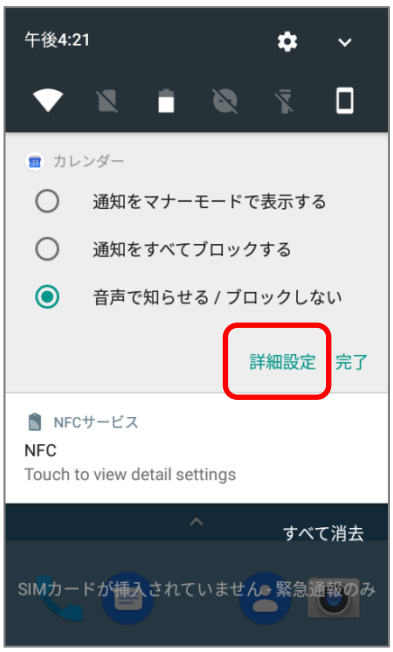
イベントを詳しくチェックするにはステータスバーからスワイプダウンして 通知一覧 を開きます。
それぞれの通知をタップして緊急のアクションを実行する、あるいは対応するアプリを開きます。





通知を無効にする

通知カードをアプリの名前が表示されるまで長押し、“詳細設定”をタップして関連する設定を修正します。



通知を消去

一つの通知を消去するには通知カードを右あるいは左にスワイプ。
すべての通知を同時に消去する場合は“すべて消去”をタップ。
通知中のものや何かしらのアクティビティを必要とするものはリストに残ります。

3.3. アプリケーション管理

3.3.1. アプリケーションメニュー

アプリケーションメニューをチェックするため アプリ画面を開きます:

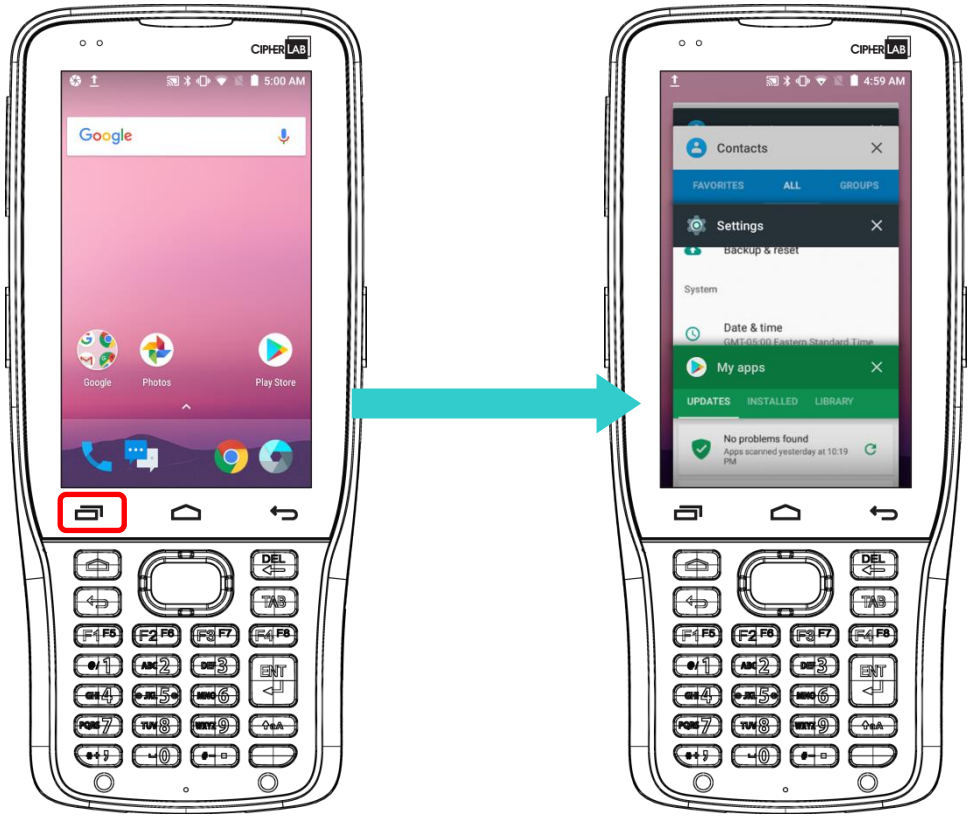
アイコン	名前	説明
	Airlock Browser	エアロックブラウザ(Airlock Browser)はモバイルワーカーの生産性を向上させる、最新の機能豊富で高度に設定可能な Web ブラウザです。(RK25J にはインストールされていません)
	AppLock	アプリの使用を限定するアプリケーションソフトウェア
	BarcodeToSettings	バーコードで設定 端末の設定をバーコードで作成し、 バーコードを読取ることで、ユーザーがすべてのデバイスを簡単に設定できるようにする。
	キーアサイン	アプリケーション「キーアサイン」は、異なる動作を始動させるように物理キーの機能を再定義することができます。1 つ以上のキーに対する設定はプロフィールとして保存することができ、ユーザーはさまざまな設定を簡単に切り替えることができます。
	電卓	電卓機能
	カレンダー	カレンダー、予定表
	カメラ	カメラシャッター
	Chrome	Android のブラウザー
	時計	時計、アラーム
	連絡帳	電話帳
	ダウンロード	ダウンロードしたファイルのリスト
	ドライブ	Android 付属のファイル保存、同期サービス
	Duo	Google 開発の one-to-one ビデオコールアプリ
	エンタープライズ キーパッドモード	ハードキーがどのように動作するかをコントロールするアプリ

ファイルマネージャー	ファイルマネージメント
Gmail	G-mail サービス
Google	Google アプリへのアクセス
HF RFID 設定	RFID & NFC 設定アプリ （RK25J にはインストールされていません）
マップ	地図
メッセージ	SMS および MMS メッセージ
電話	電話
写真	写真、ビデオ保存
Play ムービー & TV	映画、TV サービス
Play Music	音楽サービス
Play ストア	Play Store
ReaderConfig	バーコードリーダーの設定
設定	モバイルコンピュータの設定画面を開く
Signature Capture	端末を署名パッドに変える使いやすいアプリケーション
ソフトトリガー	画面上のどこにでも置く事ができるソフトトリガー
ターミナルエミュレーション	IBM5250 等のターミナルエミュレーション用 アプリケーション
音声検索	音声検索
WMDS	WMDS ワイヤレスモバイルデヴェロップメントシステム は WIFI 経由で端末を設定するアプリケーション（詳細は WMDS マニュアルをご参照ください）

	YouTube	YouTube

3.3.2. 最近使用したアプリ

最近使用したアプリボタン をタップ、アプリの一覧が表示されます



この画面で

アプリの切り替え

アプリを上あるいは下にスワイプして、希望するアプリをタップして開く

アプリの終了

アプリを左右どちらかにスライドさせる、または右上の X をタップ

注:

RAM 領域を解放するために使用していないアプリは閉じて下さい。

データや設定はアプリを閉じる前に保存して下さい。

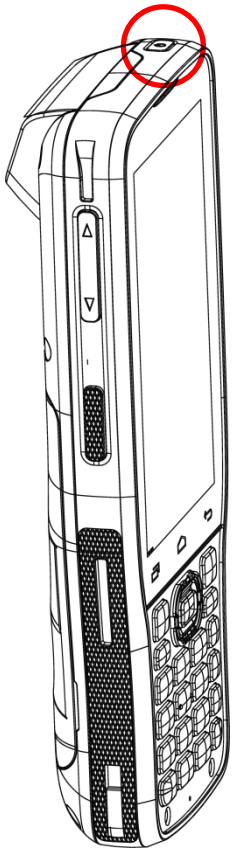
3.4. サスペンドとロック

3.4.1. 端末をサスペンド

パワー消費を抑えるため、あるいは意図せぬ動作を防ぐため、使用していないときは端末をサスペンド状態にして下さい。必要な時にはモバイルコンピュータは素早く再起動します。サスペンド状態に移行するとシステムは省電力状態になり、このためスクリーンタッチや音量キー、サイドボタンなどは使えなくなります。

RK25 モバイルコンピュータをサスペンド状態にするには

電源ボタンを押します。また スクリーンタイムアウト設定 で設定された時間が経過するとモバイルコンピュータは自動的にサスペンド状態に移行します。



3.4.2. デバイスをロック

スクリーンロックを設定するとデバイスが手元を離れた時でもデータを保護します。さらにいくつかのロックのタイプを設定することが出来ます。

RK25 のロック

アプリ画面 | 設定 | セキュリティ | 画面ロックを選択でロックの方法を設定

PIN 又はパスワードによる方法を選択すると、Smart Lock でさらにカストマイズすることが出来ます。

警告:

バッテリー消費を抑えるためには、使用しないときはサスペンド状態にしておいてください。

3.5. OS のアップデート

モバイルコンピュータの OS をアップデートすることにより最適な使用環境を維持できます。

ネットワークに接続し、OTA サーバーからアップデートファイルをダウンロードできます。

注:
モバイルコンピュータはアップデートの間シャットダウンします。
終了していないタスクやデータは事前に必ず保存して下さい。

ネットワークでのアップデート

アップデートファイルをダウンロードする前にモバイルコンピュータのネットワーク接続を確認して下さい。

注:
ワイヤレスデータプランへの課金の追加を避けるためには、ファイルのダウンっロードの際はインターネットへの Wi-Fi 接続を推奨します。

1) アプリ画面 | 設定 | 電話 | システムアップデート
システムアップデートのためのパスワードの入力を求めてきます。
support@cipherlab.com.tw に問い合わせてパスワードを入手して下さい。

2) モバイルコンピュータはサーバー上の最新のシステムアップデートファイルを探します。
ダウンロード＆インストールをタップします。

3) 新しいシステムアップデートファイルが検出されるとステータスバーに通知が表示されます。

SD カードによるアップデート

最新のアップデートイメージを SD カードのルートストレージにコピーし、デバイスのカードスロットに挿入。

またはアップデートイメージファイルを USB ケーブル経由でデバイスのルートディレクトリに転送

1) アプリ画面 | 設定 | 電話 |システムアップデート
2) パスワードの入力画面が表示されます。
   support@cipherlab.com.tw からパスワードを入手して下さい。
3) モバイルコンピュータは SD カードのシステムアップデートファイルを検索します。

注:

SD カードが挿入されていることを確認して下さい。

挿入されていないと、「システムは最新です」というメッセージが画面に表示されます。

4) インストールをタップし“アップデートインストール”の確認画面表示後、インストールをタップして開始します。

   完了するとシステムアップデート成功の通知が表示され OK をタップしてホームスクリーンに戻ります。

3.6. データのバックアップ

アンドロイドバックアップサービスにより個人のデータ(Google calendar settings, Google contacts, Chrome browser data and Gmail settings) はグーグルアカウントでクラウド上にバックアップされます。

出荷時設定にリセットされたときなど設定を戻すのに有効です。

注:

1) **写真やビデオをバックアップするには アプリ画面 | 写真 でデバイスのファイルと Google Photo Library とを同期させます**
2) **デバイスのストレージ上のオーディオやビデオをバックアップするには Google Drive サービスを利用します。**
3) **Android Backup サービスは SMS メッセージやある種のデータや設定をバックアップできません。**

始めるには

1) ネットワークに接続を確認
2) アプリ画面 | 設定 | バックアップとリセット
3) バックアップアカウントをタップしてログイン

3.7. データの初期化

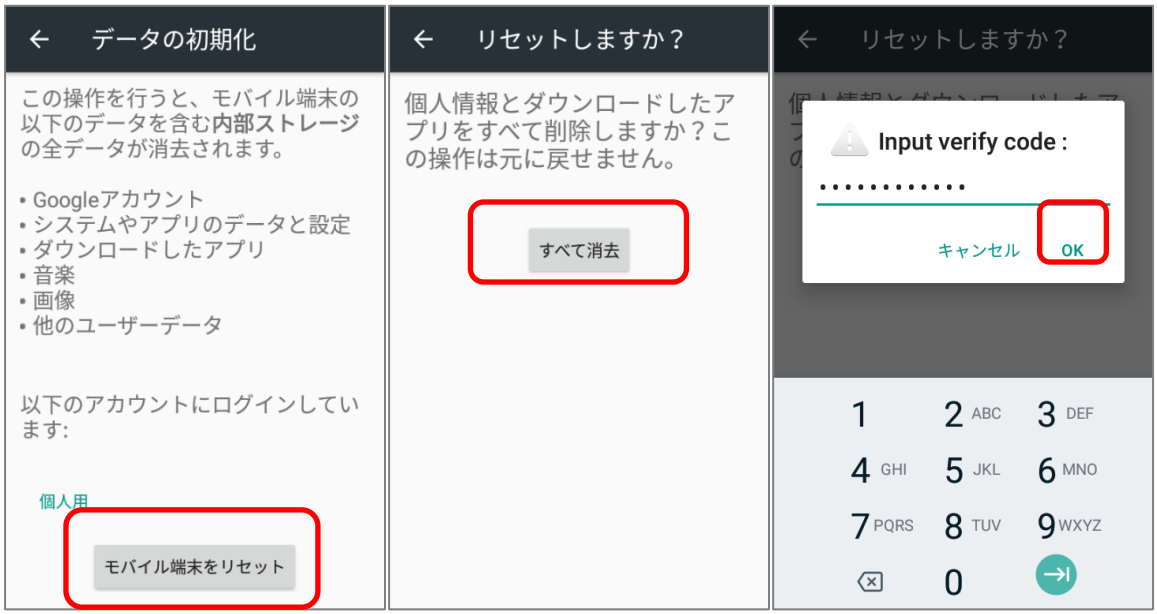
データの初期化により、全てのデータは消去されます。初めて電源を入れた時の状態に戻ります。

データの初期化の前に必ずデータのバックアップを強くお勧めします。

始めるには

1) アプリ画面 | 設定 | バックアップとリセット データの初期化

2) 確認ボタンをタップし、認証コードを入力（コードは support@cipherlab.com.tw にお問い合わせ下さい）



3) リセットの後モバイルコンピュータが初めて起動するとき Welcome ウイザードが表示されます。
セットアップの時、スキップして次へ進むこともできます。

必要な設定はあとで アプリ画面 | 設定 からできます。
この時に Google にバックアップさせたデータを復元するにはネットワークにログインして下さい。

ステップ 1-1:

“使ってみる”をタップするかあるいは言語の選択をタップ

ステップ 1-2: :

システム言語を選択

ステップ 2:

SIM カードが挿入されていないときは“スキップ”

ステップ 3:

「データコピー」か「新規」を選択

ステップ 4:

Wi-Fi ネットワークにログインするとデータ復元のため Google アカウントが必要

ステップ 5:

日時を設定するかスキップして“次へ”をタップ

ステップ 6:

名前を入力、あるいはスキップして“次へ”

ステップ 7:

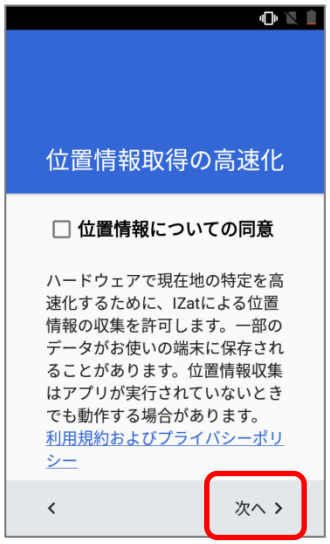
デバイスの保護のためのロックの方法を選択あるいはスキップして“後で行う”

ステップ 8:

必要な Google サービスを選択

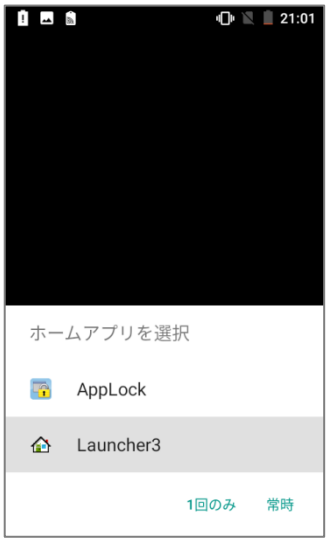
ステップ 9:

その他の設定をした後“設定完了”あるいはスキップ



ステップ 10:

Qualcomm® IZat™位置情報サービスを許可するかどうか設定して“次へ”



ステップ 11:

AppLock を選択するか設定

4) 最初のセットアップが終了すると、ホームスクリーンが表示されます。
アプリや設定はバックグラウンドに復元されています。

第4章

ワイヤレス無線

本体内蔵の Wi-Fi モジュールを設定してネットワークへワイヤレス接続できます

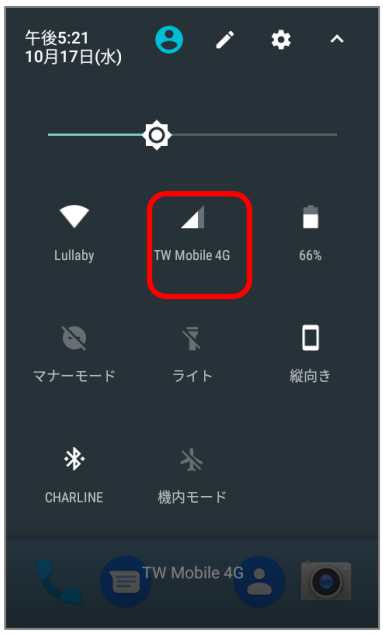
本章の内容

4.1 ワイヤレス広域ネットワーク（WAN）を使う..... 136
4.2 ワイヤレス LAN (Wi-Fi)を使う..... 146
4.3 Bluetooth を使用する 152
4.4 Near Field Communications（NFC）を使う 156

4.1. ワイヤレス広域ネットワーク(WAN)を使う

SIM カードが挿入されていると、モバイルコンピュータは自動的にサービスプロバイダーのネットワークに接続されます。

SIM カードが挿入されるとキャリアーを確認するメッセージが表示されます。 ステータスバーからスワイプダウンして通知一覧を表示させるか、クイックセッティングを表示させ、携帯アイコン をタップして詳細をチェック。“詳細設定”をタップすればデータ使用量のページが開きます。



アクセスポイントを編集

アクセスポイントの名前を、モバイルキャリアーから知らされたアクセスポイントの名前に変更する必要があります。

1) アプリ画面 | 設定 | 詳細 | 携帯ネットワーク | アクセスポイント名前

2) ボタンをタップし、それぞれのフィールドをタップしてモバイルキャリアーから得た APN の名前を入力します。

3) 設定ボタン をタップし保存します

4) APN のページに戻り、 希望の APN のラジオボタンをタップします。

4.1.1. WWAN データを共有

モバイルコンピュータの WWAN 接続を他のデバイスと共有できます。 USB または Bluetooth テザリングで、あるいはモバイルコンピュータを Wi-Fi ホットスポットに変えることにより最大8台の端末とインターネット接続を共有できます。

BLUETOOTH テザリング

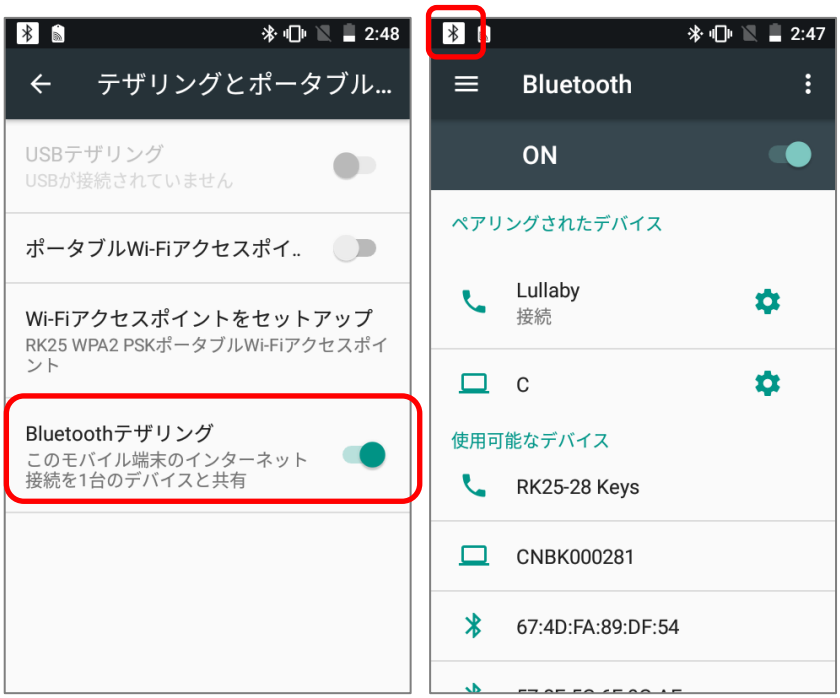
テザリングで共有するには

1) 対象のデバイスとをペアリング

2) アプリ画面 | 設定 | 詳細 | テザリングとポータブルホットスポット

3) Bluetooth テザリングをタップ。モバイルコンピュータは WWAN ネットワークを Bluetooth で接続している他のデバイスと共有

4) 一旦共有が成功すると アイコンが画面の左上に表示されます。



USB テザリング

USB テザリングで共有するには

1) USB ケーブルで接続。USB アイコンが画面のトップに表示され通知一覧で“Connected as USB Storage”が表示されます。

2) アプリ画面 | 設定 | 詳細 | テザリングとポータブルホットスポット

3) USB テザリングをタップ

WI-FI ホットスポット

1) アプリ画面 | 設定 | 詳細 | テザリングとポータブルホットスポット

2) ポータブル Wi-Fi ホットスポットスイッチを有効にすると、モバイルコンピュータは SSID を接続する他のデバイスに送信します。

3) WLAN ホットスポット設定で設定します。

データ使用量

データ使用料の管理は重要です。

サービスプロバイダーから追加の料金を請求されることもあります。

アプリ画面 | 設定 | データ使用量

データ使用量の限度の設定

1) モバイルデータ使用量をタップし、 アイコンをタップして設定

2) “データの上限”をタップし、”データ使用料の上限設定”ウインドウで希望の上限を入力。

ローミング中のデータ使用を有効化

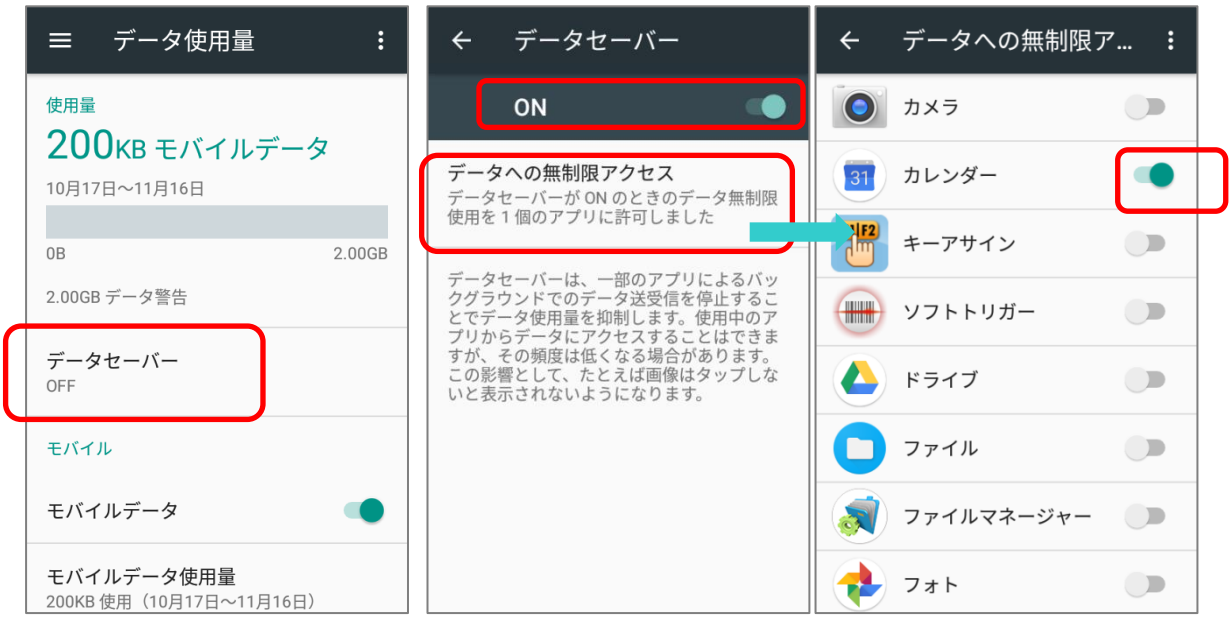
1) データ使用量のページで詳細 ⋮ アイコンをタップ

2) モバイルネットワークを選択し、データローミングを有効にする。許可するかダイアログボックスが表示され OK をタップして確定する。

バックグラウンドデータの制限

1) “データセーバー”をタップしてバックグラウンドデータを制限

2) データセーバーON の時でもアクティブにしておきたいアプリがある場合は、“データへの無制限アクセス”を ON にする



3) “データセーバー”が ON に設定されると アイコンがステータスバーに表示されます。

注:　モバイルコンピュータはバックグラウンドモバイルデータによるデータ使用を制限することによりデータ使用量を節約できます。しかし Wi-Fi ネットワークに接続している限り無効にすることができないアプリもあります

4.1.2. データ接続設定

データ接続の ON/OFF

手動で ON/OFF するには

1) アプリ画面 | 設定 |データ使用量

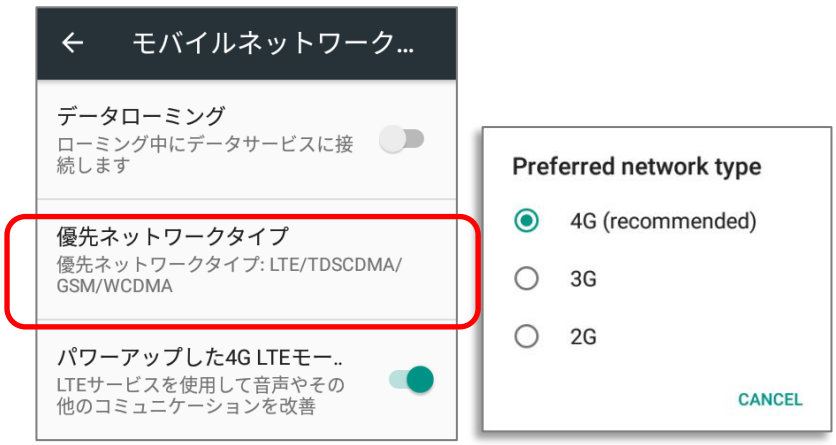
2) ”モバイルデータ”を ON/OFF する

データ接続のタイプを選択

1) アプリ画面 | 設定 | 詳細 | モバイルネットワーク、
または
アプリ画面 | 設定 |データ使用量 | 詳細 | モバイルネットワーク

2) モバイルキャリアーのタブをタップ (SIM カード2枚使用の時)

3) 優先ネットワークタイプをタップして設定

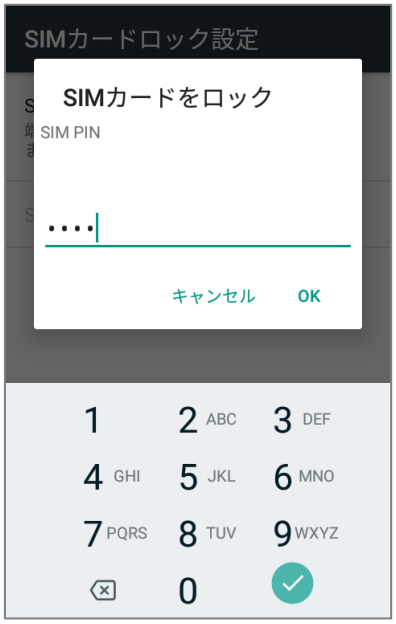


4.1.3. SIM カードの設定

SIM カードのロック

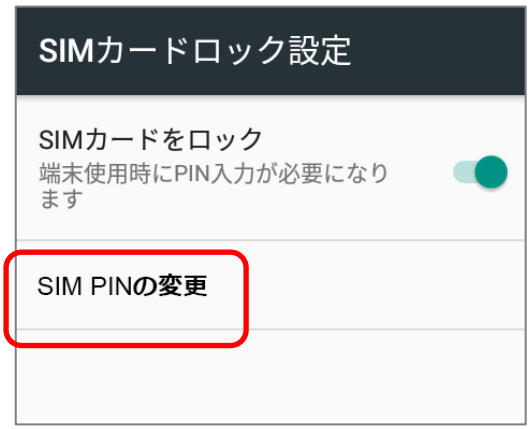
SIM カードをロックするには:

1) アプリ画面 |設定 | セキュリティ、SIM カードロック設定をタップ
2) SIM カードロックが有効
3) 一旦有効にすると、電話を使用するとき PIN コードの入力が必要



PIN コードの変更

1) アプリ画面 | 設定 | セキュリティ、SIM カードロック設定
2) SIM PIN の変更をタップ
3) 旧 PIN コードと新コードを入力



注:
10 度下向き読み取りモデル には1つの SIM スロットと1つの SIM/SAM スロット(オプション)が、70 度下向き読み取りモデル には 2 つの SIM スロットがそれぞれ装着されています

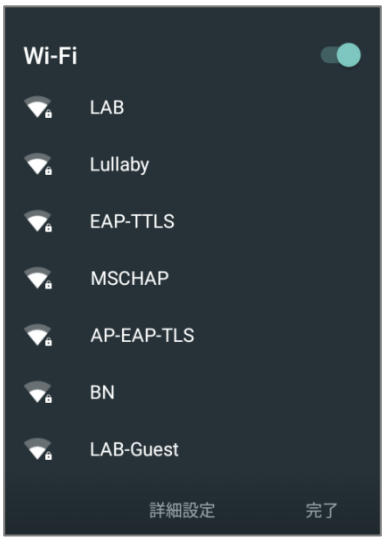
4.2. ワイヤレス LAN (WI-FI)を使う

4.2.1. WI-FI ネットワークへの接続

Wi-Fi を ON にする:

1) 画面トップから2本の指でスワイプダウン、クイック設定メニューを開く

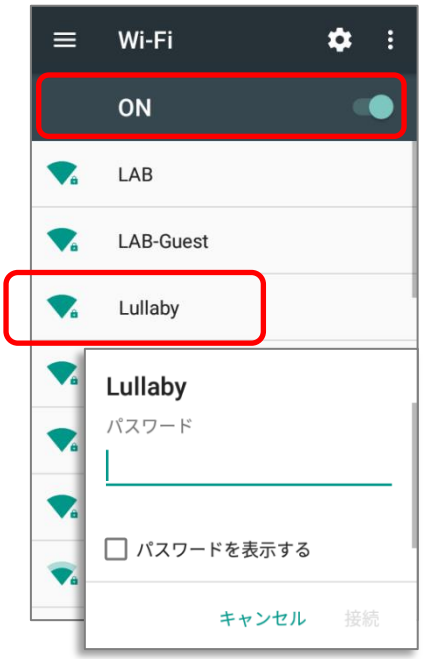
2) Wi-Fi をタップ、接続するネットワークを選択



または

1) アプリ画面 | 設定 | WLAN

2) Wi-Fi スイッチを ON にしてネットワークを検索。
接続するネットワークを選択。
ネットワークがオープンなものであればモバイルコンピュータは
ダイレクトに接続を試み、接続すると"接続"と表示される。
そのネットワークがセキュアーなものであると、パスワードの入力を要求してくる。



4.2.2. 手動で WI-FI ネットワークを追加する

接続したいネットワークが SSID を送信してこない、あるいは圏外のような場合は手動で追加できます。

1) アプリ画面 | 設定 | WLAN

2) ページの下までスライドダウンして“ネットワークを追加”を選択

3) ダイアログボックスにネットワークの名前を入力。セキュリティーフィールドでセキュリティー方法を選択、(None, WEP, WPA/WPA2 PSK, 802.1x EAP)

   WEP/WPA/WPA2 PSK 接続の場合パスワードを入力して保存

   802.1x EAP 接続の場合 さらにオプションをタップし、ドロップダウンボックスで EAP 方法を選択(PEAP, TLS, TTLS, PWD, SIM, AKA), Phase 2 認証を選択 (None, MSCHAPV2, GTC)

   CA 認証とユーザー認証 (認証は以下でインストールされる

   アプリ画面 |設定 | セキュリティー|SD からインストール

   または

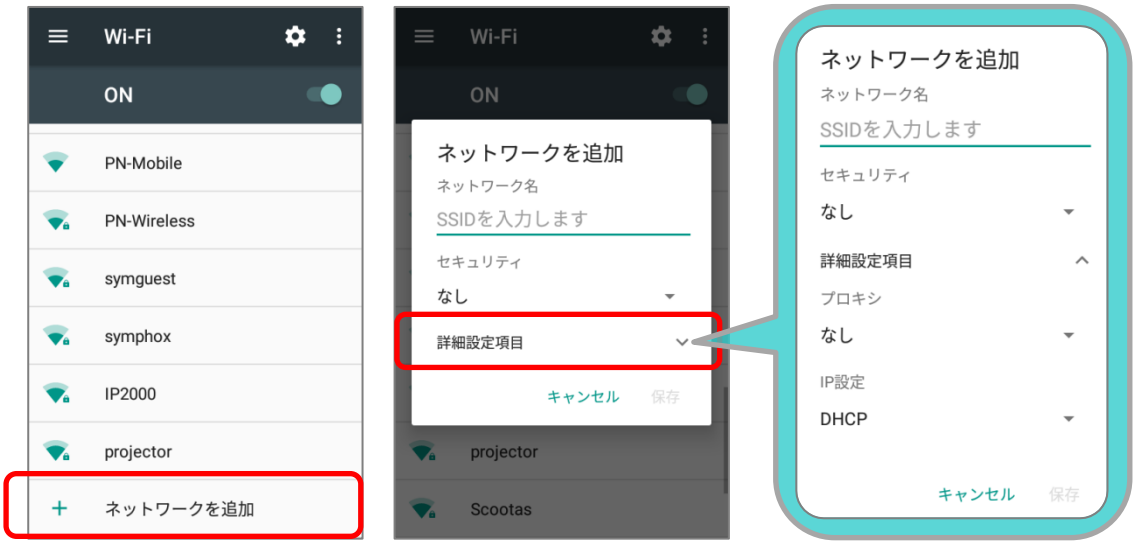
   アプリ画面 | 設定 | WLAN |詳細 | 詳細 | 認証のインストール

   要求されたときはユーザー名とパスワードを入力)

モバイルコンピュータは次の認証されたファイル拡張子をサポートします

ファイル拡張子	標準認証	キーストアー
説明	DER-encoded X.509 認証は .crt または.cer ファイルとして保存	X.509 認証は PKCS#12 key 保存ファイルに.p12 または.pfx 拡張子で保存
インストール方法	拡張子を.crt or .cer.に変更	拡張子を.p12 or .pfx.に変更

4) 必要ならば、Proxy サーバーと IPv4 設定を選択。デフォルトでは no proxy が、IP 設定は DHCP が設定されている



4.2.3. WI-FI 詳細設定

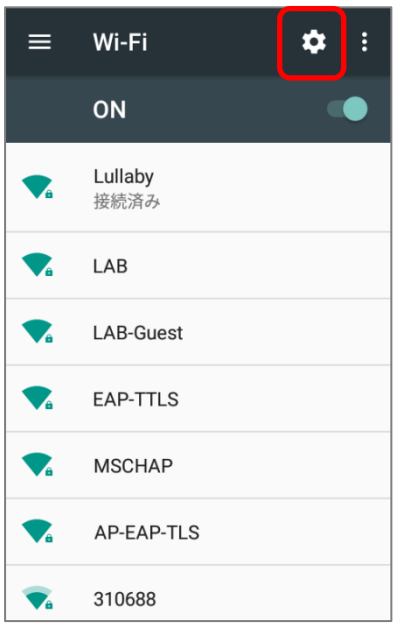
Wi-Fi 詳細設定にアクセスするには:

1) WLAN 画面で詳細 をタップ
2) ポップアップメニューで詳細を選択:

項目	説明
WLAN 周波数	自動、 5 GHz、 または 2.4 GHz を選択。デフォルトは自動
認証のインストール	ダウンロードした最新の認証、または内部ストレージの認証をインストール
WLAN ダイレクト	Wi-Fi ダイレクト対応のデバイスとの接続を有効にする
WPS プッシュボタン	WPS の初期化、ルーターの WPS ボタンを押下
WPS 入力	PIN コードの入力

4.2.4. WI-FI の設定

Wi-Fi 設定するには、WLAN スクリーンの設定アイコン をタップ:



項目	説明
保存済ネットワーク	保存済のネットワークリスト、切断/削除するには“FORGET”を選択
ネットワーク通知	オープンネットワークが有効になったとき通知
スリープ時に Wi-Fi 接続を維持	スリープ中に Wi-Fi 接続を維持する
ローミング有効	Wi-Fi ローミングを有効にするか選択
ローミングトリガー	Wi-Fi ローミングを始める時の信号の強さ、 強ければローミング感度は高くなる
国コードの設定	国コードの選択、デフォルトは SIM カードで自動設定
MAC アドレス	MAC アドレスを表示
IP アドレス	IP アドレスを表示

4.2.5. PROXY サーバーの設定

1) 有効な Wi-Fi ホットスポットのリストでネットワークをタップ
2) Proxy をタップしポップアップメニューで手動を選択
3) Proxy ホスト名前フィールドに Proxy サーバーのアドレスを、Proxy ポートに Proxy サーバーのポートを、入力。さらに Bypass Proxy フィールドに Web サイトのアドレスを入力
4) 接続をタップ

4.2.6. 固定 IP アドレスを使う

ワイヤーレスネットワークに接続したとき、デフォルトでは IP アドレスにアサインするには DHCP を使います。スタティック IP アドレスを設定することもできます

1) 有効な Wi-Fi ホットスポットのリストでネットワークをタップ
2) 詳細オプションをタップ
3) IP 設定をタップ、ポップアップメニューで Static を選択
4) IP アドレス、IP address, gateway, network prefix length, DNS 1 address and DNS 2 address を入力
5) 接続をタップ

4.2.7. WPS で接続

Wi-Fi protected setup (WPS) はセキュアーなワイヤーレスネットワークを容易に確立するのに有効な手段です。

1) Wi-Fi ホットスポットスキャン画面で詳細 ⋮ をタップ、詳細を選択し WPS プッシュボタンを選択
2) ルーターの WPS プッシュボタンを押すまでの残り時間がポップアップスクリーンに表示される

3) ワイヤーレスルーターの WPS ボタンを押す、端末はルータに接続

4.2.8. WI-FI ネットワークを変更

接続したネットワークの設定値を変更するには:

1) Wi-Fi ホットスポットリストの接続されているネットワークをロングタッチ
2) ポップアップメニューでネットワークの変更をタップ
3) 開いたダイアログボックスで設定を変更して保存

4.2.9. WI-FI ネットワークを切断

ネットワークを切断するには:

1) Wi-Fi ホットスポットリストのネットワークをロングタッチ
2) ポップアップメニューで ネットワークを切断 をタップ

4.3. BLUETOOTH を使用する

RK25モバイルコンピュータは Bluetooth 設定の構成や、そしてリモートデバイスに提供した Bluetooth を管理することができます

4.3.1. BLUETOOTH プロファイル

Bluetooth Profiles Supported

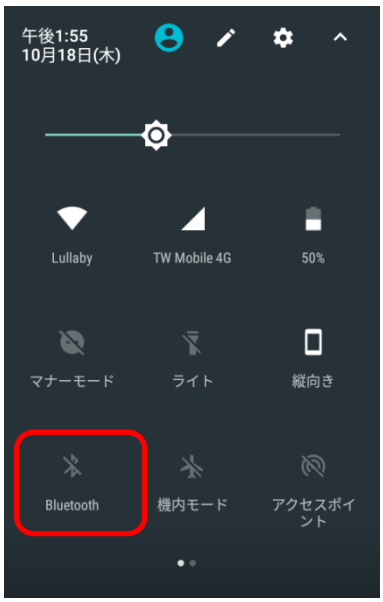
Generic Access Profile	(GAP)	端末の検索と認証
Service Discovery Access Profile	(SDAP)	リモート端末のサービスを検索
Headset Profile	(HSP)	Bluetooth ヘッドセットの Bluetooth デバイスとの接続法
Serial Port Profile	(SPP)	2つの Bluetooth 端末と接続するためのバーチャルシリアルポートの設定
Human Interface Device Profile	(HID)	キーボード、ポインティングデバイスなどの Bluetooth 接続を提供
Object Push Profile	(OPP)	プッシュサーバから、およびプッシュサーバーへプッシュ＆プルオブジェクトを提供
Hands-Free Profile (AG1.5)	(HFP)	ハンドフリー端末のプロファイル
Advanced Audio Distribution Profile	(A2DP)	ワイヤーレスヘッドセットやスピーカーにステレオオーディオをストリーム
Audio/Video Remote Control Profile	(AVRCP)	テレビと Hi-Fi 機器のコントロールを可能
Generic Object Exchange Profile	(GOEP)	他のデータプロファイルに基礎を提供
Personal Area Networking Profile	(PAN)	Bluetooth 送信のために Bluetooth ネットワーク Encapsulation プロトコルを使用
General Audio/Video Distribution Profile	(GAVDP)	A2DP と VDP の基礎を提供
Phone Book Access Profile	(PBAP)	電話帳オブジェクトを転送
Out of band and Near Field Communications	(OOB, NFC)	NFC を使用してペアリング
Symbol Serial Interface Profile	(SSI)	追加のスキャナーをサポート
Dial-up Networking Profile	(DUN)	ダイアルアップサービスを提供

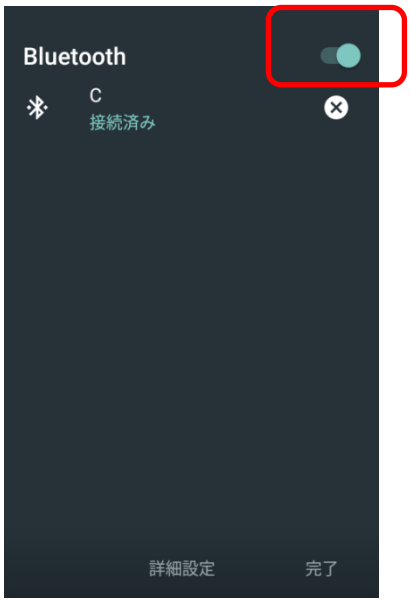
4.3.2. BLUETOOTH を ON

デフォルトでは Bluetooth–は OFF に設定されています。

1) 2本の指で画面トップからスワイプダウンしてクイック設定を開く

2) Bluetooth をタップして ON

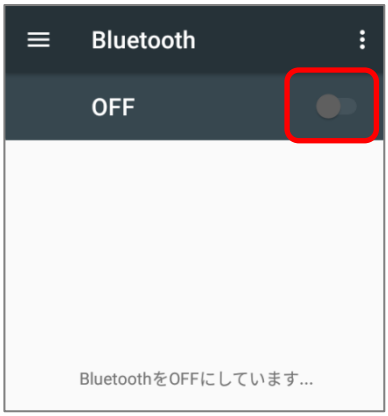




または

1) アプリ画面 | 設定 | Bluetooth をタップ

2) スイッチを ON にして機能を起動



注:
起動した後で、モバイルコンピュータがスリープモードになっても、Bluetooth はずっとオンの状態で維持されます。しかしながら、もし機内モードに切り替え場合には、オフになります 。

4.3.3. BLUETOOTH の名前の変更

1) 利用可能な Bluetooth 端末の画面で ⋮ をタップし、この端末の名前を変更を選択

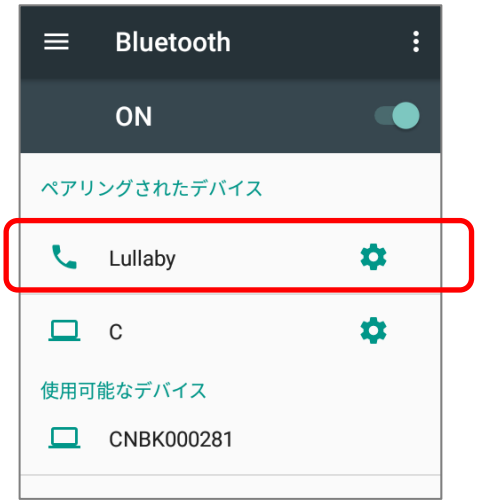
2) 名前をタイプして名前を変更をタップ

4.3.4. BLUETOOTH 端末のペアリング

1) アプリ画面 | 設定 | Bluetooth スイッチを ON にして利用可能な Bluetooth 端末を検索。ペアリング希望の端末をタップ

2) ペアリングの接続設定により、パスキーを入力、あるいはもしスマートペアリング方法が応用されている時は機器に割り当てられているパスキーを確認。パスキーを入力/確認してペアー接続。

3) 一旦ペアリングが実行されると、その端末はペアー接続されたリストにリストされる。



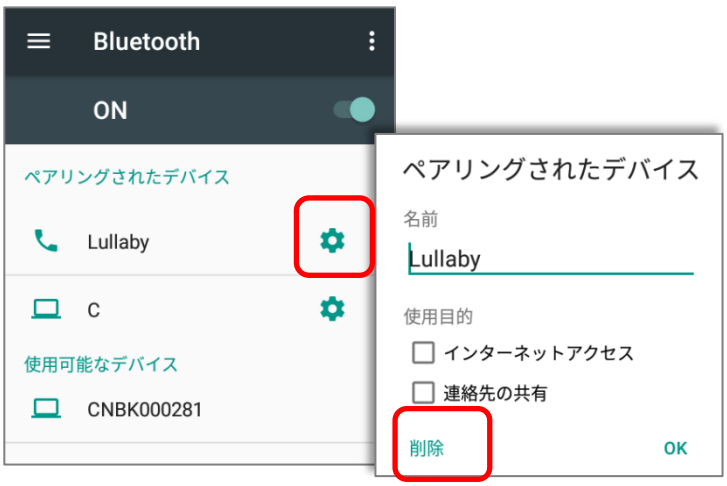
注:

もしペアリングしたい端末がリストに記載されていないときは、その端末が Bluetooth 認知が有効かどうか確認して下さい。

4.3.5. BLUETOOTH 端末の切断

1) 接続されている端末リストで、設定ボタンをタップし

2) 削除をタップ



4.4. NEAR FIELD COMMUNICATIONS（NFC）を使う

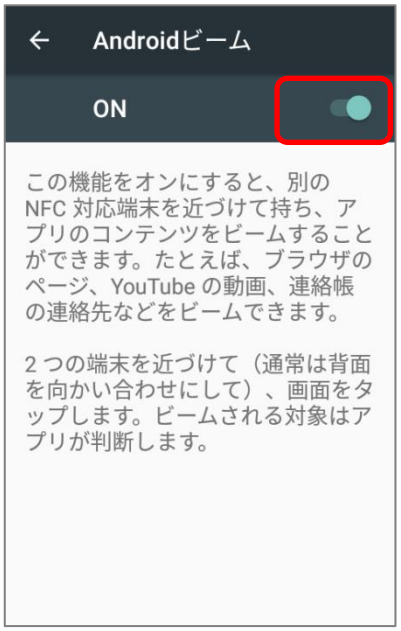
近距離無線通信(NFC)は近距離(4cm 以内)の無線通信です。モバイルコンピュータは NFC により NFC のタグから情報を取得したり、他の NFC デバイスと情報の交換し、また NFC タグの情報を書き換えたりすることができます。

＊RK25J には NFC は搭載されていません。

1) アプリ画面 |設定 |詳細 ･･･をタップ

2) 無線とネットワークページで NFC が有効になっているか確認

3) Android ビームを有効に

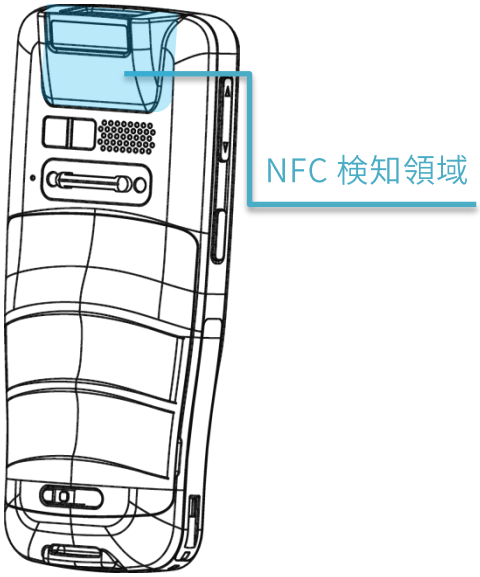


NFC で BLUETOOTH 端末をペアリング

1) ペアリングしたい端末の、NFC が有効で Bluetooth 機能が有効であることを確認

2) アンテナ領域を遮蔽しないようにモバイルコンピュータを持ちます。

3) モバイルコンピュータをデバイスに近づける。
タッチスクリーンにはペアリング完了の通知が表示される。



注:

70 度下向き読取モデル（RK25J）は NFC 機能サポートしていません。

情報の共有化

1) 転送したい Web ページ、ビデオ、写真、または電話帳などのファイルを開く
2) モバイルコンピュータの背面を、共有したい機器の近くに置く
3) 接続されると “Touch to beam”通知が画面に表示される
4) 画面をタッチしてデータ転送を開始

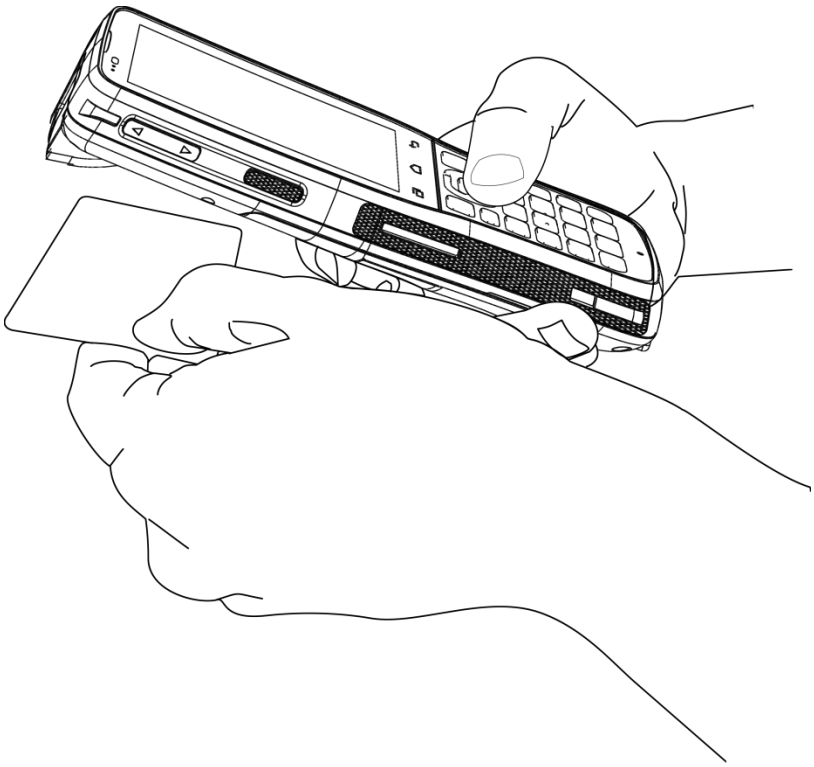
注:

データ転送開始後、デバイス間の距離が 10 m 以内 (32.8 ft.)にあることを確認してください。

いったん通信が始まれば2つの機器は近接している必要はありません。

NFC で通信

1) モバイルコンピュータで NFC 可能なアプリを起動後、
2) モバイルコンピュータのアンテナ領域を遮蔽しないように持ちます。
3) モバイルコンピュータを NFC タグまたは機器にアプリがデータ転送完了を示すまで近づける。



第 5 章

電話をかける

モバイルコンピュータ RK25 は電話機能及び WCDMA でネットワークに接続できます。

電源を入れる前に SIM カードを挿入してください。

注:

1) **SIM カードが装着されていない場合は、サービスがサポートされているとき緊急通報機能のみ作動できます。**

2) **10 度下向き読取モデル には1つの SIM スロットと1つの SIM/SAM スロット(オプション)が、70 度下向き読取モデル には 2 つの SIM スロットがそれぞれ装着されています。**

本章の内容

5.1 SIM カードマネージメント 160
5.2 電話アプリ 163
5.3 オーディオモード 172
5.4 通話音量の調整 173

5.1. SIM カードマネージメント

このモバイルコンピュータは 2 枚の SIM カードに対応しており、2 つの異なるネットワークに対応できます。同時に両方のネットワークをモニターすることができます。

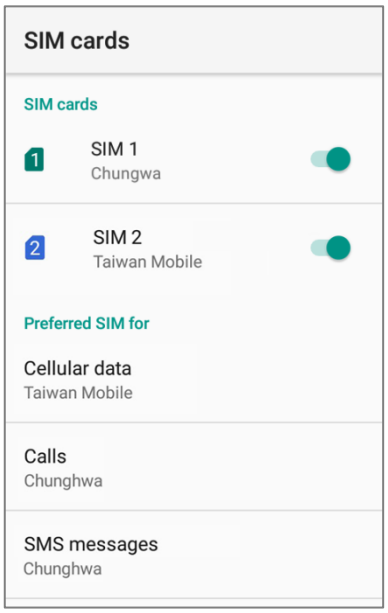
2 つのネットワークの電話をダイナミックに切り替えることができます。

着信が入った際は、片方の SIM を使用することはできません。

最初に SIM カードを端末に挿入、モバイルコンピュータの電源が入っている場合においては、電話機能が自動的に有効になり、SIM カード挿入確認が表示されます。

1) SIM カードマネジメント画面を開くには アプリ画面 | 設定 | SIM カード

2) SIM1 and SIM2 両方のカードが挿入している場合は、SIM cards 画面で有効にすることができます。
また、優先的にセルラーデータ、通話及び SMS の受信をする SIM カードを選択します。



注:

1) **2 枚の SIM カードが挿入され有効になっている場合、両方共受信可能です。同時に接続することはできません。**

2) **10 度下向き読取モデル には1つの SIM スロットと1つの SIM/SAM スロット(オプション)**
70 度下向き読取モデル (RK25J)には 2 つの SIM スロットがそれぞれ装着されています。

セルラーネットワークの設定

1) アプリ画面 | 設定 |データ使用量 、で をタップ、“モバイルネットワーク”を選択
または
アプリ画面 | 設定 | 詳細 、で“モバイルネットワーク”をタップ

2) モバイルネットワーク設定ページで下までスワイプ。
“携帯通信会社”をタップすると、
利用可能なネットワークリストアップされる。

3) 優先するネットワークを選択もしくはデフォルトの自動選択に設定

4) 選択したネットワークが利用不可であると、以下の通知が表示され、ネットワークの選択を再度タップ

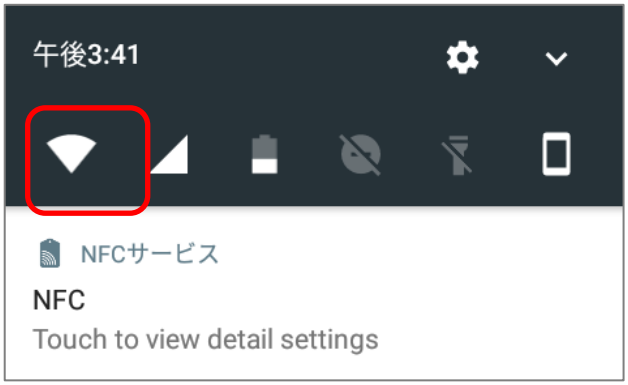
緊急通話

サービスプロバイダーにもよりますが、SIM カードがロックされている、あるいは SIM カードが挿入されていない場合でも、緊急通話が可能です。緊急通話番号は国により異なります。

5.2. 電話アプリ

5.2.1. 電話インターフェース

SIM カードが挿入されていると信号アイコンがステータスバーに表示され、接続の強さを表示します。

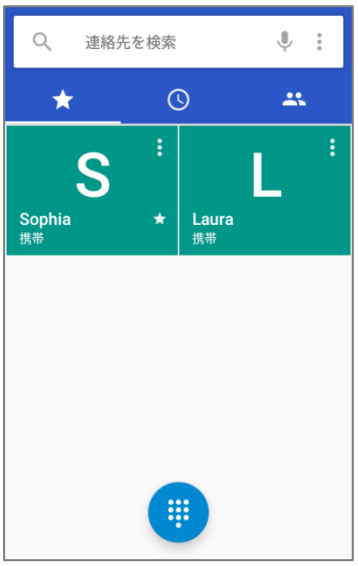


1) アプリ画面 | 電話 電話アプリが開く

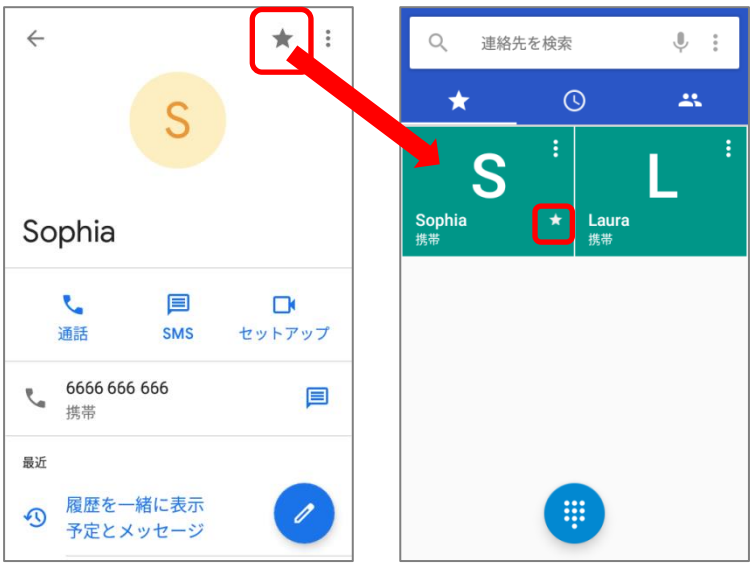
2) 設定ボタン ⋮ をタップし電話設定メニューを開く

3) をタップしてダイアルパッドを開く

★ タブページに良く掛ける連絡先が表示されます



追加するには アイコンをタップし、星印をタップ



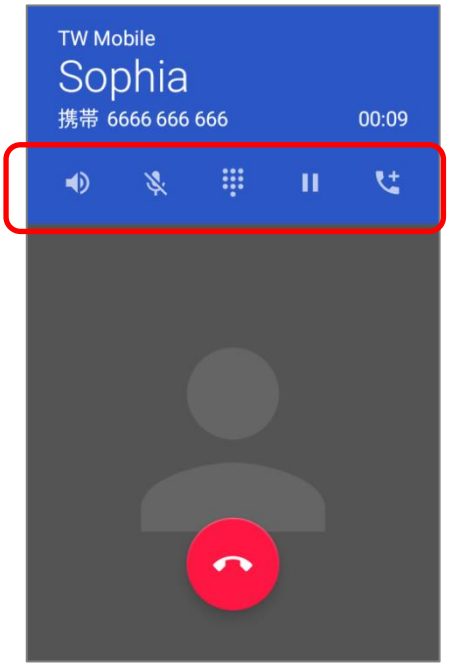
よく使う連絡先をクリアするには “よく使う連絡先のクリア”をタップ

5.2.2. 電話をかける

ダイアルパッドで電話番号を入力、をタップして通話を始めます。 再ダイヤルが必要な時は をタップし”2秒間の停止を追加”（ソフト休止）または”待機を追加”（ハード休止）を選択します。

5.2.3. 通話中の操作

通話が接続されると、電話キーパッド次の機能を表示します。

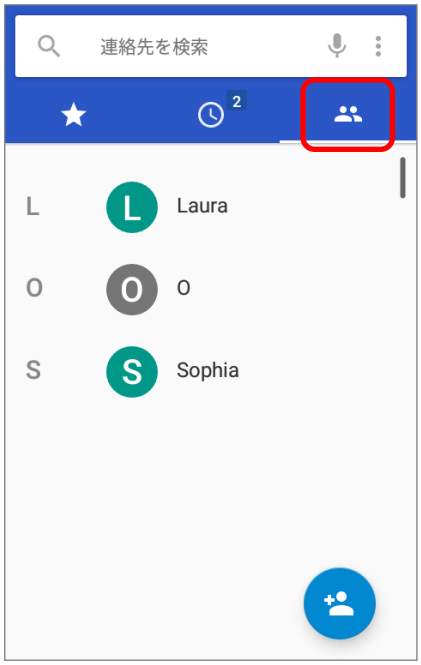


ボタン	説明
	スピーカ ON
	ミュート
	ダイヤルパッドを開く
	通話を保留
	他の人間を通話に参加させる

電話帳から電話をかける

1) 電話アプリページで をタップ

2) 連絡先をタップして通話開始



5.2.4. 電話を受ける

電話が掛かって来た時は 電話に出る をタップします。

かかってきた電話は電話アプリに履歴が記録されます。

電話に出られなかった場合は通知が表示されます。

ミュートするには音量ボタンを下げます。

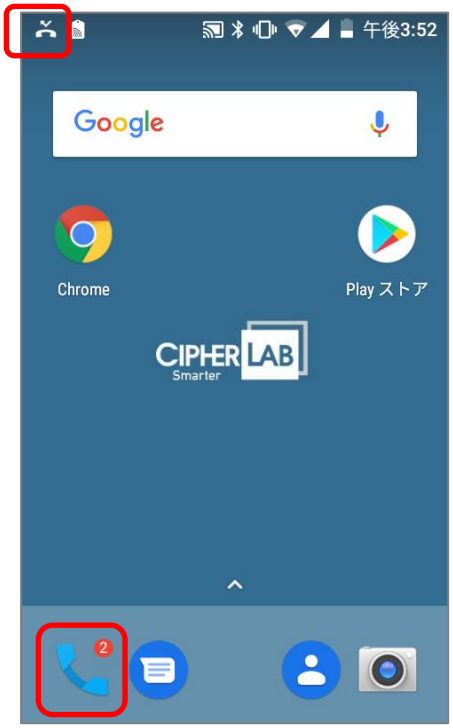
5.2.5. 不在着信をチェック

電話にでられなかった場合、通知アイコン が表示され、電話番号も表示されます。

1) 電話アプリで

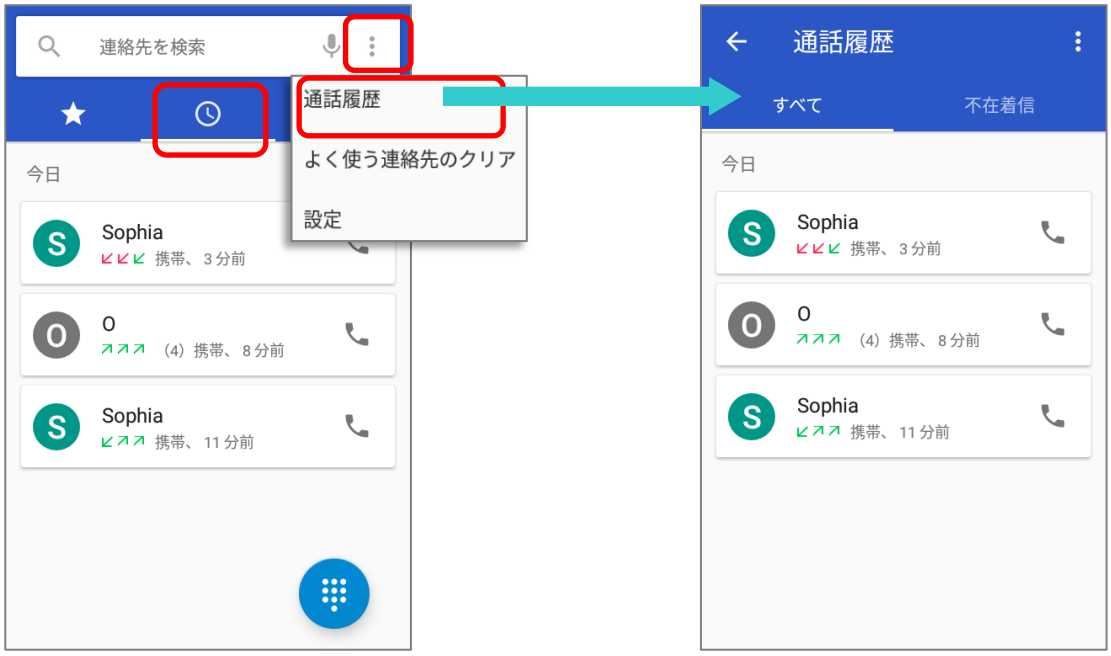
2) ロック画面

(この機能を on/off するには アプリ画面 | 設定 | 通知 | 設定 | ロックスクリーン)



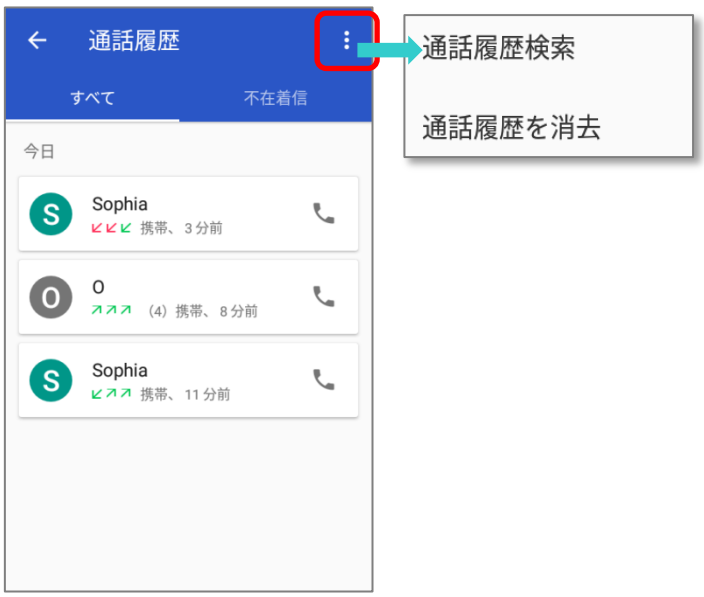
5.2.6. 通話履歴

1) 電話アプリで履歴ボタン をタップして履歴を開く。または設定ボタン をタップして通話履歴をタップ



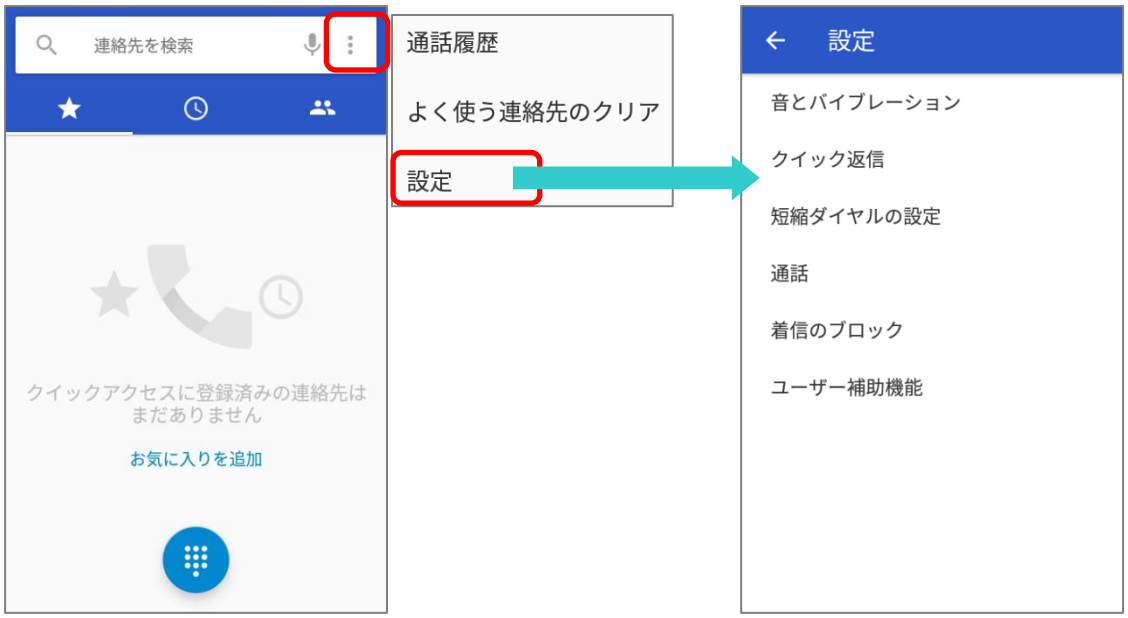
ボタン	説明
↙ ↗	接続した通話
↙ ↗	不在通話

2) 履歴通話の横の をタップして返電



5.2.7. 通話設定

をタップして”設定“を選択して設定ページに移行します



それぞれをタップして設定します。

5.2.8. グループ通話

1) 電話アプリページで1番目の通話を タップして始めます。

2) その後追加通話 をタップして他のメンバーを加える。最初の通話は保留となります。

3) 履歴から、あるいは電話帳から2番目のメンバーとの通話を始めます。

4) 2番目の通話が接続されても1番目の通話は保留中。マージコールボタンをタップして1番目のメンバーが会話に参加、3 名での会話が開始されます。

- 4 名での会話も上記と同様に と で可能です。
- Manage Conference Call をタップして全参加者を表示します。
- メンバーを外すにはメンバー名の横の をタップします。
- 特定なメンバーとプライベートに会話するときはメンバー名の横の をタップ、戻すには をタップ。

5.3. オーディオモード

3 つの異なるオーディオモードがあります

ハンドセットモード

デフォルトのモード、タッチスクリーンの上部から音声出力

スピーカーモード

内蔵のスピーカーから音声出力

ヘッドセットモード

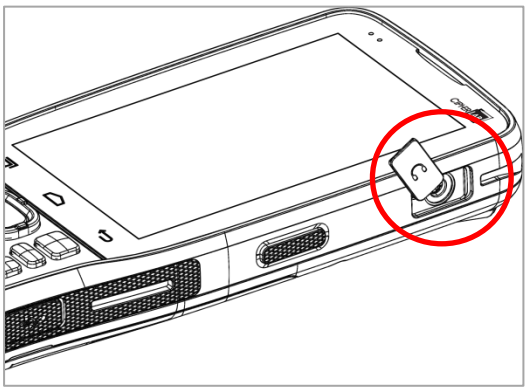
Bluetooth ヘッドセット、あるいはケーブル付きのヘッドセットを使います

BLUETOOTH ヘッドセット

Bluetooth を参照

ケーブル付きヘッドセット

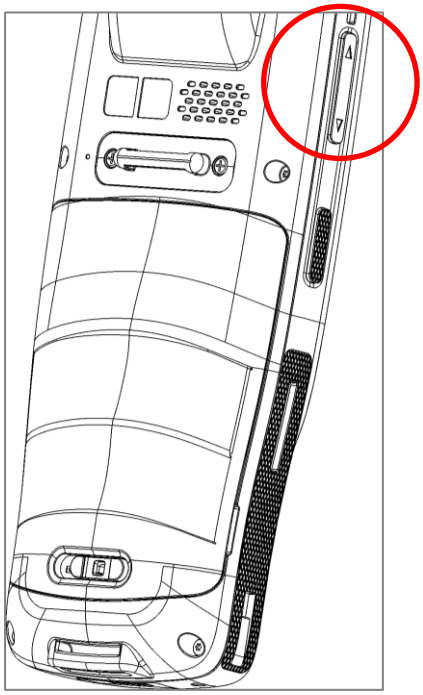
ヘッドセットジャックにコネクターを差し込みます



5.4. 通話音量の調整

音量調整ボタンで、呼び出し音やシステム音レベルを調節できます。

通話中に音量ボタンで通話中の会話の音量も調整できます。



第 6 章

リーダー設定ユーティリティー

本章の内容

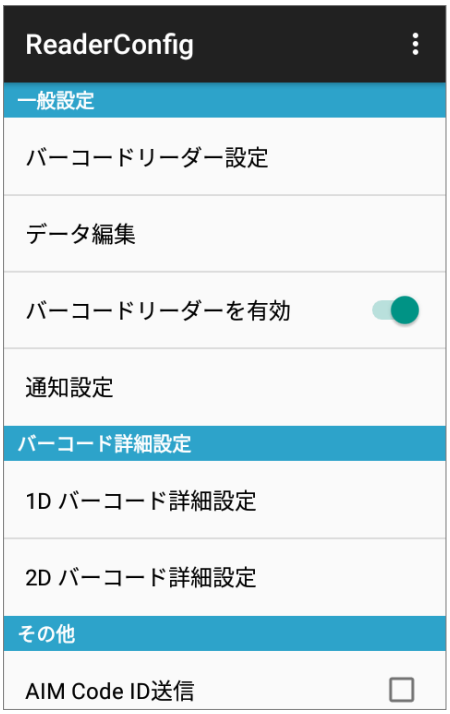
6.1 リーダーの設定 175
6.2 印刷されたバーコードの読み取り 192

6.1. リーダーの設定

リーダー設定の起動

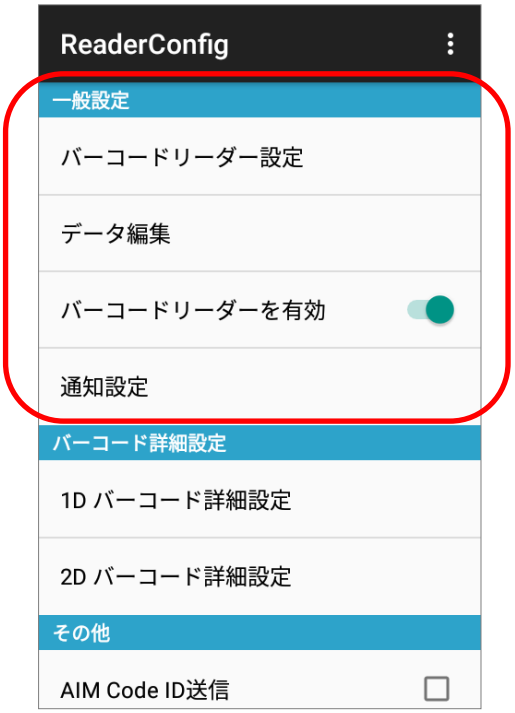
1) アプリ画面 | リーダー設定 でリーダー設定ユーティリティーを開く

2) モバイルコンピュータに搭載のリーダーモジュールに従ってリーダー設定は起動します。
メイン設定ページは 3 つのセクションからなっています。



6.1.1. 一般設定

一般設定は全てのリーダーの設定です。それぞれの項目をタップしてサブメニューに移行します。



一般設定では次の機能を設定します

- スキャナー設定
- データ出力
- 有効なリーダー (デフォルトで有効)
- 通知設定

スキャナーの設定

スキャナー設定ページのオプションは、モバイルコンピュータに搭載のスキャンエンジンにより異なります。

スキャナー設定ページを開くには

1) リーダーコンフィグを開く

2) スキャン設定をタップ（ Scanner Preferences）

2D イメージャーの設定

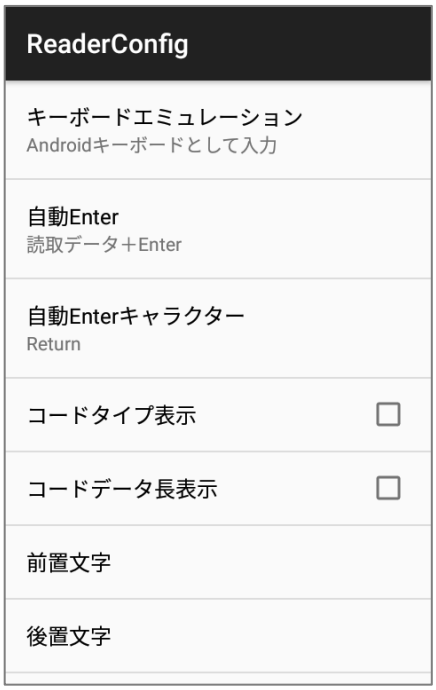
<table>
<tr><th>設定</th><th>説明</th><th>デフォルト</th></tr>
<tr><td>デコードタイムアウト時間</td><td>スキャンしている間のデコーディングの最長時間を設定、1～9秒</td><td>3 秒</td></tr>
<tr><td>冗長性のレベル</td><td>Codabar、MSI、Interleaved 2 of 5 などのリニアバーコードを読み取るとき、
その冗長性を確保するため、複数回読み取ってそれらがすべて同一であった場合に正しく読み取れたこととします。レベルは1～4で選択できます。</td><td>Level 1</td></tr>
<tr><td>セキュリティレベル</td><td>Code 128、 Code 93、UPC/EAN などのバーコードの印刷品質を考慮して、
読取り精度を保証するセキュリティレベルを設定します。レベルが高いほど精度は向上します。
オプションは以下の通りです
<table>
<tr><th>レベル</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>0</td><td>デフォルトはゼロ。ほとんどの バーコード規格に則ったバーコードを読み取ることができます</td></tr>
<tr><td>1</td><td>誤った読取りが発生した場合は、このレベルを選択します。ほとんどの読み取りを修正できます</td></tr>
<tr><td>2</td><td>レベル 1 で読取りミスを回避できない場合は、このレベルを選択します。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>読取りミスをセキュリティレベル2でも回避されない場合はこのレベルを選択します。（より安全な解決策は、読み取るバーコードの印字品質を向上することが必要です。）</td></tr>
</table></td><td>Level 0</td></tr>
<tr><td>キャラクター間
ギャップサイズ</td><td>コード 39 と Codabar のための文字間のギャップサイズを設定します。このオプションは、不適切にプリントアウトされた規格外のバーコードを許容するように、デジタルスキャナは、そのデコード標準を調整することができるようにすることです(文字間のサイズが大きくなるおそれがあります)。ノーマルとラージの間で切り替えます。</td><td>ノーマル</td></tr>
<tr><td>スキャンモード</td><td>リーダーのスキャン動作を設定します。
Level: トリガーキーが押されたとき読取りを開始し、読取りに成功するか、または設定された時間が経過するとスキャンを停止します。デコードプロセスは、トリガイベントによって起動され、トリガイベントが終了すると、有効なデコードが発生するか、またはデコードセッションのタイムアウトまで続きます。</td><td>Level</td></tr>
<tr><td>デコーディング
イルミネーション</td><td>バーコード読み取りのために LED 光を有効にします。</td><td>有効</td></tr>
<tr><td>デコードエイミング
パターン</td><td>バーコード読み取りを容易にするために、レーザー光線の中心に十字線を投影します。</td><td>有効</td></tr>
<tr><td>ピックリストモード</td><td>レーザー光線の十字線に位置するバーコードのみがデコードされます。</td><td>無効</td></tr>
<tr><td>画面読取りモード</td><td>電子ディスプレイや携帯電話画面上のバーコードの読み取りを向上させます。</td><td>無効</td></tr>
<tr><td>反転バーコード</td><td>反転バーコードの読み取りを無効または有効にするか、もしくは自動にするかを選択します。</td><td>正転のみ</td></tr>
<tr><td>アドオン冗長性</td><td>UPC / EAN アドオンに「自動判別」が適用されたときの機能です。有効な読み取りとみなすために、同じバーコードを複数回読み取る回数を決定します。 2～30 の間で設定可能です。</td><td>10</td></tr>
<tr><td>イルミネーション
パワーレベル</td><td>LED イルミネーションの輝度を0～10で設定します。</td><td>10</td></tr>
</table>

データ出力

デコードしたデータの出力法を設定できます

データ出力設定ページを開きます開きます

1) リーダーコンフィグ を開く
2) データ出力（Data Output）をタップ



データ出力先

キーボードエミュレーションでデコードしたデータの出力先を設定します

設定	説明	デフォルト
キーボードエミュレーション	スイッチをタップして有効にします。有効になると、読み取ったデータをテキストとして扱い、モバイルコンピュータのアクティブアプリケーションに出力します。オプションは以下の通りです: ▸ なし ▸ 入力メソッド ▸ キーイベント	入力メソッド

出力方法

デコードしたデータの出力フォーマットを設定します

設定	説明	デフォルト
自動 Enter	読み取ったデータの文字列の前または後に【Enter】付加します。 オプションは以下の通りです: ▸ 無効にする ▸ データ+ [Enter] ▸ [Enter]+データ	データ+ [Enter]
自動キーコード	デコードされたデータの前または後にキーコードを付加します。 オプションは以下の通りです: ▸ なし ▸ Carriage Return ▸ Tab ▸ Space ▸ Comma ▸ Semicolon	Carriage Return
コードタイプの表示	出力データの後ろにコードタイプを付加	無効
コード長さ表示	出力データの前にコード長さを付加	無効
プレフィックス	出力データの先頭に 0～10 個の文字を付加します。ラベルをタップすると、プレフィックス文字を選択するため文字表が開きます ▸ 不可視文字を含むプレフィックスがサポートされています。	--
サフィックス	出力データの末尾に 0～10 個の文字を付加します。ラベルをタップすると、サフィックス文字を選択するための文字表が開きます。 ▸ 不可視文字を含むサフィックスがサポートされています。	--
フィールド区切り文字	バーコードタイプ、読み取ったデータ、およびコード長（該当する場合）を区切るための区切り文字を設定します。 オプションは以下の通り ▸ なし ▸ Comma ▸ Semicolon ▸ Full stop	なし
バーコード文字セット	バーコードデータの文字セット	UTF-8
以前に入力されたデータの削除	有効にすると最後にスキャンされたデータのみが出力されます	無効

リーダーを有効にする

スイッチでリーダースキャニングを有効/無効に切り替えます。

有効の時、トリガー（スキャンキー）が押されるたびにスキャンウインドウから光が照射されます。

通知の設定

通知設定で視覚・聴覚・触覚フィードバックを用いて、スキャンの読み取りが成功したことを知らせます。

1) リーダーコンフィグ を開きます

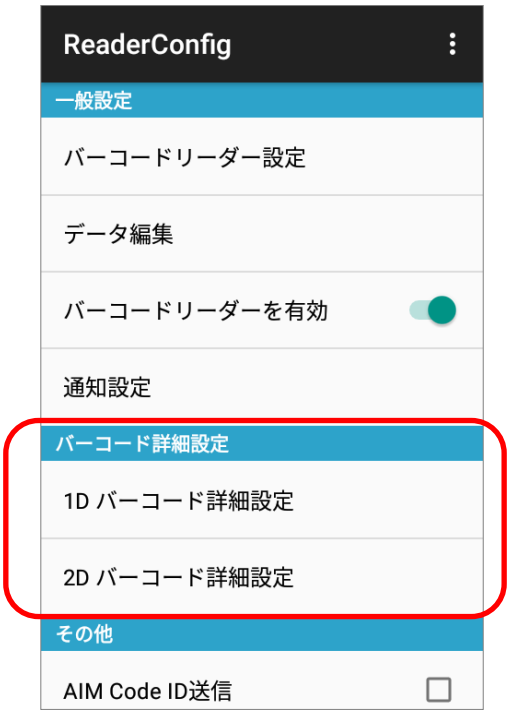
2) 通知設定をタップ

設定		説明	デフォルト
LED	読み取り成功時に LED 点灯	読み取り成功時に LED（左側）点灯を有効/無効にするか選択詳細参照 通知 LED	無効
バイブレーター	読み取り成功時に振動	有効/無効、振動時間設定	無効
ビーパー	読み取り成功時にビープ音	有効/無効設定、サウンド１～９の選択	サウンド 1

6.1.2. バーコードシンボル

読み取れるシンボルの設定、機能の有効/無効を設定します。

- スタートストップキャラクターのカスタマイズ、転送
- チェックデジットの検証/転送
- アドオンデジットの有効/無効
- 他のシンボルへ変換
- シンボルIDの転送

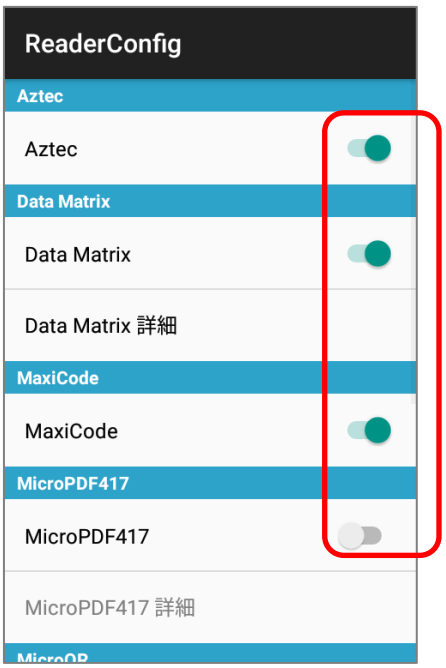


シンボル設定ページを開くには

1) リーダーコンフィグを開く
2) 1D シンボルまたは 2D シンボルをタップしてデコードできるシンボルのリストを表示

1D バーコードシンボル

2D バーコードシンボル

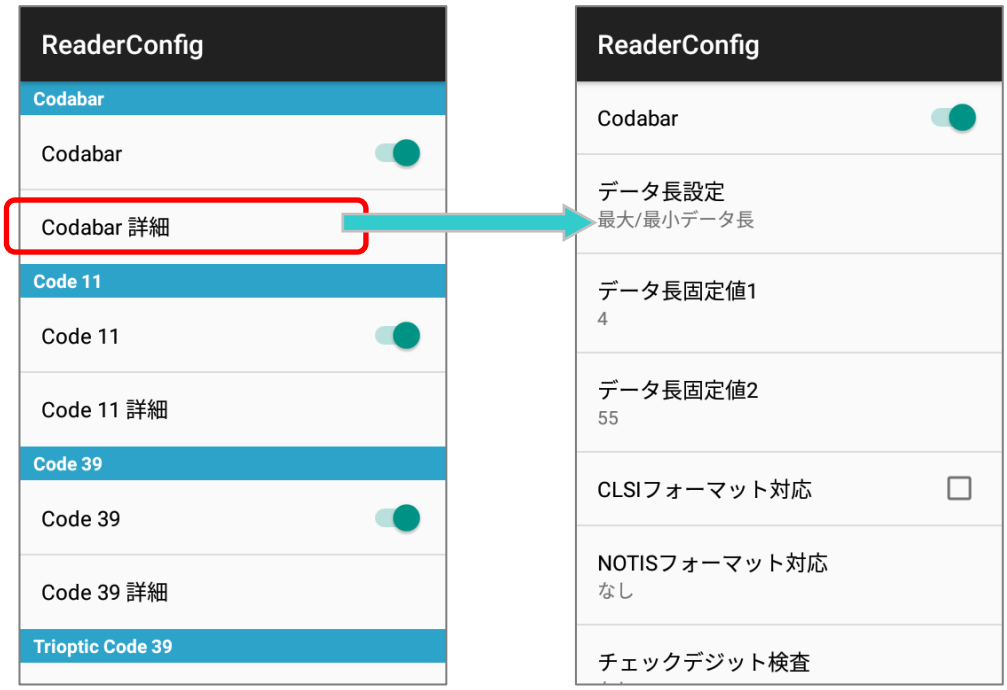


シンボルの有効/無効の設定

それぞれのシンボルをタップして有効/無効を設定します

シンボルの詳細設定

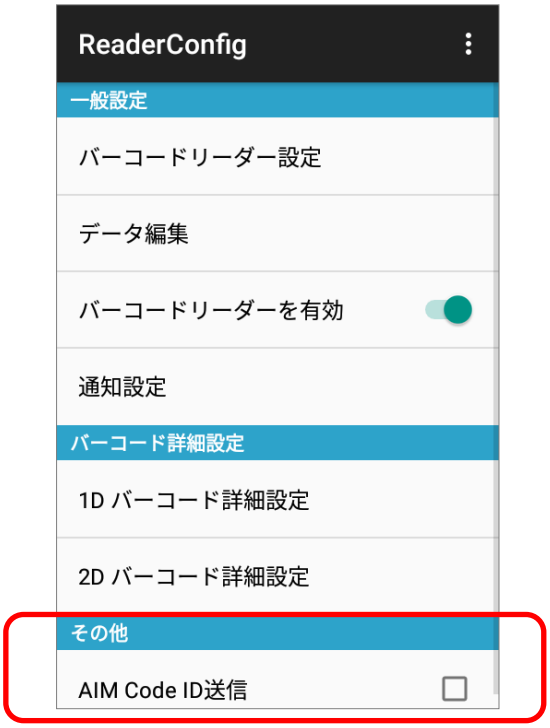
シンボル名の下の詳細をタップしてそれぞれのシンボルの詳細を開きます



それぞれの詳細機能に付いては 2D イメージャーシンボル設定を参照して下さい。

6.1.3. その他

スキャンしたバーコードの識別のコードIDの有効化について



設定	説明	デフォルト
AIM Code ID の転送	AIM code ID キャラクターをデコードしたデータに付加するか設定	無効

6.1.4. リーダー設定のオプションメニュー

リーダーコンフィグのメイン設定ページのメニューバーでオプションメニューを開くことができます。
そこからテストスキャン、全ての設定のインポート/エクスポート、すべての設定の工場出荷時設定に
設定、バージョン情報などが設定できます。

スキャンテスト

1) リーダーコンフィグを開く

2) 設定ボタン をタップしてオプションメニューを開く

3) スキャンテストをタップ、スキャンテスト用のページが開く

インポートとエクスポート

設定を保存し.json ファイルとしてエクスポートできます。

また以前にエクスポートされたシンボルとスキャナー設定は再びモバイルコンピュータに、
インポートすることができます。これにより多数の端末にスキャナー設定を展開することができます。

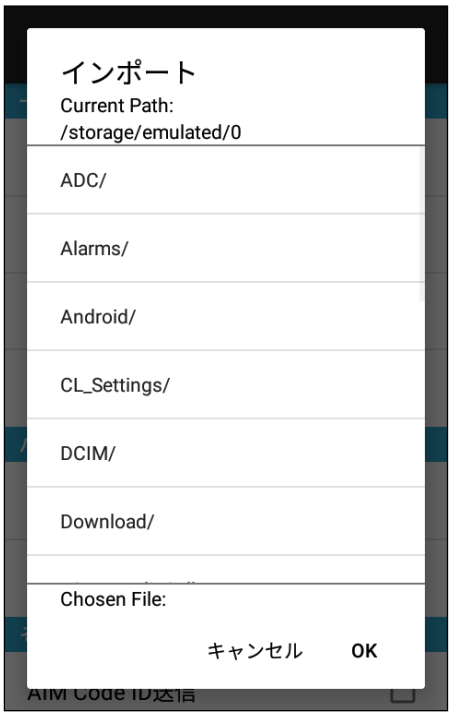
インポートするには

1) リーダーコンフィグ を開く

2) 設定ボタン をタップし オプションメニュを開く

3) インポートをタップ

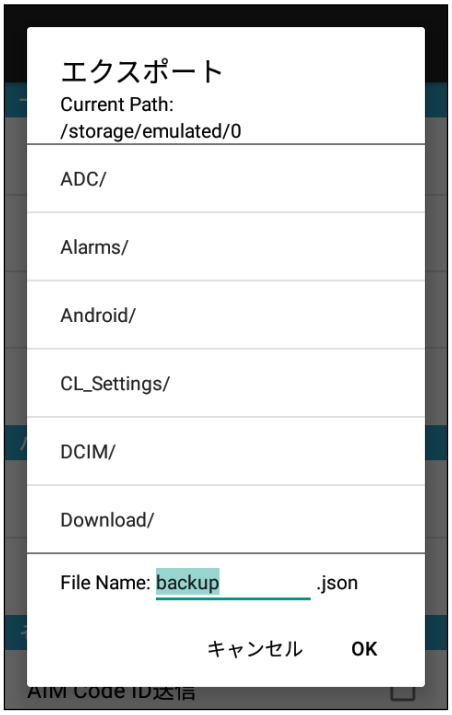
以前に保存したプロファイルを選択するページが開く



4) OK をタップ、数秒後に設定は正常にインポートされたというメッセージが表示される。

エクスポートするには

1) リーダーコンフィグを開く
2) 設定ボタン をタップし、オプションメニューを開く
3) エクスポートをタップ
4) エクスポートページが開き、保存するプロファイルの名前とロケーションを入力



5) OK をタップ、正常にエクスポートされたというメッセージが表示される。

デフォルト設定に戻す

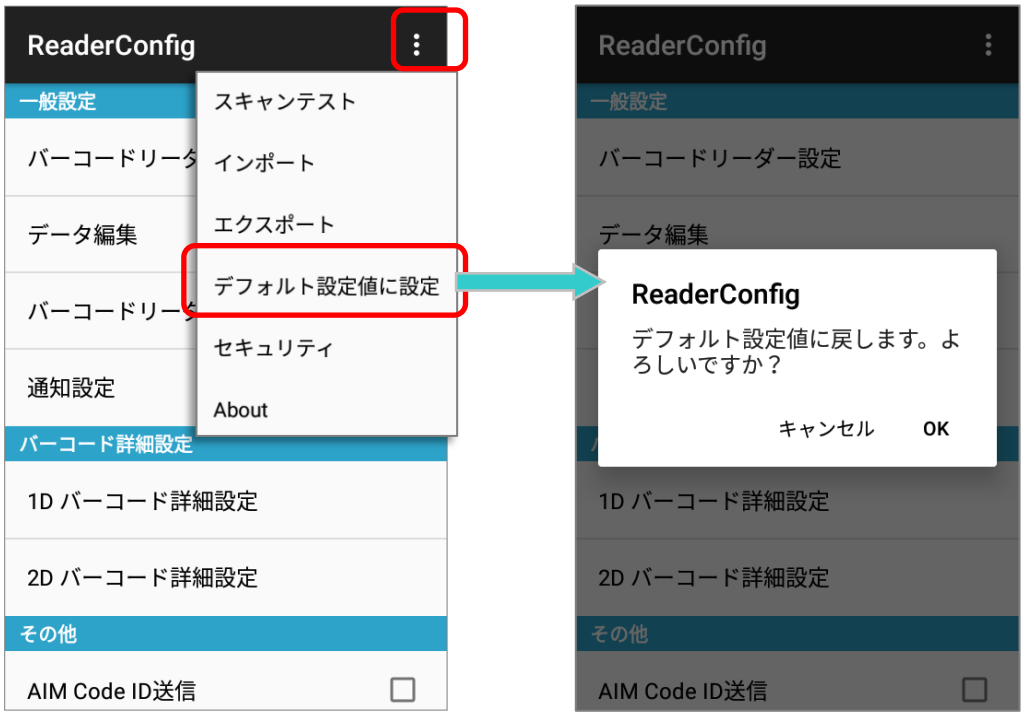
すべての設定をデフォルト設定に戻します

デフォルト設定に戻すには

1) オプションメニューのデフォルト設定に戻すをタップ

2) ”デフォルト設定値に戻します。よろしいですか？”という確認メッセージが表示される

3) OK またはキャンセルをタップ



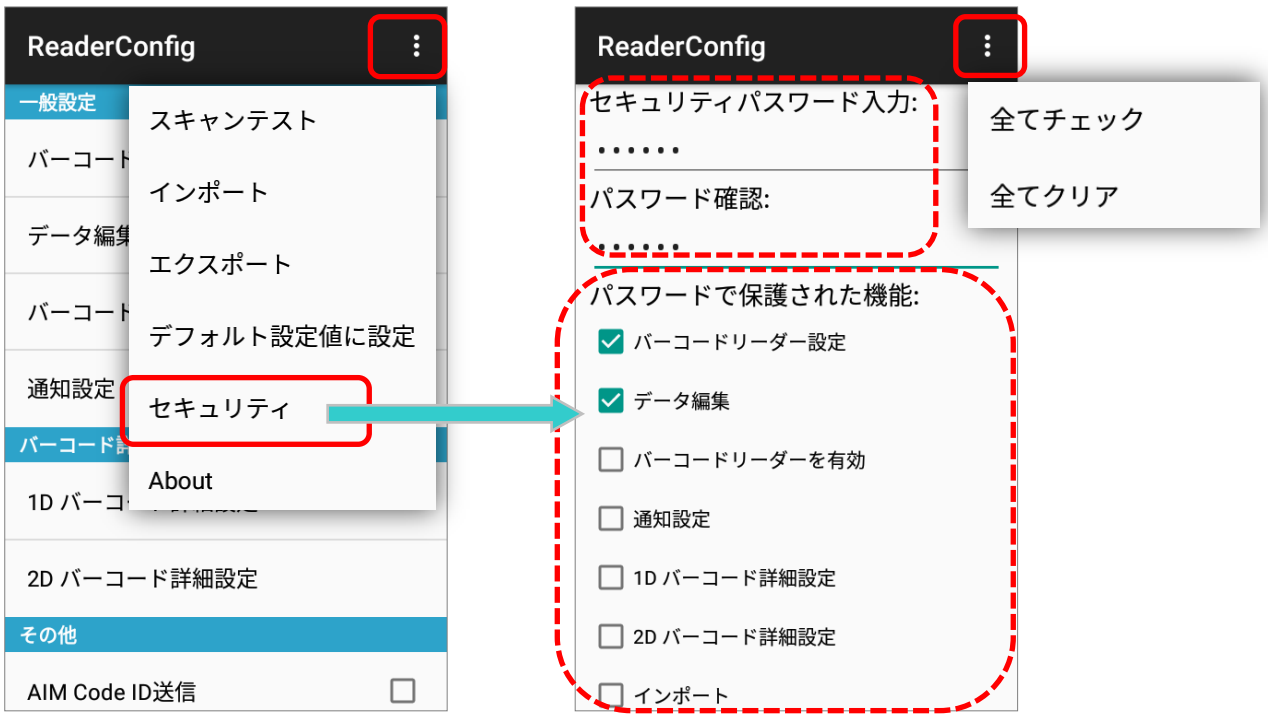
セキュリティー

パスワードを設定して、他人による設定の変更や機能へのアクセスなどを防ぐことができます。

1) オプションメニューのセキュリティーをタップ

2) パスワードを入力（最大32桁、少なくとも数字、アルファベットを1桁）

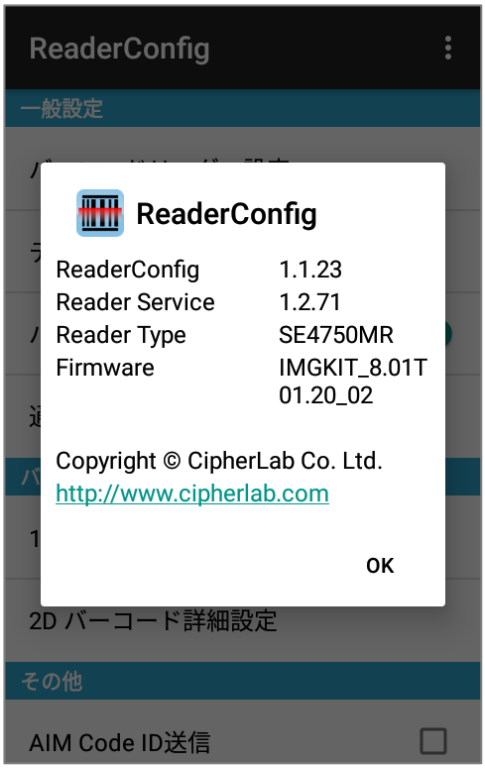
3) パスワードで保護される項目をチェック



ABOUT

リーダーコンフィグ のオプションメニューの About をタップ。

ソフトウエアのバージョン情報が表示されます。



6.2. 印刷されたバーコードの読み取り

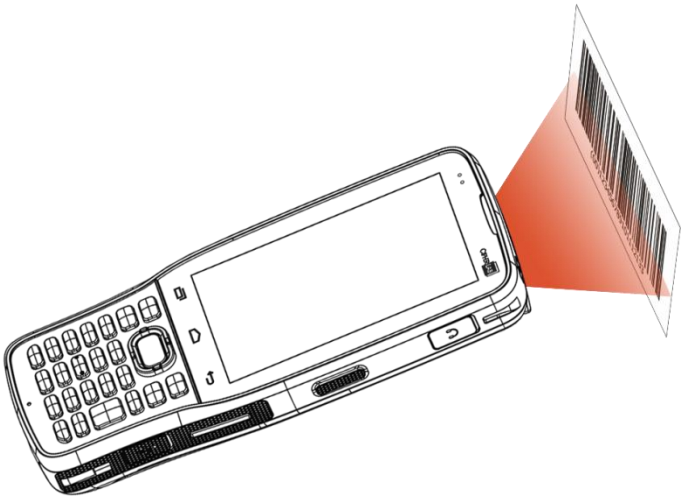
スキャンテストで読み取ったデータを素早く見ることができます。

スキャンテストを実行するには

1) リーダーコンフィグ の ボタンをタップしてオプションメニューを開きます。

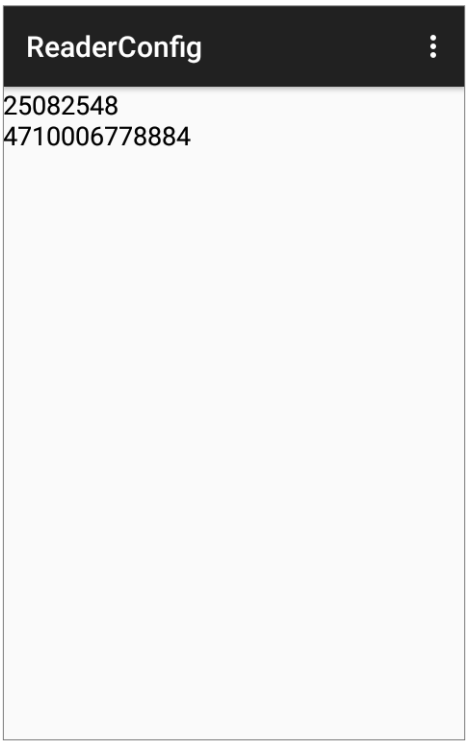
2) スキャンテストをタップ、読み取ったデータを表示するテストスキャンの画面が開きます。

3) 左右どちらかのトリガーを押してバーコードを読み取る。スキャニングライトが照射され、
バーコードがデコードされる、あるいはデコードタイムアウト時間を経過すると照射がとまります。



デコードされたデータがページに表示されます。 をタップしてスキャンテストを終了するか、あるいは ボタンをタップすると「保存」または「全てクリア」のメニューが表示されます。

デコードされたデータをtxtファイルとして保存、または画面上のデータを全てクリアするかを選択します。



仕様

プラットフォーム、プロセッサ、メモリー

OS と CPU

OS バージョン	Android 7.0 Nougat with GMS Certified
CPU	4x Cortex A53 Quad core 1.45GHz

メモリー

ROM	16GB eMMC(MLC) / ユーザーデータ 10GB
RAM	2GB LPDDR3 SDRAM
拡張スロット	Micro SDHC カードスロット (最大 32GB) SDXC サポート (最大 64GB) 70度下向き読み取りモデル: Micro SIM ソケット x2 もしくは 10度下向き読み取りモデル: Micro SIM ソケット x1, Micro SAM ソケットx1

通信、データ取得

通信

USB Client	USB 2.0 OTG
WPAN	Bluetooth Class II, v4.1 and v2.1+EDR (2402~2480 MHz: 4.05dBm)
WLAN	802.11 b/g/n and 802.11 a/ac/n networking (2412～2472 MHz: 18.34dBm 5180～5240MHz: 17.04dBm, 5260～5320MHz: 17.04dBm, 5500～5700MHz: 17.01dBm)
WWAN	Built-in WWAN modem for Quad-band GSM, UMTS, LTE functions: GSM/GPRS/EDGE/WCDMA/UMTS/HSDPA/HSUPA/HSPA+/LTE **Frequency band** GSM: Quad Band(850/900/1800/1900Mhz) TD-SCDMA: Band34, Band39 WCDMA: Band1, Band2, Band5, Band8, TDD-LTE: Band38, Band39, Band40, Band41 FDD-LTE: Band1,Band2, Band3, Band5, Band7, Band8, Band20
GPS	GPS, GLONASS, BeiDou, AGPS

データ・イメージ取得

デジタルカメラ	8 Mega pixels リアーカメラ、調整可能なフラッシュ
バーコードリーダー	2D イメージャー
HF RFID リーダー	HF RFID 13.56 MHz (-1.17 dBuA/m at 10m) ISO14443A, ISO14443B, ISO15693, Felica ▶ NFC (Peer-to-Peer, Card Reader, Card Emulation)

電気的特性

Li-Polymer

メインバッテリーパック	Li-polymer 充電池 3.8V, 4000 mAh 充電温度: 0-40°C 最短充電時間: 4 時間@25°C 初めて充電するときは、少なくとも8～12時間充電してください。充電温度は0℃から40℃ですが、室温（18℃から25℃）での充電をお勧めします。周囲温度が0℃以下、あるいは40℃以上になったとき、バッテリーの充電は中止します。
バックアップバッテリー	Li-Polymer 充電池 3.7V, 60 mAh データ保持時間 30 minutes 充電時間: 4 時間

電源アダプター

電源アダプター	入力	AC 100~240 V, 50/60 Hz
	出力	DC 5V, 2A BSMI, CCC, FCC, CE, RCM, PSE, PSB

動作時間

10 時間（25℃にて）

物理的特性

タッチスクリーン

ディスプレイ	4.0 inch, LCD, Corning Gorilla Glass 3
解像度	800(RGB) X 480 Pixel

通知機能

固定 LED 2個	二色 LED（緑＆赤） 電源インジケータ 二色 LED（緑＆赤） リーダーとシステムの通知インジケータ
オーディオ	スピーカーとマイクロフォン一体型。エコー・ノイズキャンセリング機能

寸法、重量

寸法	168 mm (L) x 73.8mm (W) x 25.85mm (H)
重量	292g (4000mAh バッテリーパック、4750SR リーダ含む) ±5g

環境特性

温度

動作温度	-20°C to 50°C
保存温度	-30°C to 70°C
充電温度	0°C to 40°C

湿度

動作時湿度	10% to 90% (結露なきこと)
保存時湿度	5% to 95% (結露なきこと)

耐性

衝撃耐性	落下耐性　高さ1．5m、6面、コンクリート面
タンブルテスト	0．5m、150回タンブルテスト（IEC タンブルテスト試験）
防水防塵性	IP65
静電気耐性	±15 kV 気中、 ±8 kV 接触

プログラミングサポート

開発、環境、ツール

JAVA	環境 Android studio ソフト開発キット: JAR
C#	環境: Visual Studio ソフト開発キット: DLL (Xamarin Library)

ソフトウエアー、ユーティリティー

ソフトウエパッケージ	Reader Config Software Trigger Mobile Deployment Suite for Android App Lock Xamarin Binding Button Assignment HF RFID Configuration Signature Capture Terminal Emulation

APPENDIX I

スキャンエンジン設定

Reader Configuration では以下のエンジンを設定します。

- 2D イメージャー

サポートしているバーコードシンボル

以下のバーコードシンボルをサポートしています。詳細は Appendix II を参照して下さい。

		2D
Codabar		
Code 11		
Code 39	**Code 39**	
	Trioptic Code 39	
	Italian Pharmacode (Code 32)	
Code 93		
Code 128	**Code 128**	
	GS1-128 (EAN-128)	
	ISBT 128	
Code 2 of 5	**Chinese 25**	
	Industrial 25 (Discrete 25)	
	Interleaved 25	
	Convert Interleaved 25 to EAN-13	
	Matrix 25	
Composite Code	**Composite CC-A/B**	
	Composite CC-C	
	Compostie TLC 39	

GS1 DataBar (RSS)	**GS1 DataBar-14 (RSS-14)**	
	GS1 DataBar Limited (RSS Limited)	
	GS1 DataBar Expanded (RSS Expanded)	
	Convert to UPC/EAN	
Korean 3 of 5		
MSI		
Postal Codes	**Australian Postal**	
	Japan Postal	
	Netherlands KIX Code	
	US Postnet	
	US Planet	
	USPS Postal	
	UPU FICS Postal	
	UK Postal	
EAN/UPC	**EAN-8**	
	EAN-8 Extend	
	EAN-13	
	Bookland EAN (ISBN)	
	ISSN EAN	
	UPC-A	
	UPC-E	
	Convert to UPC-A	
	UPC-E1	
	Convert to UPC-A	

Coupon Code		
2D Symbologies	**Aztec**	
	Data Matrix	
	Maxicode	
	MacroPDF	
	MicroPDF417	
	MicroQR	
	PDF417	
	QR Code	

APPENDIX II

2D イメージャー

2D イメージャーがサポートしているバーコードシンボルの設定リストです。

シンボルの設定

1D シンボル

シンボル	説明	デフォルト
CODABAR		
CodaBar		有効
Codabar	有効/無効	有効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▶ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▶ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▶ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▶ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)
CLSI 編集	有効の時：スタート/ストップキャラクターを外し、14桁の Codabar の1番目、5番目10番目のキャラクターに[Space]を挿入 ▶ 14桁バーコードの長さにはスタート/ストップキャラクターを含みません	無効
NOTIS 編集	転送するデータにスタート/ストップキャラクターを含むか否かを設定 ▶ 編集を有効にすると、スタート/ストップキャラクターを外すので、“スタート/ストップキャラクターを転送する”を無効にするのと同意	無効
NOTIS 編集タイプ	オプションは　なし、 ABCD/ABCD、 abcd/abcd “NOTIS 編集”は有効にすべきです	なし
チェックデジットの検証	Modulo 43 チェックデジットを検証するか選択。チェックデジットが正しくないとバーコードは受け入れられません	なし
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含むかどうか指定 “チェックデジットの検証“は有効にしてください	有効

CODE 11		
Code 11		有効
Code 11		有効
チェックデジットオプション	チェックデジットを検証するか選択。チェックデジットが正しくないとバーコードは受け入れられません ▶ 無効 ▶ 1個のチェックデジット ▶ 2個のチェックデジット	無効
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択 ▶ “チェックデジットオプション”は有効にしてください	無効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▶ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▶ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▶ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▶ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)
CODE 39		
Code 39		
Code 39		有効
Trioptic Code 39	Trioptic Code 39 をデコードするか指定 ▶ Trioptic Code 39 は Code 39 の変形で、コンピュータテープカートリッジのマーキングに使われ、6キャラクターで構成されます	無効
Code 32 に変換	デコードしたデータを Italian Pharmacode に変換するか指定	無効
Code 32 プレフィックス	プレフィックス“A”を Code 32 に付加するか指定 ▶ “Code32 に変換”を有効にしてください	無効
チェックデジットの検証	Modulo 43 チェックデジットを検証するか選択。チェックデジットが正しくないとバーコードは受け入れられません	無効
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択 ▶ “チェックデジットオプション”は有効にしてください	無効
Full ASCI のサポート I	Code 39 Full ASCII をデコードするか指定	無効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▶ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▶ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▶ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▶ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)

CODE 93		
Code 93		有効
Code 93		有効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▶ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▶ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▶ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▶ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)
CODE 128		
Code 128		有効
Code 128		有効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▶ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▶ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▶ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▶ 長さ指定せず	長さ指定せず
GS1-128		有効
GS1-128		有効
区切りキャラクター	▶ ファンクションコードを区切りキャラクターとして使う。	None
アプリケーション ID セパレーターをを有効にする。	▶ アプリケーション ID セパレーターを有効にする場合は ON にします。 それぞれ左、右セパレーターを設定できます。 ドロップダウンリストから入力方法を選択してください。 キーボード入力、キーボード入力(16 進)、シンボル入力で区切り文字を設定します。	
ISBT-128		有効
ISBT 128		有効
連結	ISBT データの連結で ISBT-128 をデコードするか設定 ▶ 無効: 連結しません ▶ 有効:すべての ISBT-128 バーコードを連結 ▶ 自動識別:連結を必要とするものかどうかを自動識別	自動識別
冗長性	“自動識別”を有効にしたとき同じバーコードを何回読んで正しいデータとするか指定。2～20回	10

CODE 2 OF 5		
Chinese 25		有効
Chinese 25		有効
Discrete 25		有効
Discrete 25		有効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▸ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▸ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▸ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▸ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)
Interleaved 25		有効
Interleaved 25		有効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▸ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▸ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▸ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▸ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)
チェックデジットの検証	チェックデジットを検証するか選択。チェックデジットが正しくないとバーコードは受け入れられません ▸ 無効 ▸ USS チェックデジット ▸ OPCC チェックデジット	無効
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	無効
EAN-13 に変換	14-桁の Interleaved 25 を EAN-13 に変換: ▸ ただしそのバーコードがゼロで始まり EAN-13 のチェックデジットが有効な時のみ	無効

Matrix 25		有効
Matrix 25		有効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▶ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▶ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▶ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▶ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)
冗長性	Matrix 2 of 5 の読み取りに冗長性を有効にするか指定	無効
チェックデジットの検証	チェックデジットを検証するか選択。チェックデジットが正しくないとバーコードは受け入れられません	無効
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	無効
COMPOSITE		
Composite CC-A/B		無効
Composite CC-A/B		無効
Composite CC-C		有効
Composite CC-C		有効
Composite TLC 39		無効
Composite TLC 39		無効
Composite General Preference		
UPC コンポジットモード	データ転送中に UPC バーコードは2D バーコードデータとリンクされます UPC リンクしない 2D バーコードが検知されてもリンクしない UPC 常にリンク UPC バーコードと 2D 部分が常にリンクされる。2D バーコードが検知されない場合は UPC バーコードデータは転送されない ▶ CC-A/B または CC-C を有効にしてください。 自動識別 2D バーコードがあればリンクする	UPC 常にリンク
GS1-128 エミュレーションモード	UCC/EAN コンポジットコードに対し GS1-128 エミュレーションモードを有効にする	無効

GS1 DATABAR		
GS1 DataBar-14		有効
GS1 DataBar-14		有効
		無効
セキュリティーレベル	GS1 DataBar 14 をデコードするときのセキュリティーレベルをレベル00から3までの間で設定	レベル 1
GS1 DataBar Limited		有効
GS1 DataBar Limited		有効
UPC/EAN に変換	GS1 DataBar のはじめの"010"を外して EAN-13 に変換する	無効
セキュリティーレベル	レベル1から4で選択	レベル 3
GS1 DataBar Expanded		有効
GS1 DataBar Expanded		有効
区切りキャラクター	ファンクションコードを区切りキャラクターとする	なし
セキュリティーレベル	レベル0から3で選択	レベル 1
KOREAN 3 OF 5		
Korean 3 of 5		無効
MSI		
MSI		有効
MSI		有効
バーコード長さ	デコードする長さの設定 ▶ 固定長さ1つ指定 (Length 1) ▶ 固定長さ2つ指定 (Length 1>Length 2) ▶ 最長/最短長さを指定 (0-55; Length 1<Length 2) ▶ 長さ指定せず	最長/最短長さ (4-55)
チェックデジットの検証	チェックデジットを検証するか選択。チェックデジットが正しくないとバーコードは受け入れられません ▶ 1個のチェックデジット ▶ 2個のチェックデジット	1個のチェックデジット
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	無効
アルゴリズム	2個のチェックデジット検証が設定されているとき以下の2つを選択 ▶ Modulo10 / Modulo11 ▶ Double Modulo 10	Double Modulo 10

POSTAL CODE		
Australian Postal		有効
Japan Postal		有効
Netherlands KIX Code		有効
US Postnet		有効
US Planet		有効
USPS Postal		有効
UPU FICS Postal		有効
UK Postal		有効
Postal General Preference		有効
US Postal Check Digit	チェックデジットを転送するか指定	有効
UK Postal Check Digit	チェックデジットを転送するか指定	有効
UPC/EAN		
EAN-8		有効
EAN-8		有効
Addon 2	Addon2付きの EAN-8 をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視
Addon 5	Addon5付きの EAN-8 をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	有効
EAN-13 に変換	EAN-8 を EAN-13 フォーマットに変換	無効
EAN-13		有効
EAN-13		有効
Bookland EAN	ISBN のデコーディングを有効にしたときは Bookland ISBN フォーマットを選択	無効
Bookland ISBN Format	10桁のフォーマットで 978 で始まるバーコードをデコード または 978/979 で始まる13桁のバーコードをデコード	Bookland ISBN-10
Addon 2	Addon2付きの EAN-13をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視
Addon 5	Addon5付きの EAN-13をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	有効
ISSN EAN	ISSN EAN デコーディングを有効	無効

UPC-A		有効
UPC-A		有効
Addon 2	Addon2付きの UPC-A をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視
Addon 5	Addon5付きの UPC-A をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視
Preamble	UPC-A のシステムキャラクター（および国コード）を送信するか設定 ▶ 送信しない ▶ 数字のみを送信 ▶ 送信する：キャラクターと国コードを送信	送信する
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	有効
EAN-13 に変換	EAN-8 を EAN-13 フォーマットに変換	無効
UPC-E		有効
UPC-E		有効
Addon 2	Addon2付きの UPC-E をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視する
Addon 5	Addon5付きの UPC-E をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視する
Preamble	UPC-E のシステムキャラクター（および国コード）を送信するか設定 ▶ 送信しない ▶ 数字のみを送信 ▶ 送信する：キャラクターと国コードを送信	送信する
UPC-A に変換する	UPC-A フォーマットに変換し UPC—A として設定	無効
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	有効

UPC-E1		無効
UPC-E1		無効
Addon 2	Addon2付きの UPC-1E をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視する
Addon 5	Addon5付きの UPC-E1をデコードするか設定 ▶ Addon を無視 ▶ 自動識別	Addon を無視する
Preamble	UPC-E1のシステムキャラクター（および国コード）を送信するか設定 ▶ 送信しない ▶ 数字のみを送信 ▶ 送信する：キャラクターと国コードを送信	送信する
UPC-A に変換	UPC-A フォーマットに変換し UPC—A として設定	無効
チェックデジットの転送	転送するデータにチェックデジットを含めるか選択	有効
Coupon Code		
Coupon Code		無効

2D バーコードシンボル

シンボル	説明	デフォルト
Aztec		有効
Aztec		有効
Data Matrix		有効
Data Matrix		有効
ミラーイメージをデコード	ミラーイメージデコードを有効/無効の指定 無効 デコードしない 常に有効 常にデコードする 自動 正常なバーコードとともにミラーイメージも両方ともデコードする	無効
区切りキャラクター	ファンクションコードを区切りキャラクターとする	None
Maxicode		有効
MicroPDF417		無効
MicroPDF417		無効
Code 128 エミュレーション	Code 128 バーコードとしてエンコードされた Micro PDF 417 データを送信する ▶ その他オプションで AIM code ID の送信を有効にしておいてください 有効にすると MicroPDF417 バーコードに以下のプレフィックスのいずれかが付加される: はじめのコードワードが 903-905 の時: オリジナルのコード ID "]L3"を "]C1"に変換される はじめのコードワードが 908 または 909 の時: オリジナル Code ID "]L4"が "]C2"に変換される はじめのコードワードが 910 または 911 の時: オリジナル Code ID "]L5"が "]C0"に変換される	無効
MicroQR		有効
PDF417		有効
QR Code		有効
QR Code		有効

その他

2D エンジン	説明	デフォルト
Miscellaneous Options		
AIM Code ID の送信	データに AIM Code ID を含めるか設定 AIM Code ID は3個のキャラクター列 “]cm” で構成される: ▶] = フラグキャラクター (ASCII 93) ▶ c = コードキャラクター ▶ m = 修飾キャラクター Refer to AIM Code ID.	無効

APPENDIX III

OPEN SOURCE LICENSE

The Reader Config involves the android-serialport-api project of Apache License Version 2.0, January 2004.

http://www.apache.org/licenses/

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the

copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.

3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:

   a. You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and

   b. You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and

   c. You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and

   d. If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License

   You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.

6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.

7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.

8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages

9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS